

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学の設置								
フリガナ設置者	がっくおほびん 材料シアイクアケイン 学校法人 大阪信愛女学院								
フリガナ大学の名称	材料シアイクアケインがく 大阪信愛学院大学 (Osaka Shin-Ai Gakuin University)								
大学本部の位置	大阪市城東区古市2丁目7番30号								
大学の目的	カトリック精神に基づき、「一つの心、一つの魂」をモットーに、豊かな人間性と幅広い教養を備え、生命倫理や生命の尊厳を大切にし、現代社会の要請にきめ細やかに対応し質の高い教育や保育、看護を実践できる人材の養成を目的とする。								
新設学部等の目的	教育学部の目的：教育・保育に関して幅広く深く学ぶことによって、現代社会の要請に応じた知識と実践力を身につけ、物事を正しく判断して行動し情熱を持ってすすんで社会に貢献できる心豊かな教育者・保育者を育成する。 看護学部の目的：人間に対する愛と尊厳、広い教養と深い見識に基づいて国内外において看護が求められるあらゆる場の多職種と連携協働しながら主体的かつ柔軟に活動できるヒューマンケア実践力のある人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	教育学部 Faculty of Education 教育学科 Department of Education	4年	80人	—年次人	320人	学士(教育学) Bachelor of Education	令和4年4月 第1年次	大阪市城東区古市 2丁目7番30号	
	看護学部 Faculty of Nursing 看護学科 Department of Nursing	4年	80人	—	320	学士(看護学) Bachelor of Nursing	令和4年4月 第1年次	同上	
	計		160	—	640				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大阪信愛学院短期大学(廃止) 子ども教育学科(△120名) 看護学科(△80名) ※令和4年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	教育学部教育学科	68科目	62科目	11科目	141科目	124単位			
看護学部看護学科	81科目	51科目	16科目	148科目	132単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設	教育学部 教育学科	7人 (6)	7人 (7)	4人 (4)	1人 (1)	19人 (18)	0人 (0)	59 (35)
		看護学部 看護学科	13 (10)	4 (2)	9 (7)	4 (3)	30 (22)	9 (4)	48 (27)
		計	20 (16)	11 (9)	13 (11)	5 (4)	49 (40)	9 (4)	— (—)
	既設	該当なし	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
		該当なし	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)
計		(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	(—)	
合計		20 (16)	11 (9)	13 (11)	5 (4)	49 (40)	9 (4)	— (—)	
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	16 (8)	6 (14)		22 (22)		人		
	技術職員	2 (1)	1 (2)		3 (3)		人		
	図書館専門職員	2 (1)	1 (1)		3 (2)		人		
	その他の職員	1 (0)	2 (2)		3 (2)		人		
計		21 (10)	10 (19)		31 (29)		保健センター		

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	9,773.00 m ²	2,028.96 m ²	11,317.00 m ²	23,118.96 m ²					
	運 動 場 用 地	0.00 m ²	12,679.66 m ²	0.00 m ²	12,679.66 m ²					
	小 計	9,773.00 m ²	14,708.62 m ²	11,317.00 m ²	35,798.62 m ²					
	そ の 他	63,478.00 m ²	492.98 m ²	0.00 m ²	63,970.98 m ²					
	合 計	73,251.00 m ²	15,201.60 m ²	11,317.00 m ²	99,769.60 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
		16,134.53 m ² (16,134.53 m ²)	9,954.23 m ² (9,954.23 m ²)	17,861.33 m ² (17,861.33 m ²)	43,950.09 m ² (43,950.09 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	27 室	演習室 30 ラーニング'commons' 3 室	9 室	2 室 (補助職員 1 人)	1 室 (補助職員 1 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数			教育学部研究室 個室17室, 共同 1室 看護学部研究室 個室27室, 共同 4室 大学全体で49室 (※共同=2名対応)			
		教育学部 教育学科		18 室						
		看護学部 看護学科		31 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	教育学部 教育学科	64,518 [4,519] (64,426 [4,427])	23 [3] (17 [0])	3 [0] (- [-])	4,880 (4,897)	310 (260)	20 (20)			
	看護学部 看護学科	45,131 [2,560] (44,850 [2,435])	27 [4] (20 [0])	4 [0] (- [-])	1,067 (1,041)	1,350 (1,150)	150 (128)			
	計	109,649 [7,079] (109,276 [6,862])	50 [7] (37 [0])	7 [0] (- [-])	5,947 (5,938)	1,660 (1,410)	170 (148)			
図 書 館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数				
		2,482.98 m ²		343		190,000				
体 育 館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
		4,556.13 m ²		テニスコート 2 面 屋内25mプール, 子ども用プール 各1面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※教授・准教授:250千円 講師・助教:200千円
		教員1人当り研究費等		250千円	250千円	250千円	250千円	—千円	—千円	
		共同研究費等		2,000千円	2,500千円	3,000千円	3,000千円	—千円	—千円	
		図書購入費	2,003千円	1,003千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円	
	設備購入費	13,848千円	4,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円	—千円	—千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※ 学生納付金は上から, 教育学部教育学科, 看護学部看護学科		
	1,310千円	1,120千円	1,120千円	1,120千円	—千円	—千円				
	1,750千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、補助金(私立大学等経常費補助金)収入、資産運用収入、事業収入そして雑収入を充当する							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	大阪信愛学院短期大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止
	子ども教育学科	2年	120人	—人	240人	短期大学士(初等教育)	0.38倍	昭和34年度	大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号	
看護学科	3年	80人	—人	240人	短期大学士(看護)	1.01倍	平成21年度			
附 属 施 設 の 概 要		<p>名 称：図書館・情報・教学IRセンター 目的：教育・研究及び学修に必要な資料の収集・保存・管理、ICTを活用した授業の支援、情報関連設備およびネットワーク環境の整備を行うとともに、教育に関する諸情報を収集・分析し、教育研究の向上に寄与することを目的とする。 所在地：大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号 設置年月：令和4年4月 規模等：土地522m²、建物2292.98m² 地上5階地下1階の建物に設置</p> <p>名 称：キャリア支援センター 目的：学生の修学、資格取得、就職支援などを行う。 所在地：大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号 設置年月：令和4年4月 規模等：土地3975m²、建物3727.47m²の大学1号館内1階に設置</p> <p>名 称：しんあい教育研究ケアセンター 目的：地域住民の健康や教育ニーズを満たすリカレント教育や研究を行う一方で、乳幼児から高齢者までの人々を対象に遊びや交流、ケアの場を提供する等の地域貢献を行う。 所在地：大阪府大阪市城東区古市2丁目7番30号 設置年月：令和4年4月 規模等：土地1808m²、建物6933.10m²の大学本館内1階に設置</p>								

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
宗教と人間	キリスト教と人間	1前	1			○									兼1	
	現代とキリスト教	1後	1			○									兼1	
	人間論(哲学)	3前	1			○									兼1	
	宗教論	4後	1			○									兼1	
	小計(4科目)			4	0	0	-			0	0	0	0	0	兼2	
	社会と人間	心理学	1前		1		○			1						兼1
		教育学概論Ⅰ	1前	1			○									兼1
		教育学概論Ⅱ	1前	1			○			2	1					オムニバス
		ライフサイエンス	1後	1			○			1						
		社会学	1後		1		○				1					
		サービスマーケティング	2通年	1				○			1	3	1			兼5 共同
		キャリア入門	1前	1				○				1				兼1 共同
セルフティプロモーション		2前		1		○									兼1	
生活と化学		1後		1		○			1							
社会と人権(日本国憲法)		1後	2			○									兼1	
ジェンダー論	2前		1		○				1							
生命倫理	1後	1			○									兼1		
小計(12科目)			8	5	0	-			4	2	3	1	0	兼9		
表現・行動と人間	くらしと色彩	1後		1		○						1				
	人と音楽	1前		1		○				1						
	音楽療法入門	4後		1		○									兼1	
	園芸療法入門	4後		1		○									兼1	
	体育講義	1前	1			○			1		1					
	体育実技	1後	1					○				1				
小計(6科目)			2	4	0	-			1	1	1	1	0	兼2		
情報と人間	文章表現	1前		1		○				1	1				オムニバス	
	クリティカル・シンキング	2後	1			○									兼2 共同	
	基礎ゼミ	1前	1				○		1	2	2				兼5	
	教養ゼミ	1後	1				○		2	3					兼5	
	社会調査法	2後		1			○			1					兼2 オムニバス	
	データサイエンス	2前		1		○									兼1	
	情報倫理	1前	1			○				1					兼1 オムニバス	
	情報リテラシーⅠ	1前	1				○			1					兼1 オムニバス	
情報リテラシーⅡ	1後		1			○			1					兼1 オムニバス		
小計(9科目)			5	4	0	-			3	4	2	0	0	兼10		
言語・文化と人間	Speaking & Listening	1前・後	1				○			1						
	Writing	1前・後	1				○			1					兼1	
	Reading I	1前・後	1				○			1					兼1	
	Reading II	2前・後		1			○			1					兼2	
	Process Writing	2前・後		1			○			1						
	時事英語	4前・後		1			○			1						
	医療英語	3前・後		1			○								兼1	
	フランス語Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	フランス語Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	異文化交流(海外語学研修)	1前		2			○			2	1				兼2 共同	
	国際理解(カンボジア研修)	1前		1			○			2					兼2 共同	
文化人類学(異文化理解)	1前		1			○								兼1		
小計(12科目)			3	10	0	-			0	2	1	0	0	兼7		

共通教育科目

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科共通科目	教育原理	1前	2			○			1							
	教育学演習Ⅰ	3前	2					○	6	5						
	教育学演習Ⅱ	3後	2					○	6	5						
	教育学研究Ⅰ	4前	2					○	6	5						
	教育学研究Ⅱ	4後	2					○	6	5						
小計(5科目)			10	0	0	-			6	5	0	0	0	兼0		
専門教育科目	学科コア科目	教職論	2前	2			○		1							
		保育者論	2前	2			○		1							
		教育制度論	1後	2			○								兼1	
		教育心理学	1後	2			○		1							
		初等国語論	1後	2			○				1				兼1	
		初等社会科論	2前	2			○								兼1	
		初等算数論	2前	2			○								兼1	
		初等理科論	2前	2			○		1							
		初等生活科論	2前	2			○								兼1	
		初等音楽論Ⅰ	1前	1				○			1				兼10 共同	
		初等音楽論Ⅱ	1後	1				○			1				兼10 共同	
		初等音楽論Ⅲ	3後	1				○			1				兼10 共同	
		初等図工論Ⅰ	1前	1				○				1			兼1 共同	
		初等図工論Ⅱ	1後	1				○				1			兼1 共同	
		初等家庭科論	2前	2			○								兼1	
		初等体育論Ⅰ	2前	1				○		1						
		初等体育論Ⅱ	2後	1				○		1		1			オムニバス	
		初等英語論	2前	2			○				1					
		初等国語科教育論	2後	2			○					1				
		初等社会科教育論	2後	2			○								兼1	
		初等算数科教育論	3前	2			○								兼1	
		初等理科教育論	2後	2			○					1				
		初等生活科教育論	3前	2			○								兼1	
		初等音楽科教育論	3前	2			○								兼1	
		初等図工科教育論	3前	2			○								兼1	
		初等家庭科教育論	2後	2			○								兼1	
		初等体育科教育論	3前	2			○			1						
		初等英語科教育論	3前	2			○					1				
		特別支援教育学	2前	2				○		1	1					オムニバス
		初等教育課程論	1後	2			○			1						兼1
		保育・教育課程論	1後	2			○			1						
		初等教育方法学	3前	2			○					1				
		初等生徒・進路指導論	3後	2			○									兼1
		幼児と健康論	2前	1				○				1				
		幼児と人間関係論	1後	1				○		2						オムニバス
		幼児と環境論	1前	1				○		1						
		幼児と言葉論	1前	1				○				1				
		幼児と表現論	1後	1				○								兼1
		保育内容総論	1前	2				○		1						
		保育内容指導法(健康)	2前	1				○		1						
		保育内容指導法(人間関係)	2前	1				○		2						オムニバス
		保育内容指導法(環境)	2前	1				○		1						
		保育内容指導法(言葉)	2前	1				○				1				
		保育内容指導法(表現)	2前	1				○								兼1
小計(44科目)			23	48	0	-			7	6	3	1	0	兼20		

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(教育学部教育学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門教育科目	学科展開科目	初等道徳教育論		3前	2		○									兼1	
		初等特別活動指導論		3後	1		○									兼1	
		総合的な学習の指導論		3後	1		○									兼1	
		初等教育相談		3前	2		○			1							
		幼児の理解		2前		1			○	1							
		児童心理学		2後		2		○		1							
		障害児(者)心理学		3後		2		○								兼1	
		子ども家庭支援の心理学		3前		2		○								兼1	
		ICT活用演習		2後	1				○		1						
		保育原理		1前	2			○									兼1
		子ども家庭支援論		2後		2		○				1					
		乳児保育Ⅰ		2後		2		○									兼1
		乳児保育Ⅱ		3前		1			○								兼1
		社会福祉論		1前	2			○									兼1
		子ども家庭福祉		1後	2			○									兼1
		社会的養護Ⅰ		2前		2		○									兼1
		社会的養護Ⅱ		2後		1			○								兼1
		子どもの保健		2前		2		○									兼1
		子どもの健康と安全		3前		1			○								兼1
		子どもの食と栄養		2前		2			○								兼1
		子育て支援		3後		1			○								兼1
		障害児保育論		1前		2		○			1						
		キリスト教的保育論		3前		2		○									兼1
		モンテッソーリ保育論		2前		2		○									兼1
		幼児音楽指導法Ⅰ		2前		1			○								兼1
		幼児音楽指導法Ⅱ		2後		1			○			1					兼1 オムニバス・共同(一部)
		幼児造形指導法Ⅰ		2前		1			○					1			兼1 共同
		幼児造形指導法Ⅱ		2後		1			○					1			兼1 共同
		野外活動		1後		2			○				1				
		リトミック演習		2前		1			○								兼1
		こども音楽療育概論		2前		2		○									兼1
		こども音楽療育演習		2後		1			○								兼1
		こども音楽療育実習		2通		1				○							兼1
		童謡創作論		2後		1			○			1					
		教育実習(幼・小)		2後～3通		4				○		2	2				兼2 共同・集中
		教育実習事前事後指導		2,3通		1				○		2	2				兼2 共同
		幼稚園教育実習		4後		2			○			1	1				兼2 共同・集中
		小学校教育実習		4後		2			○			1	1				兼2 共同・集中
		教職インターンシップ		2後～3前		2			○			2	2				兼2 共同
		保育実習ⅠA		2後～3前		2			○		1						兼2 共同・集中
保育実習ⅠB		3後		2			○		1	1	1				兼2 共同・集中		
保育実習指導ⅠA		2後～3前		1			○		1		1				兼2 共同		
保育実習指導ⅠB		3通		1			○		1		1				兼2 共同		
保育実習Ⅱ		3後		2			○		1		1				兼2 共同・集中		
保育実習指導Ⅱ		3通		1			○		1		1				兼2 共同		
保育実習Ⅲ		3後		2			○		1	1	1				兼2 共同・集中		
保育実習指導Ⅲ		3通		1			○		1		1				兼2 共同		
教職実践演習(幼・小)		4後		2			○		1	1	2				兼2 共同		
卒業研究		4通		5			○		6	5					兼19		
小計(49科目)			14	68	0		-		7	5	4	1	0		兼19		
合計(141科目)			71	139	0		-		7	7	4	1	0		兼59		
学位又は称号	学士(教育学)	学位又は学科の分野					教育学・保育学関係										

別記様式第2号(その2の1)

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>1. 共通教育科目(計28単位以上)</p> <p>(1)宗教と人間 必修4単位 (2)社会と人間 必修8単位 (3)表現・行動と人間 必修2単位 くらしと色彩、人と音楽から1単位選択必修 (4)情報と人間 必修5単位 (5)言語・文化と人間 必修3単位 Reading II、Process Writing、時事英語、医療英語、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、異文化交流(海外語学研修)から3単位選択必修</p> <p>上記以外に 心理学、社会学、文化人類学(異文化理解)から1単位選択必修</p> <p>自由選択1単位</p> <p>2. 専門教育科目(計80単位以上)</p> <p>(1)学科共通科目 必修10単位 (2)学科コア科目 必修23単位 教職論、保育者論から2単位選択必修 初等教育課程論、保育・教育課程論から2単位選択必修 (3)学科発展科目 必修14単位</p>	1学年の学期区分	2学期
<p>上記以外に 初等社会科論、初等算数論、初等理科論、初等生活科論、初等音楽論Ⅲ、初等家庭科論、初等体育論Ⅱ、初等英語論、初等国語科教育論、初等社会科教育論、初等算数科教育論、初等理科教育論、初等生活科教育論、初等音楽科教育論、初等図工科教育論、初等家庭科教育論、初等体育科教育論、初等英語科教育論、初等生徒・進路指導論、幼児と健康論、幼児と表現論、保育内容指導法(健康)保育内容指導法(表現)、初等道德教育論、初等特別活動指導論、総合的な学習の指導論、幼児の理解、児童心理学、幼児音楽指導法Ⅰ、幼児音楽指導法Ⅱ、幼児造形指導法Ⅰ、幼児造形指導法Ⅱ、教育実習(幼・小)、教育実習事前事後指導、幼稚園教育実習、小学校教育実習、教職インターンシップ、教職実践演習(幼・小)から16単位選択必修</p> <p>自由選択13単位</p> <p>以上、共通教育科目28単位以上、専門教育科目80単位以上、自由選択16単位以上、合計124単位以上</p>	1学期の授業時間	15週
<p>3. 履修科目の登録の上限:49単位(年間)</p>	1時限の授業時間	90分

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	単位数				授業形態			専任教員等の配置					備考	
		配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間	1前	1			○								兼1
	現代とキリスト教	1後	1			○								兼1	
	人間論(哲学)	3前	1			○								兼1	
	宗教論	4後	1			○								兼1	
	小計(4科目)			4	0	0	-			0	0	0	0	0	兼2
	社会と人間	心理学	1前		1		○								兼1
		教育学概論 I	1前		1		○			1					兼1
		ライフサイエンス	1後	1			○								兼1
		社会学	1後		1		○								兼1
		サービスラーニング	2通年	1				○			1	3	1		兼5 共同
		キャリア入門	1前	1				○			1				兼1 共同
		セーフティプロモーション	2前		1		○				1				兼1
		生活と化学	1後		1		○								兼1
		社会と人権(日本国憲法)	1後		2		○								兼1
		ジェンダー論	2前		1		○								兼1
	生命倫理	1後	1			○								兼1	
	小計(11科目)			4	8	0	-			1	3	3	1	0	兼10
	表現・行動と人間	くらしと色彩	1後		1		○								兼1
		人と音楽	1前		1		○								兼1
		音楽療法入門	4後		1		○								兼1
園芸療法入門		4後		1		○								兼1	
体育講義		1前		1		○								兼2 オムニバス	
スポーツと健康		1前		1			○							兼1	
小計(6科目)			0	6	0	-			0	0	0	0	0	兼6	
情報と人間	文章表現	1前		1		○								兼2 オムニバス	
	クリティカル・シンキング	2後	1			○								兼2 共同(一部)	
	基礎ゼミ	1前	1				○		2		3			兼5	
	教養ゼミ	1後	1				○		3	1	1			兼5	
	社会調査法	2後		1			○		1			1		兼1 オムニバス	
	データサイエンス	2前		1			○		1					兼1	
	情報倫理	1前	1				○					1		兼1 オムニバス	
	情報リテラシー I	1前	1				○					1		兼1 オムニバス	
情報リテラシー II	1後	1				○					1		兼1 オムニバス		
小計(9科目)			5	4	0	-			3	1	3	1	0	兼11	
言語・文化と人間	Speaking & Listening	1前・後	1				○							兼1	
	Writing	1前・後	1				○							兼2	
	Reading I	1前・後	1				○							兼2	
	Reading II	2前・後		1			○							兼3	
	Process Writing	2前・後		1			○							兼1	
	時事英語	4前・後		1			○							兼1	
	医療英語	3前・後		1			○							兼1	
	フランス語 I	1前		1			○							兼1	
	フランス語 II	1後		1			○							兼1	
	異文化交流(海外語学研修)	1前		2			○		1		1			兼3 共同	
	国際理解(カンボジア研修)	1前		1			○		1		1			兼2 共同	
	文化人類学(異文化理解)	1前		1			○							兼1	
小計(12科目)			3	10	0	-			1	0	1	0	0	兼8	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)	1前	1			○									兼1	
	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			○			1							
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	1			○			1							
	人体の構造と機能Ⅲ	1後	1			○			1							
	生化学	1後	1			○									兼1	
	微生物学・免疫学	1後	1			○									兼1	
	生命科学	1後	2			○									兼1	
	疾病治療論Ⅰ	1後	2			○									兼1	
	疾病治療論Ⅱ	2前	2			○									兼1	
	疾病治療論Ⅲ	2後	1			○									兼1	
	疾病治療論Ⅳ	2後	1			○									兼1	
	栄養学	2前	1			○									兼1	
	病理学	2前	2			○									兼1	
	心のしくみと働き	1前	1			○									兼1	
	臨床薬理学	2後	1			○									兼1	
	発達心理学	2前		1		○									兼1	
	生活機能論	2前	1			○			1							
	健康教育論	2前	1			○			2						オムニバス	
	環境と健康	2前		1		○			1						兼1	
	社会健康学	2前	1			○			1							
	社会心理学	1前	1			○									兼1	
	家族社会学	1後		1		○									兼1	
	医療倫理	2前	1			○									兼1	
	社会福祉論	1前	1			○									兼1	
	保健統計学	2前	1			○			1							
	公衆衛生学(疫学)	2前	1			○									兼1	
小計(26科目)				28	3	0	-			5	1	0	0	0	兼15	
専門科目	看護の基盤	看護概論	1前	1			○			1						
		看護倫理	2前	1			○			2						
		基礎技術Ⅰ	1前	2				○		1	1	2	1	2	オムニバス(共同)	
		基礎技術Ⅱ	1後	2				○		1	2	2	1	2	オムニバス(共同)	
		フィジカルアセスメントⅠ	2前	2				○		1	1		1	2	オムニバス(共同)	
		フィジカルアセスメントⅡ	2後	2				○		3	2	5	1	1	オムニバス(共同)	
		看護理論	2前	1			○			3					兼1	
		臨床判断論	2前	1				○		2		1	1		オムニバス(共同)	
		キャリアデザインⅠ	2前	1			○				1					
		家族看護論	2後	1			○			1						
		看護教育学Ⅰ	3前	1				○		2						オムニバス
		ヒューマンケア実習Ⅰ	1後	1					○	2	3	7	1	5		共同
		ヒューマンケア実習Ⅱ	2後	2					○	1	2	7	2	5		共同
小計(13科目)				18	0	0	-			12	4	9	2	5	兼1	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	ライフサイクルと看護	生涯発達看護論Ⅰ(母性)	2前	2			○			2		1			オムニバス	
		生活機能支援論Ⅰ-①(母性)	2後	1				○		1		1		1	オムニバス・共同(1期)	
		生活機能支援論Ⅰ-②(母性)	3通年	1					○		1		1		1	共同
		生活機能支援論実習Ⅰ(母性)	3前	2					○		1		1		1	共同
		生涯発達看護論Ⅱ(小児)	2前	2				○		2		1				オムニバス
		生活機能支援論Ⅱ-①(小児)	2後	1					○		1	1	2		1	オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅱ-②(小児)	3通年	1					○		1		2		1	共同
		生活機能支援論実習Ⅱ(小児)	3前	2					○		1		2		1	共同
		生涯発達看護論Ⅲ(成人)	2前	1				○		1						オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅲ-①(急性)	2後	1					○		1			1	2	オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅲ-②(慢性)	2後	1					○		2			1	2	オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅲ-③(リハビリテーション)	3前	1					○		1	1			2	兼1 オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅲ-④(急性)	3後	1					○		1		1		2	オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅲ-⑤(慢性)	3後	1					○		2		1		2	共同
		生活機能支援論実習Ⅲ-①(急性)	3後	3					○		1		1		2	共同
		生活機能支援論実習Ⅲ-②(慢性)	3後	3					○		2		1		2	共同
		生涯発達看護論Ⅳ(老年)	2前	1				○		1						オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅳ-①(老年)	2後	2					○		1		1			兼1 オムニバス・共同(1期)
		生活機能支援論Ⅳ-②(老年)	3後	1					○		1		1		2	共同
		生活機能支援論実習Ⅳ-①(老年)	1前	1					○		2	1	4	1	6	共同
		生活機能支援論実習Ⅳ-②(老年)	3後	2					○		1		1		2	共同
		エンドオブライフケア論	3前	1				○			1		1			オムニバス・共同(1期)
小計(22科目)				32	0	0		-		9	2	7	2	9	兼2	
専門教育科目	コミュニティと看護	メンタルヘルス・アセスメント	1前	1			○				1	1			オムニバス	
		メンタルヘルス・プロモーション	2前	1			○								兼1	
		生活機能支援論Ⅴ-①(精神)	2後	1				○			1	1		1	オムニバス	
		生活機能支援論Ⅴ-②(精神)	3通年	1				○			1	2		1	共同	
		生活機能支援論実習Ⅴ(精神)	3前	2					○		1	2		1	共同	
		地域包括ケア論Ⅰ(在宅)	2後	2				○			1	1			オムニバス	
		地域包括ケア論Ⅱ(在宅・地域)	3前	1					○			1	1	1	オムニバス・共同(1期)	
		地域包括ケア論Ⅲ(地域・学校)	3前	1					○		2				オムニバス・共同(1期)	
		地域包括ケア論Ⅳ(在宅)	4後	1					○		2	1	1	1	オムニバス・共同(1期)	
		地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)	4前	1					○		1		1		2	共同
		地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)	4前	2					○		1	1	1	1	6	共同
		地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理)	4前	1					○		1		1			共同
		地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域)	4前	1					○		2					共同
		チーム医療論	3前	1				○			2		1			オムニバス・共同(1期)
学校保健	3前			2		○				1				オムニバス・共同(1期)		
養護学概説	3前			2		○				1				兼1 オムニバス・共同(1期)		
小計(16科目)				17	0	4		-		5	3	5	1	9	兼2	
看護の発展	看護マネジメント論Ⅰ	4前	2				○			2		1			オムニバス	
	看護マネジメント論Ⅱ	4後		1			○			1		1			オムニバス・共同(1期)	
	国際看護Ⅰ	3前	1					○		2		1			オムニバス・共同(1期)	
	国際看護Ⅱ	4前		1				○				1			オムニバス	
	災害看護Ⅰ	3前	1					○		1		1			オムニバス	
	災害看護Ⅱ	4後		1			○					1			オムニバス	
	キャリアデザインⅡ	3通年	1					○		4	1				兼1 オムニバス	
	看護研究Ⅰ	3前	1					○		2		1			オムニバス・共同(1期)	
	看護研究Ⅱ	3後	1					○		11	4	7			共同	
	看護研究Ⅲ	4前	1					○		12	4	7			共同	
	看護研究Ⅳ	4後	1					○		12	4	7			共同	
専門職論	4前		1			○			2					オムニバス・共同(1期)		
看護政策論	4後		1			○			1					オムニバス・共同(1期)		
看護教育学Ⅱ	4後		1			○			1					オムニバス・共同(1期)		
小計(14科目)				9	6	0		-		12	4	7	0	0	兼1	

別記様式第2号(その2の1)

教育課程等の概要

(看護学部看護学科)

科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
		配当年次	必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教		助手		
専門教育科目	教育に関する基礎的理解に 教育原理 教職論 教育制度論 教育心理学 特別支援教育 教育課程論	1後			2	○			1						兼1	
		1後			1	○									兼1	
		1後			1	○									兼1	
		1後			2	○									兼1	
		3前			1	○									兼1	
		3前			1	○									兼1	
	小計(6科目)			0	0	8		-		1	0	0	0	0	兼5	
	教育に関する基礎的理解に 教育の道徳、総合的な学習の指導法、教育の方法と技術、生徒指導、教育相談	道徳教育の理論と方法	3前			1	○			1						兼1
		特別活動及び総合的な学習の指導法	3前			1	○									兼1
		教育の方法と技術	3前			2	○						1			オムニバス
生徒指導		3前			1	○									兼1	
教育相談	3前			1	○								兼1			
小計(5科目)			0	0	6		-		1	0	0	1	0	兼3		
教育実践に関する科目	事前及び事後指導(養護)	4通			1			○		1						
	養護実習	4通			2			○		1						
	教職インターンシップ	3後~4前			2			○		1						
	教職実践演習(養護教諭)	4後			2			○		1						
小計(4科目)			0	0	7		-		0	1	0	0	0	兼0		
合計(148科目)			182	57	29		-		13	4	9	4	9	兼48		
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>1. 共通教育科目(計28単位以上)</p> <p>(1)宗教と人間 必修4単位</p> <p>(2)社会と人間 必修4単位</p> <p>(3)表現・行動と人間 くらしと色彩、人と音楽から1単位選択必修</p> <p>(4)情報と人間 必修5単位</p> <p>(5)言語・文化と人間 必修3単位 Reading II、Process Writing、時事英語、医療英語、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、異文化交流(海外語学研修)から3単位選択必修</p> <p>上記以外に 心理学、社会学、文化人類学(異文化理解)から1単位選択必修</p> <p>2. 専門教育科目</p> <p>(1)専門基礎科目 必修28単位</p> <p>(2)専門科目 計76単位以上</p> <p>①看護の基盤 必修18単位</p> <p>②ライフサイクルと看護 必修32単位</p> <p>③コミュニティと看護 必修17単位</p> <p>④看護の発展 必修9単位</p> <p>自由選択4単位は卒業要件に含まない。</p> <p>以上、共通教育科目28単位以上、専門教育科目の内、専門基礎科目28単位以上、専門科目76単位以上、合計132単位以上</p> <p>3. 養護教諭一種免許取得の場合</p> <p>(1)卒業要件132単位に含める科目と単位</p> <p>共通教育科目 28単位に下記の選択科目を含める</p> <p>選択科目「教育学概論Ⅰ」「セーフティプロモーション」「社会と人権(日本国憲法)」 「体育講義」「スポーツと健康」「情報リテラシーⅡ」「ReadingⅡ」 「Process Writing」「時事英語」の10単位</p> <p>(2)卒業要件以外に取得する科目と単位</p> <p>専門教育科目の内、 専門基礎科目 選択科目「環境と健康」1単位 専門科目 自由科目「学校保健」「養護学概説」4単位</p> <p>教職科目 自由選択科目「教育原理」「教職論」「教育制度論」「教育心理学」「特別支援教育」 「教育課程論」「道徳教育の理論と方法」「特別活動及び総合的な学習の指導法」 「教育の方法と技術」「生徒指導」「教育相談」「教育実習事前事後指導」 「教育実習(養護)」「教職インターンシップ」「教職実践演習(養護教諭)」21単位</p> <p>以上、26単位と卒業要件132単位の合計158単位以上取得すること</p> <p>4. 履修科目の登録の上限:49単位(年間)</p>							1学年の学期区分		2学期							
							1学期の授業時間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 宗教と人間	キリスト教と人間	イエス・キリストが告げ知らせた「神の国」とその生涯を通して、キリスト教の人間観についての理解を深める。福音書をたよりにイエスの教えと生き方に触れ、今日の私たちに響くメッセージについて考察する。1. キリスト教を学ぶとは、2. 日本人の宗教観、キリスト教と文化、3. 祈るということ、4. 聖書について、5. 聖書について、6. イエスとは何ものか、7. マリアの生き方、イエスが伝えた神の国。	
共通教育科目 宗教と人間	現代とキリスト教	人間のいのちについて多面的に学ぶとともに、今日の世界において他者のために他者とともに生きる姿勢について考察する。他者との関わりのなかで生かされ愛されている自分に気づき、同時にいのちを育む存在であることを自覚する。自分のいのちをより豊かに生きることについて、福音書およびモデルケースから考察する。1. 愛すること、2. いのちについて、3. 平和をもたらす人、4. いのちへの奉仕、5. 生きるということ。	
共通教育科目 宗教と人間	人間論(哲学)	日常生活であり願みることなく自明なものとしてある「人間」という存在。各自がそれぞれ自明なものとして無意識にもつ人間観によって私たちは日常生活をおくり、ときに共感し、ときに対立し、暮らしている。この自明な存在としての「人間」を考える。さまざまな学問領域から人間論を論じることが可能であろう。本講義では、ギリシャ哲学以来「人間とはなにか」という問いに答えようとさまざまな思索が積み重ねられてきた。哲学的な思索をもとに「人間とはなにか」という問いに対する答えを考えてみたい。	
共通教育科目 宗教と人間	宗教論	誕生の意味、死の意味、苦難の意味、またそれらすべてを含んだ人生の意味といったように、私たちは人生で出会うあらゆるものにその意味を求めて止まない。宗教は、人間生活のさまざまな局面に現れ、これらに答えを与えてくれるものではなかったであろうか。科学的知識が普及するにつれて宗教は衰えていくと思われてきた。しかし衰えるどころか、科学技術にもっとも接しているはずの若者がその中心的な担い手となった宗教ブームがおこったりしている。また最新テクノロジーの整ったオフィスや工場と働いていた人たち、またその恩恵にあずかっていた人たちも中高年にさしかかると神社仏閣を巡ることに関心を持つたりする。宗教とはいったい何なのか、宗教的な意識とはどのようなものなのか、どんな役割を担っているのか、また私たち現代人は宗教に何を求めているのか、このようなことをみんなで考えていきたい。	
共通教育科目 社会と人間	心理学	日常的に経験する人間行動を8つのテーマから取り上げ、視覚と聴覚について感覚・知覚心理学から、記憶や忘却について学習心理学から、学習行動について教育心理学から、うっかりミスやヒューマンエラーについて認知心理学から、夢や言い間違いについて無意識心理学から、劣等感や自尊心について人格心理学から、他人に対する行動について対人心理学から、思いやりや傍観行動について社会心理学から、自己意識について人格心理学から説明していく。	
共通教育科目 社会と人間	教育学概論Ⅰ	教育の役割と期待への考察。今日における教育への期待とその役割を考え、生涯学習社会における学校教育について考察する。人間形成における教育の機能を理解する。本講義では、人間の教育の必要性、教育の意義・目的、人間の発達・成長と教育、学校教育、家庭教育、子ども理解、特別支援教育などについて学ぶ。	
共通教育科目 社会と人間	教育学概論Ⅱ	教育という営みの多様性について認識するとともに幅広い視野で教育について考えるために、教育学・教育史、ジェンダー・特別支援教育、スポーツ科学・身体論という三つの視角から授業を行う。 (オムニバス方式/全8回) (① 船寄 俊雄/4回)教育学・教育史の視角から教育を考える。 (⑦ 廣森 直子/2回)ジェンダー・特別支援教育の視角から教育を考える。 (④ 梅野 圭史/2回)スポーツ科学・身体論の視角から教育を考える。	オムニバス方式
共通教育科目 社会と人間	ライフサイエンス	DNAの解明に端を発し急速な発展を遂げてきた生命科学を理解するための基礎を学び、現代における生命科学の全貌と諸問題を概観する。19世紀から20世紀前半において発見された細胞説、進化論、遺伝の法則、染色体説等が基礎となり、1953年にDNAの構造が解明され、生命現象の本質的理解がなされるようになり、がんや難病の解明や治療など、医学の発展にも大きく寄与している。DNAや遺伝子、染色体の研究発展は生命操作にまで及び、現代社会の様々なところで応用される一方、倫理的問題も重要な課題となっている。	
共通教育科目 社会と人間	社会学	日常生活でよく出会う社会事象を事例として、社会学的なものの見方を身につけられるよう社会学の諸概念や理論を紹介する。まず、著名な社会学者の研究・理論をいくつか紹介し、社会学的なものの見方・とらえ方を説明する。そしてそれらを踏まえて、家族・宗教・地域社会・環境問題などについて社会学はどのようにアプローチしてきたのかを紹介する。そしてこれらをとらえて、社会や人間についての理解を深める。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	社会と人間	サービスラーニング	共同
共通教育科目	社会と人間	キャリア入門	共同
共通教育科目	社会と人間	セーフティプロモーション	
共通教育科目	社会と人間	生活と化学	
共通教育科目	社会と人間	社会と人権(日本国憲法)	
共通教育科目	社会と人間	ジェンダー論	
共通教育科目	社会と人間	生命倫理	
共通教育科目	行動表と現人・間	くらしと色彩	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 行動表現・人間	人と音楽	時代様式に着目しながら音楽作品を鑑賞し、それぞれの作曲者がその作品を創作するに至った背景にも触れながら、多角的に音楽作品を捉えていく。人が時代情勢に影響を受けながら営み続けてきたように、作曲家も時代情勢に影響を受けてそれぞれの作品を生み出してきた。音楽を生んだ作曲家(=人)に着目する視点を持ち、作品の背景を意識した作品鑑賞を通して、人と音楽との関係性について考えてみたい。	
共通教育科目 行動表現・人間	音楽療法入門	音楽療法について基礎から理解を深め、対象者に応じた音楽療法について学び、医療現場等での音楽療法の適用の仕方を学ぶ。 医療と音楽療法との関係、音楽療法に使用する楽曲、高齢者・成人・青少年・児童・乳幼児および発達障がいのあるこどもに対応した音楽療法について学ぶ。	
共通教育科目 行動表現・人間	園芸療法入門	園芸療法の効用を活用し必要なサポートを選択、心身の充足を促し健康を回復・維持・予防につなげる方法を学ぶ。そしてこれらのサポートの結果、ケアする人もされる人も共に、互いのニーズを補完しあい、心身の健康維持、予防と繋がり、活力ある生活を生むよう利用する考え方を学ぶことを目的としている。 授業では、園芸療法についての基礎的な知識を学ぶと共に、現社会において人間と植物・自然との関わりの中で園芸療法の意義、園芸療法の可能性・今後についてどのように期待され実践されているのか考察しながらより実践的な内容で講義する。 また、看護分野では、患者とのコミュニケーションツールや心のケアとして、教育分野では、知的・身体的・情緒面・道徳面に視点を置き、植物との関わりや園芸活動がもつ効用について考察しながらその活用方法を学ぶ。	
共通教育科目 行動表現・人間	体育講義	子どもの運動発達の特徴やその重要性および発達に応じた運動指導、進んで運動する子どもを育てるための指導者の関わりについて説明する。 また、運動における教育的意味を学び、運動指導の理論や知識を深める。 (オムニバス方式/全8回) (4 梅野 圭史/3回) 子どもの運動発達の特徴やその重要性および発達に応じた運動指導、進んで運動する子どもを育てるための指導者の関わりについて説明する。 (② 荒木 雅之/5回) 園児、児童、生徒の運動能力、運動発達の特徴、運動の重要性等を説明する。	オムニバス方式
共通教育科目 行動表現・人間	体育実技	身体活動を通じて、健康保持増進及び運動技術の向上を図る。運動、スポーツ、健康に関する知識や方法を身につけ、健康な生活を送るために必要な基礎知識を習得し、生涯スポーツの一助とする。 集団行動を基に、球技では集団の中の個人としての役割を果たすことにより、社会性や協調性を身につけることを目的とする。また、器械運動・水泳・陸上競技等においては、個人としての能力向上を目指し、課題を克服するための資質や能力を身につけることを目的とする。 様々な運動経験を通して教育者・保育者としての資質や能力の向上を目指す。	
共通教育科目 情報と人間	文章表現	各授業で課されるレポート・卒業研究等での論文作成、就職や進学試験での小論文対策などのために必要な基本的な書く技術の習得を目指している。 上手く文章を書くためには、①語彙力、②課題・内容に関する知識、③文章作成技術、がある。 本授業では、上記の①と③についての力の向上を目指す。①は授業時毎にミニテストを実施し、自己学習としてすすめる。 (オムニバス方式/全8回) (7 足高 亮夫/5回) 授業の目的、論文・小論文・レポート・作文の違い、パラグラフ・ライティング、文章要約、批判的思考等の説明をおこなう。 (⑩ 谷原 舞/3回) 文章レベルの知識として起承転結等の型、文レベルの知識としての語順・読点、表現の問題として文体等の説明をおこなう。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	情報と人間 クリティカル・シンキング	「批判的思考」が身につくように基本的な知識・技術を学ぶ。「批判的」とは「ある意見を鵜呑みにせずによく吟味する」ということである。本授業では、つぎの2点について説明する。1. 人間の思考はどういう間違いを犯しやすいかを学び、それを避ける方法を知る。2. 論理学の内容を取り入れながら、どのような手順に従って思考すると正しい結論にたどり着けるかという技術を知る。 (共同(一部)/全8回) (52 伊東 美佐江/8回) クリティカル・シンキングについての基本的な知識と技術を説明する。 (52 伊東 美佐江・ 61 小野 聡子/3回) 論理的にものごとを進めることを学ぶ演習(グループワークほか)を指導する。	共同(一部)
共通教育科目	情報と人間 基礎ゼミ	「大学で何をどう学ぶのか」について、輪読・映画鑑賞・情報収集等をおこないながら、参加者の発表・議論をとおして各自の考えをまとめることを目指す。その過程で、建設的な議論の仕方、上手なメモやノートのとり方、批判的読解法、レジュメやレポート作成の仕方、効果的なプレゼンテーションができるようになることを目指す。受講生は、所属学部に関わりなく約16名程度のA～Jの10グループに分かれ、ゼミナール形式で学ぶ。	
共通教育科目	情報と人間 教養ゼミ	提示された課題やテキストを、深く読み<>議論し<>理解する<>過程を通して、異なる意見に耳をかたむけ、自己を相対化し、根拠を十分に検討することなく信じている自明な世界を疑い、自由な立場からものを考える力を養うことを目指す。そしてそれによって「自由で自立した個人」として、社会のさまざまな出来事を、自分のこととして共感し、考え、議論し、解決策を提示し、社会に働きかけることができる力をもったよりよき市民となってくれることを期待している。したがってこのゼミは知識量を増やすことを目的としたものではない。もちろん一定量の知識は必要であるので各自で情報収集に努めてもらう。人種・民族・ジェンダー・病い・子ども・貧困・ライフスタイル等をテーマとした映画・図書等を教材とし、アクティブ・ラーニングをおこなう。受講生は、所属学部に関わりなくA～Jの10グループ・各16名程度に分かれ、ゼミナール形式で学ぶ。担当教員は両学部から5名ずつ計10名で、各グループをそれぞれ担当し、学びをサポートする。第1回のガイダンスとチーム・ビルディングのあと、第2～5回は、各グループ担当教員の研究分野・関心分野と受講生の関心に沿った映画を教材とした意見交換によって、第6回以降は第2～5回で学んだ内容を図書の輪読によって、到達目標を自分のものとしていく。第15回目に、到達目標について受講生一人一人がどう学ぶことができたかを発表してもらう。	
共通教育科目	情報と人間 社会調査法	卒業研究・看護研究において、問題関心や目的に合った適切な方法で社会調査を実施し、分析し、結果をまとめるための基本的な技術を習得することを目的としている。社会調査に関する基本的事項(社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所短所、調査倫理など)を学習する。身近な社会現象の実例や教育・医療・看護事例をテーマに選んで、分析手法の基礎とその適用方法を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (13 上田 博之/7回) 社会調査の概説、量的調査の手順、調査票作成、データ集計、分析の説明と演習をおこなう。 (32 井内 伸栄/4回) 仮説の種類と検証、既存資料の利用についての解説と、ネットワークを使った調査の演習をおこなう。 (7 足高 亮夫/4回) 質的調査の特徴・種類・手順・資料整理の説明と、小グループでインタビュー調査の模擬体験をおこなう。	オムニバス方式
共通教育科目	情報と人間 データサイエンス	本授業では、基礎的な代表値の計算や検定方法を学ぶとともに、正しいデータの読み取りができる能力を身につける。そして研究結果を正確に読み取る力や実践結果を効果的に報告する力を身につけることを目的とする。専門職として責任ある実践活動を行なうために、的確な情報収集と良い実践活動報告を行わなくてはならない。そのためには統計に関する知識や理解も必要になる。本講義では、課題を示しながら統計学の考え方や統計処理の仕方についての基本を学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	情報と人間 情報倫理	<p>ネットワークを利用するユーザには、情報の受発信において得られた情報の信憑性に注意し、正しく分析し評価する能力(メディアリテラシー)と起こりうるトラブル(ウイルスによる感染、ネットワーク犯罪、不正アクセスなど)からの自己防衛や情報セキュリティについての正確な知識が必要となる。</p> <p>また、ネットワーク社会の利便性が向上していく一方で、起こりうるトラブルも多様かつ巧妙化しつつあり、ネットワーク社会の一員としてこれらの様々なトラブルにも適切に対応できる能力が求められる。</p> <p>本授業では、現在のネットワーク社会で私たち一人ひとりがその一員であることを自覚し、その上で必要とされる基本的な心構えや具体的知識、ネットワーク社会の問題やトラブルに関連する法律について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(8 市川 隆司/3回) セキュリティ対策や、インターネットに関わる法律等を解説する。</p> <p>(32 井内 伸栄/5回) ネットワーク社会における基本的な心構えや注意事項、例えばユーザ認証の仕組みやネット上での取引について解説する。</p>	オムニバス方式
共通教育科目	情報と人間 情報リテラシー I	<p>急速に進みつつある情報化の流れの中で、私たちは目的に応じて主体的に情報を選択・収集し、分析・編集した上で発信する等、さまざまな情報を適切に活用していく能力が求められる。私たちがこの情報化社会に対応できる能力を身につけるためには、情報機器(パーソナルコンピュータ、タブレット端末等)の基本的操作の習得も必要不可欠となる。本授業では、パーソナルコンピュータをはじめとする情報機器の基礎知識と基本的操作の習得に加え、Microsoft OfficeアプリケーションソフトのWord/Excel/PowerPointの操作方法についても学ぶ。そして、これらのアプリケーションソフトを用いて図表の作成を含むレポートや課題作成、論文作成やプレゼンテーションなどの演習を通して主体的かつ積極的に情報を活用していく能力の育成を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32 井内 伸栄/10回) Windowsの基本操作とキャンパスネットワークの利用、電子メールとWebの活用、ワープロソフトの操作と活用、表計算ソフトの操作と活用</p> <p>(8 市川 隆司/5回) プレゼンテーションソフトの操作、プレゼンテーションの作成</p>	オムニバス方式
共通教育科目	情報と人間 情報リテラシー II	<p>私たちが、急速に発展する情報化社会を生き抜いていくためには、未知なる課題や問題にも向き合い解決していく能力が求められる。</p> <p>そこで、本授業ではこの問題解決型思考力を育成するためのツールとして統計解析ソフトRを用い、演習形式による授業を展開していく。</p> <p>具体的には、統計に必要なR言語の基礎理解をはじめ、プログラミングにおける問題の発見・分解・抽象化・一般化・組合せから分析・評価に至るプロセスを通して、問題解決型思考力を育むとともに統計解析の手法についても理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32 井内 伸栄/10回) 統計ソフトRの基本操作、Rによる総計解析の基本操作、記述統計</p> <p>(8 市川 隆司/5回) Rによる検定(t検定・カイニ乗検定)、1要因の分散分析</p>	オムニバス方式
共通教育科目	言語・文化と人間 Speaking & Listening	<p>学習者は、基本的な英語の表現・パターンを応用して、自分が伝えたいことを英語で表現できるようになる。英語の発音やイントネーションについての基本的な知識を持ち、それらを英会話の中で活かすことができる。主に、実践的なコミュニケーション力を伸ばすために、体系的な学習内容に関して繰り返し実用的練習(学生同士における練習[ペアワーク・グループワーク]及び担当者により評価の対象となる個別スピーキング・リスニング練習)を行いながら、必要な知識と言語能力を段階的に習得していく。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・文化と人間 Writing	学習者は、辞書等を参照しつつも、自分が相手に伝えたいことを英語で表現できるようになる。学習者は、基本的な英語の表現・パターンに習熟し、パラグラフの構造を理解し、英語表現に役立てることができる。学習者は、伝える相手や状況に応じて、適切な表現を用いて英語でコミュニケーションができる。文法ではなく、場面やことばの働きを中心にシラバスは組まれる。想定される活動：基本的な英語の表現・文のパターンを参照して、自分にあった表現をする。	
共通教育科目	言語・文化と人間 Reading I	様々なタイプの英語テキストから、大切な情報を読み取る力を身につける。英語の基本的な語彙と文型を理解し、基本的な英語テキストから、必要な情報を収集し整理することができる。英語テキストには様々な種類があることを理解し、その種類にあった読み方ができる。英語テキストでの情報提示の形式を理解できる。	
共通教育科目	言語・文化と人間 Reading II	学習者は、学術的にやや専門的な内容を含む英文を読んで理解できるようになる。内容重視のアプローチで、大学生の知的好奇心を満たすようなアカデミックな内容を英語で読む活動が中心となる。英語テキストの理解を深めるために、英語以外の資料・図なども積極的に活用される。授業の難易度は使用されるテキストにより決まるので、受講者はそれを見て自分に合うか判断する。	
共通教育科目	言語・文化と人間 Process Writing	学習者は、テーマを決めて、推敲を繰り返し、比較的長めのまとまった文章がかけられるようになる。学習者は、自分の英語表現を繰り返し英語教員にチェックされフィードバックを受けることにより、次第に自分中心の文章から読み手を意識した文章を産出できるようになる。学習者が表現したいことは個人個人で異なるため、個別指導が行われる。学習者は、すでに基本的な英語の表現・パターンに習熟していることが期待される。想定される活動：学習者はテーマを決め、自分が伝えたいことが、どのようにすれば英語で効果的に表現できるかを、個々に教員と相談しながら、学んでいく。	
共通教育科目	言語・文化と人間 時事英語	学習者は、ラジオ・新聞やインターネットなどでの報道でよく使われる英語表現の特徴を理解し、時事英語を聴いたり読んだりして理解できる。諸外国の英語報道だけでなく日本が英語で海外に発信されている報道も教材に含める。教育・看護系の学生が興味をもちそうな内容を開講時期の報道から適期選択する。想定される活動：時事英語でよく使われる英語表現のリストの作成、インターネット上の英文記事の読解・音声による報道の聴解。英語学習に役立つインターネット上のリソースについてその使い方を学ぶ。	
共通教育科目	言語・文化と人間 医療英語	学習者は、医療や看護について簡単な英語表現を理解して、使用することができる。学習者は、医療や看護について簡単なことを、英語を使って話をするができる。想定される活動：医療や看護についての基本的な英文を読む訓練。医療や看護について話題にした定型表現・対話文の習熟訓練。	
共通教育科目	言語・文化と人間 フランス語 I	初めてフランス語を学ぶ方を対象。日常でよく使用する表現を口に出して発音し、練習を繰り返して慣れ親しみながら、フランス語の文字と発音・文法の基礎をマスターする。日本語や英語などと比べながら、コミュニケーションの手段としてフランス語の理解を深める。学習者は、必要に応じて支援を受けながらも、フランス語のよく使われる日常的な表現やごく単純な文を、理解し使うことができるようになる。また、自分や第三者を、相手に紹介すること、そして、相手に関する質問ができて、同様の質問に答えることができるようになる。	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・文化と人間	フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰでフランス語の基礎をマスターした方を対象。身近な分野の簡単な文章を読む練習を通して、フランス語の表現や語彙に慣れ親しみ、文法を含めたコミュニケーション能力を高める。 学習者は、フランス語の簡単で短いメモやメッセージを理解することができるようになる。また、身近な話題の文章を読んで、必要な情報を見つけたり、まとめたりすることができるようになる。必要に応じて支援を受けながらも、フランス語で簡単なメッセージを書いて、相手に伝えることができるようになる。	
共通教育科目	言語・文化と人間	異文化交流(海外語学研修)	学内での事前指導(2時間×3回=6時間)を通して、国際関係や海外事情並びに生活での留意点等を学習した後、夏期休暇中(8月)に姉妹校であるカナダ・バンクーバーアイランド大学の英語セミナーに参加し、語学教育を受けるとともに異文化交流を図る。現地の保育・保健施設、文化施設の訪問や現地の人々との交流を通して、教師、保育士、看護師としての豊かな国際感覚を身に付ける。 研修中はホストファミリー宅に滞在してバンクーバーアイランド大学に通う。 研修後は異文化体験における学修成果をまとめ、報告会で発表する。	共同
共通教育科目	言語・文化と人間	国際理解(カンボジア研修)	学内での事前指導(2時間×4回=8時間)を通して、国際関係や海外事情並びに生活での留意点等を学習した後、夏期休暇中(8月)に実施する。 途上国の生活環境に触れ、保育・教育、保健医療・看護の現状について概観し、日本と比較考察することによって広い視野をもつ教師・保育士・看護師の養成をめざす。 本学の経営母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」が教育活動をおこなっているカンボジアのシムリアップを訪れる。そこで、医療施設や子どもたちの保育施設を訪問し、見学または保育・教育活動に参加する。貧困の中に生きる子どもたちとそれを支える人々に触れ、国際情勢への理解と人間的豊かさを育む。	共同
共通教育科目	言語・文化と人間	文化人類学(異文化理解)	人間であれば同じような暮らし方、同じようなものの考え方をしていると思いがちである。しかし同じ人間であっても、多様な暮らし方があり、その暮らし方と一体となった多様な社会構造、そして価値観がある。一見単一にみえる日本国内においても同様である。調査事例を紹介しながら、人間社会、あるいは日本社会の多様な暮らし方を紹介し、そしてそれらの背後にある社会構造や価値観を理解する。 これにより、私たちの暮らす社会や文化を相対化できるようになり、そして、グローバル化・多様化した社会での他者と良好な関係を構築く力を得ることができるようになることを目指す。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科共通科目	教育原理	「教育原理」という授業科目は、教育職員免許法では「教育の理論並びに教育に関する歴史及び思想」の中に位置づけられている。すなわち、教育の理論、教育の歴史、教育の思想の三つの柱を学ぶことになる。本授業では、教師をめざす学生諸君が身につけておかなければならない教育の理論を取り上げ、それを歴史・思想的観点から講ずる。それは、自ずから教育事象を国際的な視野で考えることになる。	
専門教育科目 学科共通科目	教育学演習Ⅰ	教育学部の専任教員が3年次前期に開講する科目。教員各自が専門とする研究領域に即して研究テーマを設定し、少人数の受講生とともに演習形式で行う。設定される研究テーマは、3年次後期に開講する教育学演習Ⅱにつながるように設定される。演習Ⅰでは、受講生が大学で初めて経験する本格的なゼミであることに鑑み、入門的で基礎的な研究テーマが取り扱われることになる。また、調査・発表・討議の仕方についても学ぶ。	
専門教育科目 学科共通科目	教育学演習Ⅱ	教育学部の専任教員が3年次後期に開講する科目。受講生が教育学演習Ⅰで学んだゼミの経験を生かして研究テーマの探究を引き続き行う。授業の後半では、4年次前期に開講する教育学研究Ⅰにつなげることを意識し、受講生各自が自らの探究テーマをある程度設定するように指導する。	
専門教育科目 学科共通科目	教育学研究Ⅰ	教育学部の専任教員が3年次に開講される教育学演習Ⅰと教育学演習Ⅱの学習成果を受けて4年次前期に開講する科目。受講生が自ら設定した研究テーマについて探究する。受講生各自の発表を中心に授業を進める。合わせて論文の書き方についての具体的、全般的な指導も行う。	
専門教育科目 学科共通科目	教育学研究Ⅱ	教育学部の専任教員が4年次後期に開講する科目。教育学研究Ⅰを受けて、卒業論文の制作を意識しながら研究テーマについて探究する。卒業論文の提出まで4ヶ月であることを踏まえ、受講生各自が執筆した論文を検討する形式で進める。	
専門教育科目 学科コア科目	教職論	教職の現代史(戦後史)の学習を通じ、今後の教職のあり方を展望する。教職の意義と教員の役割、教員の職務内容(研修、服務、身分保障等を含む)の中核として教科指導・生活指導、職場の人間関係、保護者や地域社会との関係など、子どもをめぐる環境の変化と教師のしごとの変化に関する諸問題の検討を通じ、その時々を戦後日本の教師たちはどのように生きてきたのかを考える。	
専門教育科目 学科コア科目	保育者論	保育者とはどのような役割を担っており、その職務はどのような内容を理解し、保育者として持つべき倫理観について考える。また、これまでの歴史の変遷や現代における多様な家庭環境をもとに、社会における保育者の制度的な位置づけについて理解する。さらに、他の教職員や保護者、地域と連携をとり、計画⇒実践⇒省察を行いながら常に保育の質の向上を図り、キャリア形成を行う姿勢を持つ等、保育者としての専門性について深く考察を行う。また、保育と保育者支援に関わる協働についても学ぶ。	
専門教育科目 学科コア科目	教育制度論	日本および諸外国の教育制度について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき設計され、その背景にある思想が制度を歴史的・社会的に成立させてきた。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、諸外国との比較を交えて、それらを構成する制度のしくみの展開や課題を検討する。さらに学校での教育活動を支える教育行政の組織やその働き、学校経営のしくみについて理解を深めていく。	
専門教育科目 学科コア科目	教育心理学	幼児・児童・生徒の学習活動の教育心理学的基礎として、発達、学習、人格・適応、評価について講義を行い、どのように教育実践に貢献しうるかを説明する。最近の子どもたちの現状を踏まえ、理論的基礎と現状の橋渡しをすることにも留意する。 ①学習活動において、どのように教育心理学的理論を活かすべきかを理解する。 ②学習活動の背景となる要因とその影響について理解する。 ③学習活動に関わる不適応行動とその対処方法について理解する。	
専門教育科目 学科コア科目	初等国語論	小学校国語科の歴史の変遷を踏まえ、その意義を理解し、現代社会で求められている資質・能力を育むために必要な指導内容や言語活動について考える。また、近年では教育者自身もSNSの利用等から書く機会や他者と直接コミュニケーションをする機会が減っているため、教師として適切な日本語を使う手本となるよう、改めて日本語への理解を深め、語彙力をつけるとともに、自己の考えが十分に伝えられるコミュニケーション能力、及び文章表現力を養っていく。さらにその中で教育者自身も言葉による見方・考え方を体得していく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科コア科目 初等社会科論	小学校社会科教育の理論の理解と体験をととして、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。①小学校社会で取り扱う範囲を説明できる。②日本の地理的特徴を説明できる。③日本の歴史の流れの概要を説明できる。④日本の政治制度の仕組みを説明できる。⑤日本国憲法の役割・基本原理・記載内容を説明できる。⑥地図・年表・統計資料等を利用して教材作成ができる。小学校社会の取り扱う範囲の知識を地図・年表・統計資料を適宜用いながら講義する。	
専門教育科目	学科コア科目 初等算数論	算数科の目標や内容を理解し、「A数と計算」、「B図形」、「C測定」、「C変化と関係」及び「Dデータの活用」の5つの領域とその具体的な内容の系統性について捉えることにより、算数科の指導にあたって必要な基礎的知識・技能を身につける。また、幼児教育での数量や図形に関する保育内容から中・高の数学科教育までの接続と、他教科との関連について、数学的活動の事例をもとに考えていく。さらに、児童がどのように算数科学習を行っているのか、実際の授業場面を通して学び、アクティブ・ラーニングに即した数学的活動を通して思考力・判断力・表現力を身につけることができるよう指導するために必要な教材・学習形態等の工夫について考える。	
専門教育科目	学科コア科目 初等理科論	初等理科の分野は「物質・エネルギー」と「生命・地球」に区分される。「物質・エネルギー」は化学・物理、「生命・地球」は生物・地学の分野であり、さまざまな自然の事象・現象について学習指導に必要な基本的内容の理解を図る。児童に学習内容を理解させるための実験や観察についても考える。小学校教師に必要な知識と技能、思考力と探求力を身につける。	
専門教育科目	学科コア科目 初等生活科論	生活科の目標と特性を理解するために、ピアジェやモンテッソーリの発達理論や生活科に関する歴史的背景及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を理解する。次に、生活科の目標及び内容[学校、家庭及び地域の生活に関する内容]、[身近な人々、社会及び自然と関わる活動に関する内容]、[自分自身の生活や成長に関する内容]について理解する。内容によっては2年間におよぶ長期的な内容が含まれているので、見直しをもって指導計画を立案することや、小学校低学年の他教科および社会や理科など中学年の各教科との接続の重要性について学び、小学校生活科における学習評価の基礎的な考え方を理解する。	
専門教育科目	学科コア科目 初等音楽論Ⅰ	幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について理解し、修得する。幼児・児童の音楽表現を理解し、援助できるように学ぶ。 幼児・児童が音や音楽に触れ親しむために、基本的な読譜方法や、音楽理論を学習し、主にピアノを使った表現活動ができるように、各個人の技術レベルに応じた個別指導を行って技術の向上を図る。 (11 金井 秋彦) 幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について理解し、基本的な読譜方法や、音楽理論について学習する。 (46 奥田 昌代・71 川島 なつ美・58 喜多 光三・68 楠本 未来・65 小齊 由美・72 谷原 麻貴・56 辻 真理子・59 東前 克枝・50 中世古 やよい・73 松田 あゆみ) ピアノを使った表現活動ができるように、各個人の技術レベルに応じた個別指導を行って技術の向上を図る。	共同
専門教育科目	学科コア科目 初等音楽論Ⅱ	幼児・児童の音楽活動を支えるための音楽技能について深め、教授方法をより発展させて学ぶ。幼児・児童の音楽表現を理解し、幼児・児童の表現したい気持ちを受け止め、援助できるように学ぶ。特に幼児の発達や、年齢による特徴を踏まえて、指導援助ができるよう演奏技能を学ぶ。幼児・児童が音や音楽に触れ親しむために、教育者が必要な援助について考える。主に歌唱での表現活動を高め、各個人の技術レベルに応じたピアノの個別指導を行って技術の向上を図る。 (68 楠本 未来) 幼児・児童の音楽活動を支えるために、主に歌唱での表現活動を援助する能力を高める。 (11 金井 秋彦・46 奥田 昌代・71 川島 なつ美・58 喜多 光三・65 小齊 由美・72 谷原 麻貴・56 辻 真理子・59 東前 克枝・50 中世古 やよい・73 松田 あゆみ) ピアノを使った表現活動ができるように、各個人の技術レベルに応じた個別指導を行って技術の向上を図る。	共同
専門教育科目	学科コア科目 初等音楽論Ⅲ	自然の発声法を学び、教育者としての歌唱力をより深める。幼児・児童の発声・歌唱力の発達について理解し、それに応じた指導援助ができる歌唱指導法を修得する。幼児・児童の季節の歌や唱歌の重要性、幼児・児童にとって歌うことの意味を理解し、その指導法を学ぶ。初等音楽論Ⅰ、Ⅱで学んだピアノも活かしながら、より歌唱を豊かに導くよう、技術の向上を図る。合唱やカノンなども経験し、人と合わせて歌うことの重要性や、表現したい心のあり様を体感し、指導における幼児・児童理解へと繋げる。 (68楠本未来)より歌唱を豊かに導くよう、技術の向上を図る。幼児・児童の季節の歌や唱歌の重要性、幼児・児童にとって歌うことの意味を理解し、その指導法を学ぶ。 (11 金井秋彦・46 奥田昌代・71 川島なつ美・58 喜多光三・65 小齊由美・72 谷原麻貴・56 辻真理子・59 東前克枝・50 中世古やよい・73 松田あゆみ)初等音楽論Ⅰ・Ⅱで学んだピアノも活かしながら、ピアノを使った表現活動ができるように、各個人の技術レベルに応じた個別指導を行って技術の向上を図る。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科コア科目	初等図工論Ⅰ	子どもの発達に合った造形遊びや教材、環境づくりへの理解を深めるとともに、学生自身の造形表現への興味や技術、能力を高める。具体的には、子どもの表現活動において重要な要素である描画活動やパスや絵の具などの描画材、立体制作の指導に必要な廃材などの素材を用いた基礎的な実技を実体験しながら習得し、保育・指導の際の具体的な指導法や発達段階による援助の違いについて考える。また、子どもの制作活動や遊びの実態について具体的な事例を用いて学ぶ。	共同
専門教育科目 学科コア科目	初等図工論Ⅱ	いろいろな素材や自然に触れ、遊びに取り入れれたり自分なりに発見したり組み合わせたりする等して表現することは、子どもの表現力や想像力を養う上で重要な経験である。そこで、グループや個人で身の回りの様々な紙工作や廃材を用いて立体製作をし、自然物を使った造形にも取り組んでいくことによって、保育者として子どもの可能性を広げる技能を習得する。また絵の具を使った様々な技法を習得し、それらを生かして平面作品を完成させる。	共同
専門教育科目 学科コア科目	初等家庭科論	現代社会における家族・家庭生活の多様化や課題について現状を知り、小学校家庭科の社会的・文化的価値を理解する。その上で、学習指導要領における家庭科教育の目標と内容、生活の営みに係る見方・考え方について理解する。具体的な授業実践を見て行く中で、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の各分野に関する基礎的な知識や、授業計画の際に考えなければならない指導方法・使用教材・学習形態・小学校家庭科の他教科との関わり等、教育者の指導力を支える視点を身につける。	
専門教育科目 学科コア科目	初等体育論Ⅰ	子どもの運動発達と教育について理解する。乳幼児期から児童期にかけての運動遊びが「身体教育」から「スポーツ教育」への発展過程であることを紹介する。各年齢にあった集団遊びの具体的な指導法、環境構成について学ぶ。運動遊びの必要性を理解し、安全に関する留意点、用具別の遊びの方法を演習形式で実践するなかで身につける。	
専門教育科目 学科コア科目	初等体育論Ⅱ	幼児期および児童期における運動発達に応じた運動遊びを実技により理解する。子どもたちの発達を促すため、子ども達の身体的、精神的、知的および社会性の発達を理解するとともに、年齢に適した運動遊びの内容・保育の方法を身につける。また、年齢に適した運動遊びを計画、指導する力を養うとともに、指導時の健康、安全についても学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (4 梅野圭史／5回) 体育科の運動領域の意味を知り、実技により理解することを学ぶ。小学校各学年でのゴール型、ベースボール型、ネット型ゲームの発展過程を学ぶ。 (② 荒木雅之／10回) 幼児期からの走る・跳ぶ運動遊びから児童期の陸上運動、マット、跳び箱、鉄棒運動から、体幹トレーニングや用具を使った運動について学ぶ。	オムニバス方式
専門教育科目 学科コア科目	初等英語論	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な、英会話表現(語彙・文型等)をはじめとした運用力を身につけるため、学習指導要領における内容事項について学ぶ。また、児童・生徒に国際的な視野を育むために教師としてできることを考えるため、英語圏の児童に関連する様々な文化的な事柄に理解を高めながら、教師自身の異文化理解を深めていく。主に体系的な練習を通して必要な知識と言語能力を段階的に習得する。授業の毎回、口頭・筆記小テストを実施する。	
専門教育科目 学科コア科目	初等国語科教育論	学習指導要領の小学校国語科における指導計画の作成及び内容の取扱いについて把握し、児童・生徒に育みたい三つの柱や言葉による見方・考え方について理解する。また様々な授業実践を参考に、主体的・対話的で深い学びを目指した言語活動について考えていく。その上で、具体的な児童・生徒の姿を想定しながら、単元の目標に沿った学習計画の作成、本時の計画作成に取り組んでいき、ねらいを達成するための学習形態、発問、使用教材を熟考し、模擬授業を行う。自分の授業を振り返り、他者と授業評価をし合う中で、授業を客観的に見つめ、改善していく力を身につける。	
専門教育科目 学科コア科目	初等社会科教育論	小学校社会科教育の理論の理解と体験をとおして、小学校教師としての資質・能力の基礎を養う。①小学校社会科教育の目標・内容・方法について説明できる。②小学校社会科の各学年の単元構成の説明ができる。③学習指導計画を作成できる。④問題解決型の学習の意義と方法を説明ができる。⑤情報機器を用いた授業ができる。小学校社会科教育の理論と実践(学習計画案作成・模擬授業・情報システムの利用等)の解説と、その知識に基づいた実践ができるように必要に応じて演習形式の参加型授業もおこなう。	
専門教育科目 学科コア科目	初等算数科教育論	まずは、現場での小学校算数科の実態をもとに、学習活動を構成する要素について考える。また、単元や学習目標に即してコンピュータや電卓などを用いた様々な授業例を概観しながら、情報機器の適切な活用法について学ぶ。最終的には教材研究を行い、児童の習得を目指した教材構成・開発をし、学習到達目標に基づいた指導計画を各自が作成する。工夫・計画・実践・省察するというPDCAサイクルを行って行く中で、児童が授業の中心となり、主体的・対話的・より深い学びが達成できるような教育活動ができる教師としての指導力を養う。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科 コア科目	初等理科教育論	理科の目標、内容及び指導方法を把握し、理科の学習指導に必要な基礎的な能力を身につけることをめざす。また、指導案立案に当たって必要となる知識や技能を広げる。児童が身近な自然について問題を見出し自ら科学的に解決することができるための指導法、教師自らが自然を愛する心情をもつことおよび、理科の見方・考え方を身につけることの重要性を理解する。学習指導要領の区分「物質・エネルギー」及び「生命と地球」にそって構成の主旨を理解し、授業の組み立てにあたっての留意点を見出し、実践に生かせるように指導案の作成と評価方法について検討する。	
専門教育科目 学科 コア科目	初等生活科教育論	生活科の特性に関する知識及び指導力を培う達成目標から、学習指導要領の小学校生活科の目標、内容についての理解を深め、教材開発や授業設計へとつなげていく。主として学生が指導計画を立て、模擬授業等により実践し、討論等により評価し、そして改善する、所謂、PDCAサイクルの形態で行う。立案に際しては、ICTの利用、障害のある児童への配慮、道徳教育との連携を工夫する。そのため、様々な教材の効果的な活用や学習形態の例を事例を用いて検討し、模擬授業後は意見交換をすることにより、客観的に指導を見つめなおし、改善する視点を身につける。	
専門教育科目 学科 コア科目	初等音楽科教育論	小学校教育の基本として、「生きる力」や、三つの視点などを理解したうえで、音楽科教育の意義と目標を理解する。表現領域である、歌唱・器楽・音楽づくり、鑑賞領域と共通事項を理解し、教授するための基本的音楽知識について理解するとともに、反復や問いと答えなどの音楽の仕組みについても理解する。鑑賞教材や、歌唱共通教材についても理解を深め、感じ取ったことを言語化する方法についても考察し、指導法を学ぶ。授業を行う際の、教材研究についても深め、授業計画を作成し、模擬授業を行いながら実践力を身につける。授業における評価の観点についても理解する。	
専門教育科目 学科 コア科目	初等図工科教育論	小学校図画工作科で求められる三つの柱を理解し、学習指導要領における目標と内容を理解する。また、授業実践の際に必要な各学年にふさわしい題材や材料・用具への理解を深め、実際の授業場面を想定し、対象学年に沿った指導案を作成する。時には現代の美術作家の作品や活動を知ることによって美術に対する視野を広げるとともに、独自の題材開発につなげていく。また様々な美術鑑賞を行いレポート作成し、芸術(美術)についての社会的・文化的価値について考え、感性を豊かにし、指導者としての資質を高める。小学校図画工作科で求められる三つの柱を理解し、学習指導要領における目標と内容を理解する。また、授業実践の際に必要な各学年にふさわしい題材や材料・用具への理解を深め、実際の授業場面を想定し、対象学年に沿った指導案を作成する。時には現代の美術作家の作品や活動を知ることによって美術に対する視野を広げるとともに、独自の題材開発につなげていく。また様々な美術鑑賞を行いレポート作成し、芸術(美術)についての社会的・文化的価値について考え、感性を豊かにし、指導者としての資質を高める。	
専門教育科目 学科 コア科目	初等家庭科教育論	小学校家庭科学習指導要領における目標や内容について理解を深め、小学校家庭科における中高との体系的なカリキュラムを考える。また、「家族・家庭生活」「衣食住の生活」「消費生活・環境」の各分野について、児童用教科書を用いて教材研究を行い、情報機器を含めた様々な教材を用いた実践の具体例を学ぶことによって、児童の学習意欲を引き出す家庭科の指導法について研究していく。さらに学習指導計画作成の基本をおさえ、実際に指導計画を立て、実践と振り返りを行うことで、授業実践力を養う。	
専門教育科目 学科 コア科目	初等体育科教育論	よりよい体育授業を想像する上で必要不可欠な知識を学んでいく。まず、スポーツ教育としての体育について学び、小学校学習指導要領・体育編の目的・目標及び内容と評価について理解する。また、学習形態や学習過程、器具・用具の工夫等について理解し、体育科としての学習指導の方法や考え方を身につける。最終的に単元計画及び指導案作成をした上で、模擬授業を行い、反省と改善を図る。	
専門教育科目 学科 コア科目	初等英語科教育論	外国語(英語)教育における理論と実践の両面について学び、基本的な指導力を養う。指導案・教材の検討・作成作業も行う。主として小学校児童を対象とし、幼・保・中・高の連携も視野に入れて多面的に言語教育について考えていく。指導案の作成や教材研究の方法を学び、模擬授業を通して、実践的な指導力も身につける。	
専門教育科目 学科 コア科目	特別支援教育学	障害の思想と理念、特別支援教育の理念を基礎基本に据え、障害のある幼児児童生徒に対する教育・指導・支援の在り方を修得し、演習を通して適切かつ有効な実践的支援力を養う。また、肢体不自由、視覚・聴覚障害、知的障害、発達障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害に関する基礎的な知識を身につけ、子どもの理解に基づく支援計画・記録及び評価はどのように行われているのかについて、事例を通して学んでいく。さらに、障害はないが特別のニーズのある幼児、児童を含めた、特別の支援を必要とする幼児、児童を主体とする保育・教育の在り方、進め方について、知識を深めながら演習に取り組み、適切かつ有効な実践的支援力を養う。 (オムニバス方式/全15回) (① 廣森直子/5回) 障害に関する思想と理念について理解するため、歴史的変遷や国際的な動向を学び、家庭・保護者・専門機関・地域との連携の重要性について理解する。また就労支援、社会保障制度等、生涯にわたっての支援のあり方について学ぶ。 (② 智原正行/10回) 特別支援教育・障害児保育の理念とインクルーシブ教育を含めた制度について理解していく。様々な障害や特別な支援を必要とする幼児、児童を主体とする保育・教育の在り方、進め方について学ぶ。またその個別の指導計画や教育支援計画、教員間の協働について理解する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科コア科目	初等教育課程論	学校教育における教育課程について理解し、教育実践を行う上で必要な知識を学ぶ。また、意義と内容、教育課程編成を行う方法等に関する事項について、学習指導要領や幼稚園教育要領から基礎的・理論的な理解を図っていく。さらに歴史の変遷から現代的な課題への取り組みに至るまで多角的な視点から学ぶ。講義を中心として基本的な理解を図り、発問および討議を織り交ぜて考察を深めていく。	
専門教育科目 学科コア科目	保育・教育課程論	教育課程・全体的な計画の意義と編成の原理・方法について検討する。教育課程・全体的な計画の編成の歴史や事例の分析を通して、これらを決定する基本的要因、構成する要素、編成する基本原則について検討し、分析と批評、作成と開発のための力量を育む。その際、生涯教育の視点から幼児の発達をとらえたり、多様な子どものニーズや社会で求められている資質や能力を検討し、幼児への理解と支援の在り方を工夫したりすることを中核に据えた「カリキュラム・マネジメント」ができるようにする。	
専門教育科目 学科コア科目	初等教育方法学	授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT(情報通信技術)の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶ。受講生は「授業設計」にグループで取り組む。授業設計には、学習目標、教材分析、学習過程、評価方法、ICTの活用法が含まれる。授業設計にあわせて受講生間の意見交換、マクロティーチング等を行うなど実践的に学習する。	
専門教育科目 学科コア科目	初等生徒・進路指導論	生徒指導は、全ての児童生徒を対象に、教育目標である人格形成に向けて学校生活全体を通じて日常的に行われるものであることを理解し、生徒指導の意義を考える。また、問題行動、いじめや不登校など事例検討を通して実践的な指導力を養い、児童生徒の自尊心や自己有用感が育まれるような場や機会の設定の在り方について例示する力を身につける。さらに、進路指導を包括するキャリア教育の意義や原理を理解し、教育活動全体を通じた指導の在り方を検討する。	
専門教育科目 学科コア科目	幼児と健康論	幼稚園教育要領の「健康」の領域に関する幼児の心身の発達や運動発達など、心と体の健康について理解する。子どもの健康について「心」「身体」「食育」「生活リズム」「安全」「運動」について課題を整理しつつ健康の現代的課題を理解する。	
専門教育科目 学科コア科目	幼児と人間関係論	幼稚園教育要領および保育所保育指針の「ねらい」と「内容」について、小学校就学前までの発達段階を理解した上で、人間関係の形成の仕方や問題点、指導上の留意点や評価の仕方等、小学校の「道徳教育」の授業とのつながり等と関連させて理解する。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(健康な心と体、自立心、協同性、道徳性と規範意識の芽生え、社会生活との関わり、思考力の芽生え、自然との関わりと生命尊重、数量や図形・標識や文字などへの関心と感覚、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現)」の明確化と見通しをもった保育力の学習、幼児一人ひとりの長所や可能性を理解した評価についての学習も目標とする。 (オムニバス方式/全8回) (③ 矢野 正 / 4 回) 幼児期の人間関係発達について、園生活の関係発達論的視点に立ち、身近な大人との関係、遊びや生活の中で発達する関係、自立心、協同性、道徳性・規範意識、家族や地域との関係の観点から説明する。 (3 小川 圭子 / 4 回) 幼児の年齢・発達ごとに必要な保育者の援助について、具体的にその視点を学習する。個の自立に向けての援助と、集団の中で共存する協同に向けての援助に重点をおき理解を深める。	オムニバス方式
専門教育科目 学科コア科目	幼児と環境論	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領に基づく「環境」の領域を園生活における子どもの成長の姿を通して「環境を通して行う教育」の重要性を理解する。 幼稚園教育要領「環境」のねらいと内容を総合的に捉え理解し、保育の知識を広げる。	
専門教育科目 学科コア科目	幼児と言葉論	子どもが言葉を豊かにし、伝え合う喜びを感じる心を育むために、保育者として身につけるべき子どもの言葉の発達過程について理解する。また、教育要領や保育指針における領域「言葉」のねらいや内容を理解し、子どもの言葉に関わる環境や保育者の関わりを考えた上で、言語発達に係る児童文化財を用いた保育実践を行う。	
専門教育科目 学科コア科目	幼児と表現論	幼稚園教育要領での領域「表現」におけるねらいと内容を理解する。またねらいと内容を踏まえて幼児が遊びを通して身に付けていくべき内容と、その指導法、及び留意点を理解する。言葉での伝え合いや、友達との学び合いなど、他領域との関連についても学び、幼児期の終わりまでに育って欲しい具体的な子どもの姿を描きながら、幼小連携においても理解し、保育を構成できるようにする。また指導計画の観点から、フィードバックするために必要な、評価について理解する。幼児の表現したい気持ちを理解し、そのための保育や援助について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科コア科目 保育内容総論	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された幼児教育・保育の基本を踏まえ、幼児教育・保育は園生活全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に理解する。 保育内容の全体的な構造を理解し、遊びを通じた指導方法を身につける。	
専門教育科目	学科コア科目 保育内容指導法(健康)	幼稚園教育要領に示された領域「健康」のねらい及び内容について学習する。模擬保育の計画を通して子どもが経験し身に付けていく内容を理解し、その実施によって評価の方法や遊びや学びの過程を学習する。また、省察と改善方法を考えることにより保育実践を改善していく視点を学習する。	
専門教育科目	学科コア科目 保育内容指導法(人間関係)	乳幼児期の「人とかかわる力」の発達について理解を深め、具体的に実践に即した指導場面を構想する方法を説明し、情報機器及び教材の活用法の解説や具体的な保育を想定した指導案の作成など演習形式で行う。特に、乳児期、幼児期前半、幼児期後半に分けて、愛着と信頼関係の発達や自我の発達、他者意識の形成や自律の芽生え、そして道徳性と規範意識の芽生えなどの発達の学習を基礎にして、友達と協力する力、伝え合いと他者の思いに気づく力、友達への憧れ意識と認め合う心などを育む方法を学習する。自発的な活動である遊びを中心とした総合的な指導を中心に、自発性・社会性・情緒面の安定・思考力や表現力の育ちについても触れていく。 (オムニバス方式/全8回) (3 矢野 正 / 4 回) 領域「人間関係」のねらいと内容及び保育内容5領域における位置づけについてグループワーク等を通して説明するとともに、これらに基づく指導に対する評価について自立性、協同性や、道徳性・規範意識、周囲の人間関係とのあり方などから説明する。 (3 小川 圭子 / 4 回) 指導案の作成と振り返りを行うことで、各々の課題や改善点の気づきにつなげる。また、模擬保育の構想を行うことによって、領域「人間関係」の特性に応じた保育実践について理解を深める。	オムニバス方式
専門教育科目	学科コア科目 保育内容指導法(環境)	環境を通して育まれる乳幼児の成長・発達を、具体的な子どもの事例から理解する。 「環境」の領域を総合的(社会環境・事象の変化・自然・文化・生命の育み等)に捉え、保育現場に即して、環境遊びや視聴覚教材、具体事例を通じた指導内容を展開する。	
専門教育科目	学科コア科目 保育内容指導法(言葉)	子どもの言葉の発達を促すための環境づくりと保育者の援助について理解を深める。また、保育内容(人間関係)や(表現)等、他領域との関連も踏まえて領域(言葉)への理解を深めた上で、視聴覚教材や具体的な事例を通して子どもの言葉を育むための保育者の援助について理解し、保育計画・実践を行う。さらに、外国にルーツを持つ子ども等、言葉に関して特別な配慮を必要とする子どもに対する援助についても考えていく。	
専門教育科目	学科コア科目 保育内容指導法(表現)	幼児の表現を支える身体の発達や、言葉の発達、人間関係の築きも理解し、具体的場面を基に、幼児の心情理解や、思考、動きなどの特徴を抑える。感性が豊かに育まれるような環境を学び、思いや意図をもって表現することができる保育を構成する力を身に付ける。幼児の表現を助ける様々な教材研究を行い、活用方法を学び、実践的に構成することをできるようにする。年齢や発達に応じ、幼児の表現したい心情を汲み取りつつ保育構成をする。それを模擬保育として具現化し、その振り返りなどにより、保育を客観的に考察し、改善する方法を身に付ける。	
専門教育科目	学科展開科目 初等道徳教育論	講義の主な柱は、実践事例紹介と模擬授業実施。現場で実践された事例を紹介し、道徳の時間の魅力を知らせ、夢と希望の生き方につながる学習であることを実感させる。また、現代的な課題であるいじめやSNS問題等は複数教材を紹介し、重点意識を持たせる。模擬授業では、指導案作成をはじめとして、教材・発問・板書等、具体的スキルを身につけ、道徳教育を推進する主体者であることを意識させる。道徳教育の内容・発達段階・評価等の基礎基本については、目標である「よりよく生きるための基盤となる道徳性を育てる」ことを常に意識し理解させる。	
専門教育科目	学科展開科目 初等特別活動指導論	「小学校学習指導要領」を踏まえて各特別活動について目標、内容及び指導方法を把握し、小学校教育における特別活動の意義および活用方法について理解する。集団活動の種々の面でのその活動方法を学ぶとともに、児童間のコミュニケーション能力を高める方法を知るために、学生自身がアクティブ・ラーニングを体験することによって、「特別活動」をより効果的に運営できるようになる。	
専門教育科目	学科展開科目 総合的な学習の指導論	総合的な学習の時間の目標、内容及び指導方法を把握し、小学校教育における総合的な学習の時間の意義および活用方法について理解する。また、児童が身に付けるべき思考力・判断力・表現力等および学びに向かう力、人間性等のあり方について考察し、そのために必要な探究課題の設定方法を軸に総合的な学習の時間のあり方について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科展開科目	初等教育相談	子どもの発達を支援するために、教育相談の意義や理論、幼児期、児童期、思春期の発達の特徴、カウンセリングに基づく教育相談のあり方について説明し、幼児・児童の心理的問題を解決するために、教育相談に活用できるカウンセリング技法、不登校・不登園、いじめ、非行、虐待被害等の課題に対する教育相談のあり方、教育相談の適用範囲と他機関などとの連携についても説明する。	
専門教育科目 学科展開科目	幼児の理解	幼児理解の意義・原理、幼児理解の方法を具体的に理解するために、幼児期の心身の形態や機能の成長・変化の過程、内外未分化な時期から自己が獲得されるまでの心の育ち、さらには思考、情動、適応能力、意欲の発達や対人関係の発達などについて学習する。 保護者の思いや考え方を理解し、対応の在り方を考察する。	
専門教育科目 学科展開科目	児童心理学	生涯発達における児童期の発達の意義を明らかにし、発達の諸側面の特徴と児童期発達の概要、現在問題となっている不登校、いじめ、虐待について要因と介入のあり方、児童期と青年期の過渡期にあたる思春期の発達の特質について説明する。これらを通じて、教育実践への応用を考察する。	
専門教育科目 学科展開科目	障害児(者)心理学	さまざまな障害をもつ人に心理的な支援をする上で必要な、障害児(者)の心理や身体機能の障害、および精神的な障害に関する基本的な知識を習得することを目的とする。特に、自閉症やダウン症など知的障害を合わせ持つ障害を中心とした心理的特性、行動特性、認知特性などについて詳しく講義し、障害の早期発見と適切な特性理解や、家族を含めた周囲の環境に配慮した関わり方やよりよい支援ができるように講義・解説を行う。また、障害をもつ子ども達の保護者の心理についても理解を促す。	
専門教育科目 学科展開科目	子ども家庭支援の心理学	生涯発達に関する心理学の基本的な知識を習得し子育てで家族をめぐる現代の社会的状況と課題について理解するとともに、初期経験の重要性や発達課題などについて理解する。また、子育ての経験と親としての育ちや子どもの成長と共に変化する親子の関係性など発達の観点から親子関係や家族環境を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。特に、現代社会における多様な家庭とその理解、および特別な配慮を要する家庭などについても事例を通して理解を深める。	
専門教育科目 学科展開科目	ICT活用演習	教育や保育の現場で情報機器を活用する場面を想定して実践的な課題に取り組み、ICTの活用法を深化させる。小集団で企画構想を練り役割分担して、課題の作成から発表、および相互評価までの学習活動を行う。ネットワーク上のリソースやコミュニケーションツールを活用し、学習者が協同して主体的に学習を進めるよう授業を展開していく。	
専門教育科目 学科展開科目	保育原理	『保育原理』とは、子どもの保育に携わるすべての者が、共通に理解認識しなければならない保育の原理原則であり、保育の営みの根幹となるものである。乳幼児時期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期であり、子どもがどのように護られ、育てられ、子ども時代にふさわしい経験を積むかは、その後の発達成長に大きく関わる。今日の大きな社会変化による子育て力の低下等が指摘される中、さらに保育の重要性と質の高い養護と教育の機能向上支援が保育者に求められている。これらを踏まえ、まずは保育とは何か、その基本である保育の意味や意義及び目的を学び、人間教育の根源となる乳幼児教育の尊さと重要性について考え認識する。また、保育制度全体を把握し、保育の特性を学び、保育の目標・役割・内容等を理解する。そして保育の思想と歴史の変遷について学び、保育の現状と今後の課題について考察する。	
専門教育科目 学科展開科目	子ども家庭支援論	子ども家庭支援の意義と役割を理解した上で、子育て家庭に対する支援の体制を学習する。また、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題についても理解を深める。特に、保育の専門を生かした子ども家庭支援の必要性を理解し、保護者とともに子どもの育ちの喜びを共有する視点と感性、保護者の子育てを実践する力の向上と可能性などについても理解を深め、その支援方法について具体的な事例を通して学ぶ。受容的な関わり方、自己決定の尊重、秘密保持などの保育者の基本姿勢についてはグループワークを通して学習する。	
専門教育科目 学科展開科目	乳児保育 I	乳児保育の意義・目的と保育者の大切な役割について理解する。女性の社会進出や家庭の機能の変化に伴い、3歳未満児の保育へのニーズは今後ますます高まることが予想される。そこで、3歳未満児の各時期の発達の特徴を知り、保育所や認定こども園等における低年齢児の保育について、より望ましい環境を考え、必要な知識や保育内容、保育方法を身につける。また、乳児保育担当者として就職した場合を考え、低年齢児向けの絵本、遊具、手遊び・歌遊び等の教材研究も取り入れ、実践的にも備えておく。現代の社会や保護者の意識の変化にも目を向け、乳児保育の現状と課題についても把握し、これからの乳児保育の方向、子ども・子育て支援新制度、保育所や認定こども園の役割等についても考えていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科展開科目	乳児保育Ⅱ	保育内容・方法、環境設定、低年齢児保育の現状や問題点をより掘り下げる。まず、保育所、認定こども園等における乳児保育の基本を具体的に学ぶ。また保育の環境構成(保育士、保育室、遊具)や生活・遊びの実際、配慮すべき点等を理解し、指導計画(年齢別、個人と集団)の立て方を学ぶ。さらに、少子化、核家族化、都市化、地域の間関係の希薄化といった厳しい社会状況の中での3歳未満児保育のあり方も考え、現代の多様なニーズに対応した保育所等の家庭支援、地域の子育て支援はどうあるのが望ましいのかについても模索していく。	
専門教育科目 学科展開科目	社会福祉論	児童福祉分野の専門職である保育士に必須の基礎知識である社会福祉について理解し、児童福祉や児童の人権や家庭支援との関連性について理解することをめざす。 具体的には、社会福祉の理念と歴史、社会福祉の制度、社会福祉における相談援助、社会福祉の利用者保護、社会福祉の動向と課題についてとりあげ、社会福祉の全体像を理解し、これからの課題について考える。	
専門教育科目 学科展開科目	子ども家庭福祉	現代社会における乳幼児期から児童期にかけての子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解し、子どもの人権擁護、児童の権利に関する条約など、制度や実施体系について学ぶ。また、貧困家庭、外国籍の子ども等を含めた子ども家庭福祉の現状と課題や動向と展望について考察する。特に、子どもの人権擁護と現代社会における課題について意識を高め、子ども家庭福祉の実施体系を学習するとともに、子ども虐待、DVとその防止や母子保健と子どもの健全育成についても習得する。	
専門教育科目 学科展開科目	社会的養護Ⅰ	現代社会における、児童や家庭をとりまく環境の変化や児童家庭福祉の現状の多様化について学び、社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。里親制度・養子制度・ファミリーホーム・ショートステイ・トワイライトステイ等、現代の社会的養護の制度と実施体系について理解し、ディスカッション等を通して子どもの人的擁護との関連性について考える。また、社会的養護の利用者や形態、関係する専門職等について理解し、児童相談所等の事例から社会的養護の現状と課題について考える。	
専門教育科目 学科展開科目	社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅰを踏まえ、社会的養護の内容としては具体的にどのようなものがあるのか等基礎的な内容について理解し、事例を参考に、施設養護及び家庭養護の実際について学び、それぞれの特性や対象とその課題を考える。また、社会的養護を実際に進めて行く上で必要となる計画・記録・自己評価や相談援助の方法・技術に関する専門的知識及び技術を身につける。さらに、子ども虐待の防止と家庭支援をどのように進めて行くべきなのか、今後の社会的養護のあり方についてディスカッションを行う。	
専門教育科目 学科展開科目	子どもの保健	保育者・教育者として、子どもの心身の健康増進を図るため、「子ども」「健康」の定義を理解し、保健活動の意義と目的について学ぶ。また、様々な統計データをもとに、母子保健に関する現状と課題、それに対する施策について学ぶ。子どもの保健に関する具体的な方法については、子どもの多岐にわたる成長発達過程を把握し、子どもの健康状態とその把握方法、また健康に関与する種々の要因・諸問題や子どもの疾病の特徴、予防、対処等について、保健行政、保健活動動向を踏まえつつ、包括的に理解・考察できる力を養う。	
専門教育科目 学科展開科目	子どもの健康と安全	子どもの保健と安全に係る保健活動の計画及び評価について学び、子どもの健康増進、指針の発育・発達を促す保健活動や環境について、ガイドラインや近年のデータ等を踏まえて考える。また、衛生管理、安全対策、危機管理について、具体的な事例をもとに学び、全教職員や外部の専門機関と連携し、組織的、計画的に取り組む重要性を理解する。さらに、子どもの疾病への対応の仕方や救急措置についても学び、普段から家庭や地域と連携していく必要性を理解する。	
専門教育科目 学科展開科目	子どもの食と栄養	子どもの食生活の現状と課題について学び、食育基本法や食育に関する諸制度制定の経緯について理解する。また、栄養に関する基礎知識を学んだ上で、乳汁栄養、離乳の進め方、幼児期の栄養と食生活など、乳児期・幼児期等における発達と食生活についても理解する。さらに保育において食育の内容と指導計画の組み立て方や、ガイドラインに基づいた食事の提供や食物アレルギーのある子どもへの対応法を理解する。毎回テーマに従って授業を進めていき、その中で学生は演習課題に沿って各自でレポートや教材を作成する。	
専門教育科目 学科展開科目	子育て支援	保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示などの保育相談支援について、その特性と支援の展開を具体的に学習するとともに、特別な配慮を要する子ども及びその家庭への支援等、様々な場や対象に即した方法や技術を具体的に学ぶ。特に、子どもや保護者の生活・活動状況および日頃の状態を把握した上で支援の計画と環境の構成を行い、支援の実践につなげていく過程を理解し、その方法について具体的な事例を通して学習を行う。また、記録・評価・カンファレンスについてもグループワークを通して修得する。	
専門教育科目 学科展開科目	障害児保育論	特別支援教育の理念を基礎基本に据え、障害のある子どもや特別に配慮を要する子どもの理解及びその保育、教育の在り方・進め方の理解を深める。また、障害のある子どもや特別に配慮を要する子どもに対する支援方法を理解し、支援計画を作成していく。保護者や関係機関との連携の重要性とその在り方、連携の現状と課題の理解を深める。アクティブラーニングの要素を含む授業展開を推進し、毎時間、プレゼンテーション、ロールプレイ、グループワーク、ディスカッションを行いながら、適切かつ有効な実践的支援力を身に付けていく。	

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 学科展開科目	キリスト教的保育論	キリスト教を基盤とした教育の原点について学び、私たちの生き方に及ぼすイエスの誕生について考えることによって、キリスト教的観点から見た幼児保育の大切さを実感する。また、教育者としての使命の偉大さは情熱と献身をもって生きるに値するということを理解し、それぞれが受けてきた教育を振り返り、記憶に残る教育者・保育者について意見交換をしていく中で、幼稚園や保育所における、学生それぞれの教育者・保育者としての理想像を確立していく。	
専門教育科目 学科展開科目	モンテッソーリ保育論	教育改革が行われ子どもの主体性を育てるうえで、何故、今モンテッソーリ教育が求められるようになったのかを考えていく。そのために、まずは子どもの本質を知り、モンテッソーリ教育の狙いを理解する。具体的には、まずモンテッソーリ教育の基本的理論(純粋理論)0～6歳のこどもの発達的特徴を知る。そして0～3歳・3～6歳のモンテッソーリ教育の具体物(教具)の領域と目的を知り、扱い方のポイントを学ぶ。その中で、教具を使った活動が子どもたちの発達に何をもちたらし効果が得られるのか、子どもの主体性との関係を学ぶ。またマリア・モンテッソーリが目指したものは何かを考察する。	
専門教育科目 学科展開科目	幼児音楽指導法Ⅰ	保育の中で使うあそび歌や、わらべうた、音楽に合わせた身体運動などについて学び、音楽遊びのレパートリーを増やす。幼児の音楽遊びは他領域との関連も重要であることから、遊びを丁寧に考察し、それまでに修得した専門的知識も活用しながら実践力を身に付ける。幼児では合唱などは難しいものの、わらべうたによるカンなど、幼児でも可能な和声の響きを体験できる技術も身に付ける。具体的な保育実践を想定し、保育指導案を作成し、ロールプレイングをして、実践力を身に付ける。	
専門教育科目 学科展開科目	幼児音楽指導法Ⅱ	身の回りの音が鳴るものとかかわりを持つために、どのような環境整備をする必要があるのかを学ぶ。また身の回りの音から、簡易な楽器を使って遊ぶ幼児の音楽活動の指導法を身に付ける。楽器の基本的知識も身に付け、幼児の社会性や言葉の発達、身体運動能力についても理解したうえで、幼児が楽しめる合奏の指導法を学ぶ。そのために必要な作曲技法も身に付ける。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (11 金井秋彦・59 東前克枝2回) 音楽とかかわりを持つために、どのような環境整備をする必要があるのか理解し、統合して発表できる能力を身に付ける。 (11 金井秋彦7回) 幼児用の合奏曲を作成することで、その指導方法を学び、より実践力を身に付ける。簡単な歌に伴奏がつけられるよう、基本となるコードについて学び幼児音楽の高い実践力を身に付ける。 (59 東前克枝6回) 楽器の基本的知識を身に付け、幼児の社会性や言葉の発達、身体運動能力も理解したうえで、幼児が楽しめる合奏の指導法を身に付ける。	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目 学科展開科目	幼児造形指導法Ⅰ	造形表現活動がもたらす子ども(0歳から3歳児頃まで)の心身の発達について理解する。また自分自身の感性や創造力を高め、教材や題材に関する知識の学習や技術を習得し、子どもの発達を踏まえて造形活動を計画することの必要性など、幼稚園や保育園で実際に行われている様々な活動を体験し考察する。このことを通して、保育現場での造形表現指導に対応できる能力と知識を身に付ける。	共同
専門教育科目 学科展開科目	幼児造形指導法Ⅱ	幼児造形指導法Ⅰで学んだ内容や実習で学んだ事柄をふまえて3歳児から5歳児頃の造形を学び、より実践的な制作活動に取り組む。実際に幼児が描いた作品を鑑賞し、発達段階を考慮した制作を行うことで、幼児の発達段階にふさわしい造形の題材及び指導法の理解を深めていく。また、保育現場で使用されている様々な造形用具の使用方法について再確認し、安全教育や幼児への援助の方法について考える。題材の学習や技術の習得、造形活動における発達の理解など、幼稚園や保育園での造形表現指導に対応できる能力と工夫する力を身に付ける。	共同
専門教育科目 学科展開科目	野外活動	幼児教育の現場では、レクリエーションや園外での保育活動の指導、あるいは緊急時における対応など、保育者にとっても野外での種々の活動のために基本的な技術や知識が要求される。また、社会生活の中での余暇の増大により、野外での種々の活動が生活の中に取り入れられる機会が増加している。 本授業では、様々な活動を通して、野外活動の基本的な知識や技術などを身に付ける。また、コミュニケーション能力を高めて、周囲の環境に興味や関心をもち、積極的に関わっていける人間となる。	
専門教育科目 学科展開科目	リトミック演習	リトミックを考案したダルクローズについて学ぶ。ダルクローズがなぜ音と動きを融合させようとしたのかについて理解し、ダルクローズがリトミックを生み出した理念について理解する。実際にリトミックを通して保育をする上で、基本的なリズム運動、ピアノ演奏法を学び実践力を身に付ける。また年齢に応じたリトミックのねらいや、教授方法、身体運動能力等を踏まえながら指導立案できるようにする。リトミックを通してより幼児・児童の音楽表現を豊かにできるように援助する方法を学ぶ。	
専門教育科目 学科展開科目	こども音楽療育概論	音楽を通して障がいのあるこども達の発達の援助を行うための音楽療育に関する基礎・専門知識について学習する。具体的には、障がいのあるこどもの音楽療育に関する基礎・専門知識について学習し、心身の発達過程と音楽的発達との関係、音楽と遊びとの関係、音楽療育の意義と障がい種別の具体的援助方法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

(教育学部教育学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科展開科目	こども音楽療育演習	音楽を通して障がいのあるこども達の発達的な援助を行うための音楽療育に必要とされる演奏および援助技能を養う。具体的には、障がいのあるこどもを対象とした音楽療育の実践方法に関する基礎と専門知識・技術・技能について学習し、発達の援助のための選曲や音の使い方、障がい種別・形態別(個別、集団など)の療育の具体的方法、楽器の活用方法、心身の発達と音楽との関連を視野に入れた実践方法について学ぶ。	
専門教育科目	学科展開科目	こども音楽療育実習	音楽を通して障がいのあるこども達の発達的な援助を行うための音楽療育に関する実践能力を養成する。具体的には、音楽療育概論や演習を通じて学んだことを、障がいのあるこども達の通所施設で実践する。まず、音楽療育に関するワークショップに参加し、具体的実践方法について学ぶ。その後施設実習を行い、音楽療育の実践とこどもたちとのグループ活動体験を通して、対象児への理解を深め、かかわり方の技術・音楽療育の技術の向上を目指す。	
専門教育科目	学科展開科目	童謡創作論	音楽は、「鑑賞」、「演奏(表現)」、「創作」という3つの方法による取り組みが可能である。普段取り組む機会が少ない「創作」という行為にスポットを当て、子どもの世界を意識した創作歌曲(童謡)の制作を到達目標として進めていく。まず音楽理論の復習をする。そして童謡の制作段階では、「言葉」の分野からアプローチを開始する。既成の童謡の考察も含め、各自の体験、感性、空想力など様々な角度からの可能性を追求しつつ、童謡詩を創作したい。完成した童謡詩を用い、続く「音楽」の分野からのアプローチへと進めていく。	
専門教育科目	学科展開科目	教育実習(幼・小)	実際の小学校・幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、小学校・幼稚園の機能・役割、一日の流れや教諭の様々な役割を把握する。 担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育・保育を実践する。 観察・参加実習において実習生自ら児童・幼児と関わり、児童・幼児の実態を把握し、個々に応じた適切な支援・援助を実践し、省察する。 教壇授業や研究授業・責任実習の経験を通して児童・幼児の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。 指導教諭の学級経営において観察・参加・指導を行う中で、生徒指導や学級経営の重要性を学び、実践のための基礎を修得する。	共同 (幼稚園教育実習は主に大森①・谷原が担当し、小学校教育実習は主に佐久・村津・深川・松崎が担当する。)
専門教育科目	学科展開科目	教育実習事前事後指導	事前指導においては、小学校教育実習、もしくは幼稚園教育実習の意義・目的をおさえ、必要性を理解する。既習の内容を踏まえて、小学校・幼稚園教育において実践力を養い、教育を深める。学習指導だけではなく、児童の生活指導や、掃除、給食など含めた学校生活全体での教師の役割を認識し、実践力を高めるよう学習する。事後においては、経験した実践を振り返り、学びを考察する。	共同 (幼稚園教育実習は主に大森①・谷原が担当し、小学校教育実習は主に佐久・村津・深川・松崎が担当する。)
専門教育科目	学科展開科目	幼稚園教育実習	実際の幼稚園での観察・参加・指導実習を通して、幼稚園の一日の流れや幼稚園教諭の様々な役割を把握すると共に、幼児が主体的に遊びに向かう環境の在り様について学び、自らも教育・保育を実践する。 観察・参加実習において実習生自ら幼児と関わり、幼児の実情を把握し、発達を踏まえた声かけや支援・援助を行い、実践力を高める。 責任実習の経験を通して児童・幼児の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、環境構成や指導・保育実践について学びを深める。	共同
専門教育科目	学科展開科目	小学校教育実習	実際の小学校での観察・参加・指導実習を通して、小学校の一日の流れや小学校教諭の様々な役割を把握する。 担任の補助を行い、児童が主体的・対話的・深い学びに向かうことのできる学習環境の在り様を学び、自らも教育を実践する。 観察・参加実習において実習生自らが児童と関わり、児童の実態を把握し、個々に応じた適切な学習指導を実践し、省察する。 教壇授業や研究授業の経験を通して児童の主体的・対話的で深い学びを目指した指導案を作成・実践し、教科指導についての学びを深める。 指導教諭の学級経営での観察・参加・指導実習を通して、生徒指導や学級経営の重要性を学ぶ。	共同
専門教育科目	学科展開科目	教職インターンシップ	幼稚園、小学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を長期的に観察、体験し、学校における教育活動についての、実践的、具体的に理解する。学校教育の様々な場面における、教師の業務について知り、学校の教育活動について具体的に理解する。また、教員と幼児・児童との関係について具体的に理解する。	共同 (幼稚園は主に大森①・谷原が担当し、小学校は主に市川・村津・深川・松崎が担当する。)
専門教育科目	学科展開科目	保育実習 I A	実際の保育所での観察・参加実習を通して、保育所の一日の流れを把握し、保育所の役割と機能について理解する。保育士の補助や保育活動(食事・午睡等)での参加・実践を通して、保育士の様々な役割と業務内容、保育実践について体験的に学ぶ。子どもと関わりながら通所児の実態を把握し、得たことを基にして個々の発達に応じた声掛けや適切な援助について学ぶ。責任実習の経験を通して保育計画と保育の展開について学び、総合的な学びを深める。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(教育学部教育学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学科展開科目 保育実習ⅠB	「保育実習指導ⅠB」や他の関連教科での学びを基盤とし、施設での観察・参加実習を通して施設の一日の流れを把握し、施設の役割や機能を具体的に理解する。施設の指導員の補助を行い、施設における保育士の役割や他職員との連携を含めた業務内容、職業倫理について体験的に学ぶ。施設の利用者や入所者と実際に関わることを通してその理解を深め、状況に応じた適切な声掛けや支援・援助を行い、実践力を高める。	共同 (・施設の役割や機能、職業倫理を理解することに関する指導…智原・廣森・荒木②) ・施設における保育士の役割、利用者や入所者との関わり、適切な支援・援助等の実践指導…智原・廣森)
専門教育科目	学科展開科目 保育実習指導ⅠA	保育実習ⅠA事前事後指導学習として学ぶ。実習の意義と目的を理解し保育所実習の基本的内容を学ぶ。また保育所についての理解を深め、実習に向けての心構えを形成する。実習に行くための課題を明確化させ、事後には実習を振り返り、課題を明確化し、自己評価を深める。	共同
専門教育科目	学科展開科目 保育実習指導ⅠB	保育実習ⅠB(施設実習)の事前事後指導学習として学ぶ。多種類にわたる施設それぞれの概要について理解し、その利用者や入所者についての理解を深める。そして、施設における保育士の役割について理解し、施設実習に臨むにあたっての心構えを身につける。授業に際しては、受講生同士の積極的な意見交換、グループ活動などを取り入れる。	共同
専門教育科目	学科展開科目 保育実習Ⅱ	保育実習ⅠAで学習したことを基に、参加・指導実習を通して子ども理解をし、一人一人に対するきめ細かい援助方法を身に付ける。保育士の役割や配慮について実践的に学び、職業倫理について理解を深める。責任実習(部分実習または一日実習)の経験を通して、長期的視野を持った指導案作成の意義と方法、保育実践力を養う。保育全般に参加しながら、子どもの家庭支援・保護者支援、地域社会との関わりについても理解を深める。	共同
専門教育科目	学科展開科目 保育実習指導Ⅱ	保育実習ⅠAを踏まえて、保育実践について深め、保育実習Ⅱの事前事後指導学習として学ぶ。これまで学習した関連科目の総まとめとして、また保育実習ⅠAを基礎として、保育実習での実践、観察に生かす。事後指導では、経験した観察と実践での学びを考察し、自己課題を明確にしたうえで、保育士の役割について理解をさらに深める。	共同
専門教育科目	学科展開科目 保育実習Ⅲ	「保育実習ⅠB」での学びを基盤とし、観察・参加・指導実習を通してさらなる経験を積むことによって、施設の役割や機能について理解を深める。保育士の業務の補助や、利用者に対して主体的に援助を行うことによって、施設における保育士としての必要な資質や能力を習得する。様々な困難さを持つ利用者との関わりによって、利用者の人権に配慮した最善の利益を追求する支援・援助についての理解を深める。部分実習・責任実習を通して、支援計画作成と実践、評価について学ぶ。家庭と地域の生活実態に触れ、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力や判断力を養い、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	共同 (・「保育実習ⅠB」での学びを基盤とした、施設の役割や機能の理解、職業倫理、子育て支援に関する指導…智原・廣森・荒木②) ・施設における保育士の役割、利用者や入所者との関わり、支援・援助等の実践、部分・責任実習…智原・廣森)
専門教育科目	学科展開科目 保育実習指導Ⅲ	保育実習Ⅲ(施設実習)の事前事後指導学習として学ぶ。保育実習ⅠB及び保育実習指導ⅠBでの学びを基にして、施設での実習をさらに深めるための知識や心構えを習得する。授業に際しては、受講生同士の積極的な意見交換、グループ活動などを取り入れる。	共同
専門教育科目	学科展開科目 教職実践演習(幼・小)	これまでの学修や活動、実習体験を通じて身に付けた資質能力を振り返り、現段階で自分にとっての自己課題を確認する。また、グループワークにて、それぞれの実習体験をもとに各園や学校のさまざまな特色や教育・保育方針について共有し、事例研究や模擬授業を行う中で他者と意見交換をしていくことで、新たな視点を身につけ、不足している知識や技能を補う。教育者・保育者としてあるべき姿を各自が持ち、自らも学び続ける態度を養う。	共同
専門教育科目	学科展開科目 卒業研究	4年間の大学生生活の集大成のために設定された科目。1年次から積み上げてきた教養教育、専門教育の学習成果を踏まえて取り組む。その過程で「見つける力」「調べる力」「まとめる力」「発表する力」「考える力」の五つの力で構成される「知の足腰」を鍛えることをめざす。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	宗教と人間	キリスト教と人間	イエス・キリストが告げ知らせた「神の国」とその生涯を通して、キリスト教の人間観についての理解を深める。福音書をたよりにイエスの教えと生き方に触れ、今日の私たちに響くメッセージについて考察する。1. キリスト教を学ぶとは、2. 日本人の宗教観、キリスト教と文化、3. 祈るということ、4. 聖書について、5. 聖書について、6. イエスとは何ものか、7. マリアの生き方、イエスが伝えた神の国。	
共通教育科目	宗教と人間	現代とキリスト教	人間のいのちについて多面的に学ぶとともに、今日の世界において他者のために他者とともに生きる姿勢について考察する。他者との関わりのおかげで生かされ愛されている自分に気づき、同時にいのちを育む存在であることを自覚する。自分のいのちをより豊かに生きることについて、福音書およびモデルケースから考察する。1. 愛するということ、2. いのちについて、3. 平和をもたらす人、4. いのちへの奉仕、5. 生きるということ。	
共通教育科目	宗教と人間	人間論(哲学)	日常生活であまり顧みることなく自明なものとしてある「人間」という存在。各自がそれぞれ自明なものとして無意識にもつ人間観によって私たちは日常生活をおくり、ときに共感し、ときに対立し、暮らしている。この自明な存在としての「人間」を考える。さまざまな学問領域から人間論を論じることが可能であろう。本講義では、ギリシャ哲学以来「人間とはなにか」という問いに答えようとさまざまな思索が積み重ねられてきた。哲学的な思索をもとに「人間とはなにか」という問いに対する答えを考えてみたい。	
共通教育科目	宗教と人間	宗教論	誕生の意味、死の意味、苦難の意味、またそれらすべてを含んだ人生の意味といったように、私たちは人生で出会うあらゆるものにその意味を求めて止まない。宗教は、人間生活のさまざまな局面に現れ、これらに答えを与えてくれるものではなかったであろうか。科学的知識が普及するにつれて宗教は衰えていくと思われてきた。しかし衰えるどころか、科学技術にもっとも接しているはずの若者がその中心的な担い手となった宗教ブームがおこったりしている。また最新テクノロジーの整ったオフィスや工場で働いていた人たちが、またその恩恵にあずかっていた人たちも中高年にさしかかると神社仏閣を巡ることに関心を持つたりする。宗教とはいったい何なのか、宗教的な意識とはどのようなものなのか、どんな役割を担っているのか、また私たち現代人は宗教に何を求めているのか、このようなことをみんなで考えていきたい。	
共通教育科目	社会と人間	心理学	日常的に経験する人間行動を8つのテーマから取り上げ、視覚と聴覚について感覚・知覚心理学から、記憶や忘却について学習心理学から、学習行動について教育心理学から、うっかりミスやヒューマンエラーについて認知心理学から、夢や言い間違いについて無意識心理学から、劣等感や自尊心について人格心理学から、他人に対する行動について対人心理学から、思いやりや傍観行動について社会心理学から、自己意識について人格心理学から説明していく。	
共通教育科目	社会と人間	教育学概論 I	教育の役割と期待への考察。今日における教育への期待とその役割を考え、生涯学習社会における学校教育について考察する。人間形成における教育の機能を理解する。本講義では、人間の教育の必要性、教育の意義・目的、人間の発達・成長と教育、学校教育、家庭教育、子ども理解、特別支援教育などについて学ぶ。	
共通教育科目	社会と人間	ライフサイエンス	DNAの解明に端を発し急速な発展を遂げてきた生命科学を理解するための基礎を学び、現代における生命科学の全貌と諸問題を概観する。19世紀から20世紀前半において発見された細胞説、進化論、遺伝の法則、染色体説等が基礎となり、1953年にDNAの構造が解明され、生命現象の本質的理解がなされるようになり、がんや難病の解明や治療など、医学の発展にも大きく寄与している。DNAや遺伝子、染色体の研究発展は生命操作にまで及び、現代社会の様々なところで応用される一方、倫理的な問題も重要な課題となっている。	
共通教育科目	社会と人間	社会学	日常生活でよく出会う社会事象を事例として、社会学的なものの見方を身につけられるよう社会学の諸概念や理論を紹介する。まず、著名な社会学者の研究・理論をいくつか紹介し、社会学的なものの見方・とらえ方を説明する。そしてそれらを踏まえて、家族・宗教・地域社会・環境問題などについて社会学はどのような研究をしてきたのかを紹介する。そしてこれらをとらえて、社会や人間についての理解を深める。	
共通教育科目	社会と人間	サービスマーケティング	大学で学んでいる知識・技術を活かし、地域社会のニーズ等を踏まえた社会奉仕活動を体験する。このことによって、専門的知識の意義や意味を深く理解し、あわせて自らが社会を構成する一員であるという意識を高めることを目的としている。地域の課題に目を向け、自分たちで活動団体や課題をみつけ、活動に参加あるいは自ら活動をおこなう。授業は、まず、サービスマーケティングあるいはボランティア活動についての講義と仲間づくりをおこない、グループを結成し、その後、それぞれのグループが見つけたボランティア活動をおこなう。最後に、ポスター発表という形式でまとめ、まとめの授業でいくつかを紹介し、体験や知識の共有をおこなう。学生は約16名のグループにわかれ、各グループに教員が1名つき、相談・助言のもとに実施。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	社会と人間 キャリア入門	「キリストに信頼し、愛の実践に生きる」、信じ合う・愛し合う心をもって進んで国際社会に貢献する基盤となる知識と態度を養う。 保育・教育・看護といった対人援助の専門職を目指す学生が、保育園・幼稚園・小学校・中等学校・福祉施設等にある様々な発達段階にある対象に接することで、体験を通して対象理解に関心を持ち、学生間の共同学習を通して理解を深める。そこで他者及び異文化を尊重し、共感力・想像力を基に多様な場における多様な人々との良好な人間関係を形成の基礎とする。	共同
共通教育科目	社会と人間 セーフティプロモーション	セーフティプロモーションとは、injuryおよびそれによる安全・安心への脅威を保健医療上の課題としてとらえ、公衆衛生的アプローチによって予防しようとする取り組みを示す。ヘルスプロモーションが疾病を念頭においた健康づくりであるのに対し、セーフティプロモーションは外傷を念頭においた生活の場における安全・安心づくりであり、個人・集団(学校を含む)・地域・国家レベルでの取り組みへの理解が必要である。 セーフティプロモーションの概念、我が国における各領域におけるセーフティプロモーション、セーフコミュニティ、セーフティプロモーションスクールについて公衆衛生的視点から予防について理解することを目指す。	
共通教育科目	社会と人間 生活と化学	現代社会においてより良い日常生活・健康的な生活を送る上で必要な基礎的な化学的知識を学ぶ。原子の構造(陽子・中性子・電子・電子殻)、周期律と原子の性質、化学結合(共有結合・イオン結合・金属結合)と物質の構成(分子・イオン化合物・金属化合物)、物質の三態(固体・液体・気体)と物質の性質、化学反応、酸と塩基、酸化と還元、有機化学、日常生活と化学、環境問題(公害・地球環境問題<地球温暖化・酸性雨・オゾン層の破壊>、有害物質・放射能汚染と健康等)の化学。	
共通教育科目	社会と人間 社会と人権(日本国憲法)	憲法の内容は、「人権」(国民の権利と義務)に関する記述と、「統治」(国家のしくみ)に関する記述に分けることができる。本講義では「人権」に関する規定の解説をおこなう。憲法の人権規定にかかわった具体的な裁判の解説をとおして、憲法が私たちの日々の生活にいかに関与している存在であるのかということの理解を深める。またその時々憲法をめぐるニュースを紹介する。	
共通教育科目	社会と人間 ジェンダー論	ジェンダーとは、社会的につくられた性差を意味します。性差には、生物学的な男女のちがいでなく、そのことを根拠とした性差別としてとらえられるものも含まれます。男女のちがいと性差別とを明確に区別することは容易ではありません。主張する人の立場の違いや考え方によって、とらえる事実やもののみかたは異なります。このような状況のなかで、人間の生き方、あり方は多様であることを前提としつつも、これまで「あたりまえ」と思い込んでいたことを問い直す視点として、ジェンダー概念は有効です。それは公のものだけではなく、私的な領域にも踏み込んでいきます。この授業では、毎回、トピックを設けて身近な問題としてのジェンダーについて考え、話し合い(グループワーク)、相互理解を深めていくことをねらいとします。	
共通教育科目	社会と人間 生命倫理	科学の発展によってこれまで人間の力では不可能であったことがつぎつぎとできるようになってきた。生命の分野でもおこっている。運命と諦めざるを得なかったことがそうではなくなってきた。それは人間にとっての自由が広がったことを意味する。しかし自由が広がったからといって可能なことは何でもおこなっていいわけではない。人間の歴史は自由獲得の歴史でもあった。そこにさまざまな問題が起こってきている。 そこでこの問題を検討するために、これらの問題を考えるための生命倫理の基本的な考え方を説明する。	
共通教育科目	表現・行動と人間 くらしと色彩	色彩は、言語を超えたサインだと言われている。それは、人の視覚情報の内80%以上を占め、生活の様々な事柄を識別したりセラピーとして扱われたり、環境などの状況を緩和する事例も数多くあるなど、人の心と体に大きな影響力、コミュニケーション力を持っているからである。色彩それぞれが持つ意味や扱い方、くらしの中に溶け込んでいる色彩の豆知識などを取り入れた授業をおこなう。色彩の秘密や不思議に触れて、自分自身のくらしをより良く豊かにする活用方法について学ぶ。	
共通教育科目	表現・行動と人間 人と音楽	時代様式に着目しながら音楽作品を鑑賞し、それぞれの作曲者がその作品を創作するに至った背景にも触れながら、多角的に音楽作品を捉えていく。人が時代情勢に影響を受けながら営みを続けてきたように、作曲家も時代情勢に影響を受けてそれぞれの作品を生み出してきた。音楽を生んだ作曲家(=人)に着目する視点を持ち、作品の背景を意識した作品鑑賞を通して、人と音楽との関係性について考えてみたい。	
共通教育科目	表現・行動と人間 音楽療法入門	音楽療法について基礎から理解を深め、対象者に応じた音楽療法について学び、医療現場等での音楽療法の適用の仕方を学ぶ。 医療と音楽療法との関係、音楽療法に使用する楽曲、高齢者・成人・青少年・児童・乳幼児および発達障がいのあるこどもに対応した音楽療法について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	表現・行動と人間 園芸療法入門	園芸療法の効用を活用し必要なサポートを選択、心身の充足を促し健康を回復・維持・予防につなげる方法を学ぶ。そしてこれらのサポートの結果、ケアする人もされる人も共に、互いのニーズを補完しあい、心身の健康維持、予防と繋がり、活力ある生活を生むよう利用する考え方を学ぶことを目的としている。 授業では、園芸療法についての基礎的な知識を学ぶと共に、現社会において人間と植物・自然との関わりの中で園芸療法の意義、園芸療法の可能性・今後についてどのように期待され実践されているのか考察しながらより実践的な内容で講義する。また、看護分野では、患者とのコミュニケーションツールや心のケアとして、教育分野では、知的・身体的・情緒面・道徳面に視点を置き、植物との関わりや園芸活動がもつ効用について考察しながらその活用方法を学ぶ。	
共通教育科目	表現・行動と人間 体育講義	子どもの運動発達の特徴やその重要性および発達に応じた運動指導、進んで運動する子どもを育てるための指導者の関わりについて説明する。 また、運動における教育的意味を学び、運動指導の理論や知識を深める。 (オムニバス方式/全8回) (33 梅野 圭史/3回) 子どもの運動発達の特徴やその重要性および発達に応じた運動指導、進んで運動する子どもを育てるための指導者の関わりについて説明する。 (44 荒木 雅之/5回) 園児、児童、生徒の運動能力、運動発達の特徴、運動の重要性等を説明する。	オムニバス方式
共通教育科目	表現・行動と人間 スポーツと健康	集団行動や器械運動を通じて、健康保持増進および運動技術の向上を図る。その中で、運動・スポーツに関する知識や方法を学び、健康な生活を送るために必要な基礎知識を習得し、生涯スポーツの一助とする。 また、バレーボールなどを通じてコミュニケーション能力を身につけ、自身から意見を発言したり、相手の意見を聞き、共同でスポーツに親しむ能力を身につける。	
共通教育科目	情報と人間 文章表現	各授業で課されるレポート・卒業研究等での論文作成、就職や進学試験での小論文対策などのために必要な書くための基本的な知識と技術の習得を目指す。 (オムニバス方式/全8回) (36 足高 壱夫/5回) 授業の目的、論文・小論文・レポート・作文の違い、パラグラフライティング、文章要約、批判的思考等の説明をおこなう。 (15 谷原 舞/3回) 文章レベルの知識として起承転結等の型、文レベルの知識としての語順・読点、表現の問題として文体等の説明をおこなう。	オムニバス方式
共通教育科目	情報と人間 クリティカル・シンキング	「批判的思考」が身につくように基本的な知識・技術を学ぶ。「批判的」とは「ある意見を鵜呑みにせずによく吟味する」ということである。本授業では、つぎの2点について説明する。1. 人間の思考はどういう間違いを犯しやすいかを学び、それを避ける方法を知る。2. 論理学の内容を取り入れながら、どのような手順に従って思考すると正しい結論にたどり着けるかという技術を知る。 (共同(一部)/全8回) (61 伊東 美佐江/8回) クリティカル・シンキングについての基本的な知識と技術を説明する。 (61 伊東 美佐江・69 小野 聡子/3回) 論理的にものごとを進めることを学ぶ演習(グループワークほか)を指導する。	共同(一部)
共通教育科目	情報と人間 基礎ゼミ	「大学で何をどう学ぶのか」について、輪読・映画鑑賞・情報収集等をおこないながら、参加者の発表・議論をとおして各自の考えをまとめることを目指す。その過程で、建設的な議論の仕方、上手なメモのノートをとり方、批判的読解法、レジュメやレポート作成の仕方、効果的なプレゼンテーションができるようになることを目指す。 受講生は、所属学部に関わりなく約16名程度のA～Jの10グループに分かれ、ゼミナール形式で学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	情報と人間 教養ゼミ	提示された課題やテキストを、深く読み＜＜議論し＞＞＜理解する＞＞過程を通して、異なる意見に耳をかたむけ、自己を相対化し、根拠を十分に検討することなく信じている自明な世界を疑い、自由な立場からものを考える力を養うことを目指す。そしてそれによって「自由で自立した個人」として、社会のさまざまな出来事を、自分のこととして共感し、考え、議論し、解決策を提示し、社会に働きかけることのできる力をもったよりよき市民となってくれることを期待している。 したがってこのゼミは知識量を増やすことを目的としたものではない。もちろん一定量の知識は必要であるので各自で情報収集に努めてもらう。 人種・民族・ジェンダー・病い・子ども・貧困・ライフスタイル等をテーマとした映画・図書等を教材とし、アクティブ・ラーニングをおこなう。 受講生は、所属学部に関わりなくA～Jの10グループ・各16名程度に分かれ、ゼミナール形式で学ぶ。担当教員は両学部から5名ずつ計10名で、各グループをそれぞれ担当し、学びをサポートする。 第1回のガイダンスとチーム・ビルディングのあと、第2～5回は、各グループ担当教員の研究分野・関心分野と受講生の関心に沿った映画を教材とした意見交換によって、第6回以降は第2～5回で学んだ内容を図書の輪読によって、到達目標を自分のものとしていく。第15回目には、到達目標について受講生一人一人がどう学ぶことができたかを発表してもらう。	
共通教育科目	情報と人間 社会調査法	社会調査に関する基本的事項(社会調査の目的、歴史、方法論、各種調査方法とその長所短所、調査倫理など)を学習する。身近な社会現象の実例や教育・医療・看護事例をテーマに選んで、分析手法の基礎とその適用方法を学修する。 質的・量的調査の特徴、質的・量的研究においてどのような研究が可能か(さまざまな対象と方法)、調査の企画・実施・分析の一連の手順と実際を説明する。 (オムニバス方式/全15回) (5 上田 博之/7回) 社会調査の概説、量的調査の手順、調査票作成、データ集計、分析の説明と演習をおこなう。 (28 井内 伸栄/4回) 仮説の種類と検証、既存資料の利用についての解説と、ネットワークを使った調査の演習をおこなう。 (36 足高 壱夫/4回) 質的調査の特徴・種類・手順・資料整理の説明と、小グループでインタビュー調査の模擬体験をおこなう。	オムニバス方式
共通教育科目	情報と人間 データサイエンス	本授業では、基礎的な代表値の計算や検定方法を学ぶとともに、正しいデータの読み取りができる能力を身につける。そして研究結果を正確に読み取る力や実践結果を効果的に報告する力を身につけることを目的とする。 専門職として責任ある実践活動を行なうために、的確な情報収集と良い実践活動報告を行わなくてはならない。そのためには統計に関する知識や理解も必要になる。本講義では、課題を示しながら統計学の考え方や統計処理の仕方についての基本を学ぶ。	
共通教育科目	情報と人間 情報倫理	ネットワークを利用するユーザには、情報の受発信において得られた情報の信憑性に注意し、正しく分析し評価する能力(メディアリテラシー)と起こりうるトラブル(ウイルスによる感染、ネットワーク犯罪、不正アクセスなど)からの自己防衛や情報セキュリティについての正確な知識が必要となる。 また、ネットワーク社会の利便性が向上していく一方で、起こりうるトラブルも多様かつ巧妙化しつつあり、ネットワーク社会の一員としてこれらの様々なトラブルにも適切に対応できる能力が求められる。 本授業では、現在のネットワーク社会で私たち一人ひとりがその一員であることを自覚し、その上で必要とされる基本的な心構えや具体的知識、ネットワーク社会の問題やトラブルに関連する法律について学ぶ。 (オムニバス方式/全8回) (37 市川 隆司/3回) セキュリティ対策や、インターネットに関わる法律等を解説する。 (28 井内 伸栄/5回) ネットワーク社会における基本的な心構えや注意事項、例えばユーザ認証の仕組みやネット上での取引について解説する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	情報と人間 情報リテラシー I	急速に進みつつある情報化の流れの中で、私たちは目的に応じて主体的に情報を選択・収集し、分析・編集した上で発信する等、さまざまな情報を適切に活用していく能力が求められる。私たちがこの情報化社会に対応できる能力を身につけるためには、情報機器(パーソナルコンピュータ、タブレット端末等)の基本的操作の習得も必要不可欠となる。本授業では、パーソナルコンピュータをはじめとする情報機器の基礎知識と基本的操作の習得に加え、Microsoft OfficeアプリケーションソフトのWord/Excel/PowerPointの操作方法についても学ぶ。そして、これらのアプリケーションソフトを用いて図表の作成を含むレポートや課題作成、論文作成やプレゼンテーションなどの演習を通して主体的かつ積極的に情報を活用していく能力の育成を目指す。 (オムニバス方式/全15回) (28 井内 伸栄/10回) Windowsの基本操作とキャンパスネットワークの利用、電子メールとWebの活用、ワープロソフトの操作と活用、表計算ソフトの操作と活用 (37 市川 隆司/5回) プレゼンテーションソフトの操作、プレゼンテーションの作成	オムニバス方式
共通教育科目	情報と人間 情報リテラシー II	私たちが、急速に発展する情報化社会を生き抜いていくためには、未知なる課題や問題にも向き合い解決していく能力が求められる。そこで、本授業ではこの問題解決型思考力を育成するためのツールとして統計解析ソフトRを用い、演習形式による授業を展開していく。具体的には、統計に必要なR言語の基礎理解をはじめ、プログラミングにおける問題の発見・分解・抽象化・一般化・組合せから分析・評価に至るプロセスを通して、問題解決型思考力を育むとともに統計解析の手法についても理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (28 井内 伸栄/10回) 統計ソフトRの基本操作、Rによる総計解析の基本操作、記述統計 (37 市川 隆司/5回) Rによる検定(t検定・カイ二乗検定)、1要因の分散分析	オムニバス方式
共通教育科目	言語・文化と人間 Speaking & Listening	学習者は、基本的な英語の表現・パターンを応用して、自分が伝えたいことを英語で表現できるようになる。英語の発音やイントネーションについての基本的な知識を持ち、それらを英会話の中で活かすことができる。主に、実践的なコミュニケーション力を伸ばすために、体系的な学習内容に関して繰り返し実用的練習(学生同士における練習[ペアワーク・グループワーク]及び担当者により評価の対象となる個別スピーキング・リスニング練習)を行いながら、必要な知識と言語能力を段階的に習得していく。	
共通教育科目	言語・文化と人間 Writing	学習者は、辞書等を参照しつつも、自分が相手に伝えたいことを英語で表現できるようになる。学習者は、基本的な英語の表現・パターンに習熟し、パラグラフの構造を理解し、英語表現に役立てることができる。学習者は、伝える相手や状況に応じて、適切な表現を用いて英語でコミュニケーションができる。文法ではなく、場面やことばの働きを中心にシラバスは組まれる。想定される活動: 基本的な英語の表現・文のパターンを参照して、自分にあった表現をする。 8つのグループに分れて学ぶ。割り振られたグループで受講のこと。	
共通教育科目	言語・文化と人間 Reading I	様々なタイプの英語テキストから、大切な情報を読み取る力を身につける。英語の基本的な語彙と文型を理解し、基本的な英語テキストから、必要な情報を収集し整理することができる。英語テキストには様々な種類があることを理解し、その種類にあった読み方ができる。英語テキストでの情報提示の形式を理解できる。 8つのグループに分れて学ぶ。割り振られたグループで受講のこと。	
共通教育科目	言語・文化と人間 Reading II	学習者は、学術的にやや専門的な内容を含む英文を読んで理解できるようになる。内容重視のアプローチで、大学生の知的好奇心を満たすようなアカデミックな内容を英語で読む活動が中心となる。英語テキストの理解を深めるために、英語以外の資料・図なども積極的に活用される。授業の難易度は使用されるテキストにより決まるので、受講者はそれを見て自分に合うか判断する。	

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・文化と人間 Process Writing	学習者は、テーマを決めて、推敲を繰り返し、比較的長めのまとまった文章がかけられるようになる。 学習者は、自分の英語表現を繰り返し英語教員にチェックされフィードバックを受けることにより、次第に自分中心の文章から読み手を意識した文章を産出できるようになる。 学習者が表現したいことは個人個人で異なるため、個別指導が行われる。 学習者は、すでに基本的な英語の表現・パターンに習熟していることが期待される。 想定される活動: 学習者はテーマを決め、自分が伝えたいことが、どのようにすれば英語で効果的に表現できるかを、個々に教員と相談しながら、学んでいく。	
共通教育科目	言語・文化と人間 時事英語	学習者は、ラジオ・新聞やインターネットなどでの報道でよく使われる英語表現の特徴を理解し、時事英語を聴いたり読んだりして理解できる。諸外国の英語報道だけでなく日本が英語で海外に発信されている報道も教材に含める。教育・看護系の学生が興味をもちそうな内容を開講時期の報道から適期選択する。想定される活動: 時事英語でよく使われる英語表現のリストの作成、インターネット上の英文記事の読解・音声による報道の聴解。英語学習に役立つインターネット上のリソースについてその使い方を学ぶ。	
共通教育科目	言語・文化と人間 医療英語	学習者は、医療や看護について簡単な英語表現を理解して、使用することができる。学習者は、医療や看護について簡単なことを、英語を使って話をする事ができる。想定される活動: 医療や看護についての基本的な英文を読む訓練。医療や看護について話題にした定型表現・対話文の習熟訓練。	
共通教育科目	言語・文化と人間 フランス語 I	初めてフランス語を学ぶ方を対象。日常でよく使用する表現を口に出して発音し、練習を繰り返して慣れ親しみながら、フランス語の文字と発音・文法の基礎をマスターする。日本語や英語などと比べながら、コミュニケーションの手段としてフランス語の理解を深める。 学習者は、必要に応じて支援を受けながらも、フランス語のよく使われる日常的な表現やごく単純な文を、理解し使うことができるようになる。また、自分や第三者を、相手に紹介すること、そして、相手に関する質問ができて、同様の質問に答えることができるようになる。	
共通教育科目	言語・文化と人間 フランス語 II	フランス語 I でフランス語の基礎をマスターした方を対象。身近な分野の簡単な文章を読む練習を通して、フランス語の表現や語彙に慣れ親しみ、文法を含めたコミュニケーション能力を高める。 学習者は、フランス語の簡単な短いメモやメッセージを理解することができるようになる。また、身近な話題の文章を読んで、必要な情報を見つけたり、まとめたりすることができるようになる。必要に応じて支援を受けながらも、フランス語で簡単なメッセージを書いて、相手に伝えることができるようになる。	
共通教育科目	言語・文化と人間 異文化交流(海外語学研修)	学内での事前指導(2時間×3回=6時間)を通して、国際関係や海外事情並びに生活での留意点等を学習した後、夏期休暇中(8月)に姉妹校であるカナダ・バンクーバーアイランド大学の英語セミナーに参加し、語学教育を受けるとともに異文化交流を図る。現地の保育・保健施設、文化施設の訪問や現地の人々との交流を通して、教師、保育士、看護師としての豊かな国際感覚を身に付ける。 研修中はホストファミリー宅に滞在してバンクーバーアイランド大学に通う。 研修後は異文化体験における学修成果をまとめ、報告会で発表する。	共同

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・文化と人間	国際理解(カンボジア研修)	<p>学内での事前指導(2時間×4回=8時間)を通して、国際関係や海外事情並びに生活での留意点等を学習した後、夏期休暇中(8月)に実施する。</p> <p>途上国の生活環境に触れ、保育・教育、保健医療・看護の現状について概観し、日本と比較考察することによって広い視野をもつ教師・保育士・看護師の養成をめざす。</p> <p>本学の経営母体である「ショファイユの幼きイエズス修道会」が教育活動をおこなっているカンボジアのシムリアップを訪れる。そこで、医療施設や子どもたちの保育施設を訪問し、見学または保育・教育活動に参加する。貧困の中に生きる子どもたちとそれを支える人々に触れ、国際情勢への理解と人間的豊かさを育む。</p>	共同
共通教育科目	言語・文化と人間	文化人類学(異文化理解)	<p>人間であれば同じような暮らし方、同じようなものの考え方をしていると思いがちである。しかし同じ人間であっても、多様な暮らし方があり、その暮らし方と一体となった多様な社会構造、そして価値観がある。一見単一にみえる日本国内においても同様である。調査事例を紹介しながら、人間社会、あるいは日本社会の多様な暮らし方を紹介し、そしてそれらの背後にある社会構造や価値観を理解する。</p> <p>これにより、私たちの暮らす社会や文化を相対化できるようになり、そして、グローバル化・多様化した社会での他者と良好な関係を構築く力を得ることができるようにすることを旨とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能(解剖学)	人体の構造を部位ごとに、器官の名称、位置、形状を学習する。運動器については、骨格、筋、神経系を関連付けて理解する。消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系等は、この後の人体の構造と機能でさらに学習するが、各器官を制御する神経系については脳神経と脊髄神経とその分岐、名称、走行、役割を学ぶ。循環器系は、心臓の構造と機能、主要な血管の分岐の名称、走行を理解する。身体についての科学的理解を形成する。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 I	医療の学修を進めるためには人体の構造や機能の正確な知識が求められる。病院や在宅医療などすべての医療現場で向き合わなければならない病態や症状の理解、フィジカルアセスメントに「人体の構造と機能」の知識が必要となる。看護実践の基盤となるのが「人体の構造と機能」である。この授業では看護に必要な人体の仕組みと働きについて説明する。授業はスライドや模型を用いた講義形式で行う。本講義では、主に消化器系、呼吸器系、循環器系に焦点を当てる。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 II	医療の学修を進めるためには人体の構造や機能の正確な知識が求められる。病院や在宅医療などすべての医療現場で向き合わなければならない病態や症状の理解、フィジカルアセスメントに「人体の構造と機能」の知識が必要となる。看護実践の基盤となるのが「人体の構造と機能」である。この授業では看護に必要な人体の仕組みと働きについて説明する。授業はスライドや模型を用いた講義形式で行う。本講義では、主に腎泌尿器系、生殖器系、内分泌系、免疫系に焦点を当てる。	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能 III	医療の学修を進めるためには人体の構造や機能の正確な知識が求められる。病院や在宅医療などすべての医療現場で向き合わなければならない病態や症状の理解、フィジカルアセスメントに「人体の構造と機能」の知識が必要となる。看護実践の基盤となるのが「人体の構造と機能」である。この授業では看護に必要な人体の仕組みと働きについて説明する。授業はスライドや模型を用いた講義形式で行う。本講義では、主に神経系による情報の受容と処理、生殖・発生、成長・老化に焦点を当てる。	
専門教育科目	専門基礎科目	生化学	生化学は、生命存続、健康の維持や疾病の発生に関わる分子的、化学的レベルでのしくみを理解するための基礎として学ぶ。細胞の構造と機能(細胞膜、核、ミトコンドリア、リソソーム、リソソーム、小胞体、ゴルジ装置、等)、生体を構成する物質(糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機物質等)の構造とその役割、酵素の働きと種類、ビタミンの種類と働き、代謝とエネルギー生産、糖質代謝、脂質代謝、タンパク質・アミノ酸代謝、核酸代謝、主な代謝異常と疾患、等について学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	微生物学・免疫学	感染症の理解と予防の基礎としての微生物学と免疫学について学ぶ。微生物(細菌・ウイルス・真菌・原虫など)の理解(微生物の種類と構造、染色、培養)、環境中の微生物(常在細菌叢、環境中の微生物、食品と細菌)、感染と発症の基礎、微生物と感染症、感染症の予防、感染症に関わる制度、生体防御システムとしての免疫(免疫の種類、免疫にかかわる細胞、自然免疫、細胞性免疫、体液性免疫、免疫による予防と治療)。	
専門教育科目	専門基礎科目	生命科学	DNA・遺伝子レベルおよび細胞レベルでの知識に基づく生命現象の基礎を学び、DNAや遺伝子に関わるさまざまな生命現象の理解を深める。遺伝情報の発現(セントラルドグマ、タンパク質の合成)と保持(DNA複製)、DNAの変異と修復、DNA・ゲノム・染色体、発生と形態形成・成長、遺伝子疾患・遺伝疾患、染色体異常疾患、がん・老化・死、再生医学(ES細胞とiPS細胞)、生殖医学(体外受精、クローン)、放射線の生体影響等について学ぶ。倫理的問題についても考える。	
専門教育科目	専門基礎科目	疾病治療論 I	消化器、内分泌・代謝、アレルギー・膠原病・感染症の疾患に関する病態とその治療法について学ぶ。代表的な疾患の臨床像を把握し、臨地実習において積極的に参加できる知識を獲得する。疾患の病因・検査・症状および診断・治療の概観を理解し、看護に必要な疾病に関する知識の習得をめざす。高度医療とともに、地域医療にいかすための総合的理解をする。	
専門教育科目	専門基礎科目	疾病治療論 II	循環器、呼吸器、腎、泌尿器の疾患に関する病態とその治療法について学ぶ。代表的な疾患の臨床像を把握し、臨地実習において積極的に参加できる知識を獲得する。疾患の病因・検査・症状および診断・治療の概観を理解し、看護に必要な疾病に関する知識の習得をめざす。高度医療とともに、地域医療にいかすための総合的理解をする。	
専門教育科目	専門基礎科目	疾病治療論 III	脳・神経、感覚器、精神の疾患に関する病態とその治療法について学ぶ。代表的な疾患の臨床像を把握し、臨地実習において積極的に参加できる知識を獲得する。疾患の病因・検査・症状および診断・治療を理解し、看護に必要な疾病に関する知識の習得をめざす。高度医療とともに、地域医療にいかすための総合的理解をする。	
専門教育科目	専門基礎科目	疾病治療論 IV	女性生殖器、産褥期、小児期の疾患に関する病態とその治療法について学ぶ。女性の生殖器の構造と機能の理解をもとに婦人科疾患と異常妊娠、妊娠合併症、胎児・新生児期の代表的な疾患の臨床像を把握し、臨地実習において積極的に参加できる知識を獲得する。疾患の病因・検査・症状および診断・治療の概観を理解し看護に必要な疾病に関する知識の習得をめざす。高度医療とともに、地域医療にいかすための総合的理解をする。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	栄養学	食物の栄養機能を学び、疾病やライフステージに応じた栄養管理の基礎知識を修得するとともに、患者や利用者へ適切な食事指導を行う能力を養う。日本人の栄養状態の現状と課題、食事摂取基準の考え方と各指標、エネルギーや栄養素の食事摂取基準、炭水化物の栄養、たんぱく質の栄養、脂質の栄養、ビタミンの栄養、ミネラルの栄養、栄養状態の評価とケア、疾病と食事療法(病院食・栄養補給、糖尿病、腎疾患、脂質異常症、高尿酸血症、消化器疾患、循環器疾患等)、ライフステージと栄養管理等について学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	病理学	正常な臓器や組織・細胞の形態および機能を理解した後に、生体の異常(病気)状態においてその構造や機能がどのように変化するかを学ぶ。疾病の原因、疾病の成り立ち、病態などを種々の疾患の共通基盤となる病理学的変化から理解する。疾病の発症から進行あるいは回復、さらに治療による病像の推移などを病態・病理学的に理解する。また、臨床で遭遇する頻度の高い疾患の病態生理を中心に理解し、看護実践の基本となる知識を修得する。	
専門教育科目	専門基礎科目	心のしくみと働き	人間は身体とこころの統合体であることを理解するために、本科目では、こころのしくみと働きを学修する。身体とこころの働きの関連、身体のように外からは見えないこころはどこにあるのか、知情意(思考・感情・知覚・認知・意識など)と外に表れた言動との関連、現在科学的に解明されている脳の働きとこころの働き、環境(人間関係含む)や文化に影響を受ける生活とこころの働き、ストレスとストレスへの対処(コーピング)、フロイトの精神力動理論によるこころのしくみや自我防衛機能と支援方法などを学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	臨床薬理学	薬物についての基本的内容を学ぶと共に、臨床での扱いに必要な内容を学ぶ。薬物の分類、特性、作用機序等について学ぶ。薬理作用を規定する要因、薬物の投与方法、薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)、薬物の作用機序、相互作用、副作用、有害事象、禁忌、耐性、依存。薬物療法に対する人間の療養行動(コンプライアンス、アドヒアランス)、与薬の技術、薬物療法のモニタリング、薬物療法に対する患者アドヒアランスの支援。	
専門教育科目	専門基礎科目	発達心理学	発達心理学の基礎的知識・方法・理論を概観し、乳児期から老年期までの発達段階を追いながら、各発達段階の心理的発達について概説する。そして発達の基本的な考え方を理解する。主に発達初期から幼児期・児童期までの発達の様相・特徴について、種々の実験や研究知見を通して把握し、基本的な知識を学習する。	
専門教育科目	専門基礎科目	生活機能論	看護は人々の生活が健康不健康を問わず、その時々状態に於いてその人々の機能が最大に発揮できるように援助することである。そのために、人々の生活機能とは何か、生活機能に影響を及ぼしている要因は何かなど、生活機能に関する基本的事項を学ぶ。その概念における国内外の動向についても学ぶことで、人間を支援する職種への理解と、他職種と看護の役割の違いについて学生自身が考察し、次の「生活機能支援論」の学修につなげる。	
専門教育科目	専門基礎科目	健康教育論	看護者のケアを受ける人々、即ち乳幼児、児童、生徒、思春期、青年期、成人期、成熟期、老年期にある人々の心身の健康の保持増進、健康からの回復を目標に、健康相談、指導、助言等の健康教育を行う基礎となる理論及び教育方法を学び、実際の健康相談や教育に活用するための基礎能力を身につける。 (オムニバス方式/全8回) (1 岩澤和子/4回) 健康教育の理念、健康政策と健康教育の変遷、健康行動変容に関する理論、健康教育の場と対象について学ぶ。 (14 西村美八/4回) 健康教育の方法・媒体、健康教育の実践:計画・実施・評価における実践的な留意点、小集団を対象とした健康教育の企画書の作成についてグループワークを行い発表により学修を深める。	オムニバス方式
専門教育科目	専門基礎科目	環境と健康	ヒトの馴化や適応力から考えると適度な環境変化が健康に良い影響を与えることがある。しかし、過度な環境変化やたとえ小さな変化でも健康を大きく害することもある。環境の要因を見つめなおし、自然環境と人間との相互作用、グローバル化に伴う環境変化など健康に環境が与える事象について学ぶ。 (オムニバス方式/8回) (5 上田博之/4回) 健康に影響する環境要因、気候変動の健康影響、環境変化と衣食住について学ぶ。 (34 高井明徳/4回) 環境汚染の健康影響、食環境の健康影響、放射線の健康影響について学ぶ。	オムニバス方式
専門教育科目	専門基礎科目	社会健康学	人間の健康について、社会環境がもたらす影響について学ぶ。人間の健康と社会環境との相互作用、家庭、職場、学校、コミュニティでの人的環境と人間の健康との関係、多様な社会背景(人種、性格、学歴、価値観など)が人間の健康に与える影響、社会環境(家庭環境、職場環境、学校環境、地域環境)の変化が人間の健康にもたらす影響について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門基礎科目	社会心理学	私たちの日々の行動や意識は、自分自身で判断しているようにみえて、実は他者や集団から影響を受けていることが多い。社会心理学は、私たちの行動や意識が他者や集団からどのように影響を受けているかを理解し説明する学問である。授業は、下記の順で、社会心理学の研究対象や基礎的な概念や理論を解説する。「社会的自己」「自己イメージ」「社会的欲求」「対人認知」「対人魅力」「態度と説得」「集団と個人」「リーダーシップ」などのテーマを取り上げる。これらを学ぶことで、自分自身や他者の行動や意識を理解する能力を高めることを目指す。	
専門教育科目	専門基礎科目	家族社会学	私たちにとって身近で当たり前に思われる「家族」とは何か、その定義や在り様は、時代や国によって異なり、自明ではない。授業では、家族社会学の基本的な概念・理論を理解し、さらに統計調査・世論調査などのデータや最近の新聞記事を用いて、現代家族が直面する諸問題、例えば、少子高齢化・未婚化・離婚・晩婚化・単身・家事と育児の性別役割分担を社会的に検討する。このことを通して、人々の価値観や家族の多様化についての理解を深める。	
専門教育科目	専門基礎科目	医療倫理	生命科学の発展により、生命操作も可能となるなど、医療の現場などにおいて、従来の生命の概念では解決できない、新しい倫理的な問題を生じている。一方、医療における患者の権利の確立が進み、患者にとっての利益を考え、不利益を生じない医療がなされるようになり、インフォームドコンセントや個人情報の保護がその基本となっている。生命倫理・医療倫理の基本的な概念を学び、具体的な事象について、その内容と問題点について考えていく。インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死、人工妊娠中絶、生殖補助医療(代理母・クローンなど)、出生前診断、脳死と臓器移植、遺伝子診断、細胞・生殖細胞の権利。	
専門教育科目	専門基礎科目	社会福祉論	看護者として社会的弱者の自己決定に活用できるよう、また、一人の市民・生活者として自分自身の生活困難に対処できるよう社会福祉・社会保障制度について深く理解する。社会福祉・社会保障制度について、歴史や制度、実践(ソーシャルワーク)のあり方も含め、幅広く学びます。具体的な事例についてはDVDを用いて検討しながら、日本における社会福祉・社会保障の実際とその特質について考察する。各回において、ヨーロッパ・アメリカ諸国との比較もおこなう。	
専門教育科目	専門基礎科目	保健統計学	保健統計学は医学・看護学分野での研究や地域保健活動などにおいて有効性や保健政策や健康プログラムの評価に必須の知識になっている。看護者として必要な統計学に関する知識や手法だけでなく、様々な厚生労働統計資料の見方や考え方を学ぶ。	
専門教育科目	専門基礎科目	公衆衛生学(疫学)	公衆衛生は、広く地域社会の人々が生涯にわたり疾病を予防し健康を保持増進し、QOL(生活の質)の向上を組織的に取り組んでいく衛生活動で、疫学・保健統計に基づき、適切な制度や施策により、行政、医療・福祉などの専門家が協働して総合的に展開する。公衆衛生の概念と活動、公衆衛生の制度としくみ、疫学・保健統計、環境と健康、感染症と予防対策、地域と健康、母子保健、高齢者保健、成人保健、精神保健、障がい者保健、学校保健、産業保健、災害保健、国際保健、等について学ぶ。	
専門教育科目	専門科目	看護の基盤	看護学全体の学びの基盤となる科目である。看護の主要概念を理解し、「看護とは何か」を学ぶ。看護の歴史的な変遷から、社会における看護の役割や機能、活動について考え、保健師助産師看護師法で定められている看護職の法的定義を理解する。保健医療福祉チームにおける看護の役割、看護職の倫理と法的責任を知り、看護専門職としての実践を支える看護制度や看護行政の組織について学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 看護倫理	<p>看護師の基本となる人間の尊厳と権利を擁護するために必要な知識として人権、患者の権利、看護の倫理、医の倫理及び倫理的実践ができる素質を身につける。また、それらの知識を基に、看護者に求められる説明責任を果たし、患者の意思決定を支援して患者を擁護できる態度や姿勢を育成するために看護実践に関わる倫理原則などを用いて、看護場面で発生しやすい倫理的課題を検討できる基礎知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全8回)</p> <p>(7 檜木野裕美／3回) 倫理の基本と、看護倫理を学ぶ意義、看護倫理の歴史、倫理原則について学び、倫理的課題への取り組みとして意思決定モデルについて具体的に学修する。</p> <p>(7 吉田智美／4回) 専門職に求められる倫理、倫理綱領を理解し、看護実践における倫理的概念として、アドボカシー、責務、協力、ケアリングについて学ぶ。看護倫理の実践としては、医療現場における看護倫理の問題の特徴、倫理的ジレンマについて学び、具体的には、倫理的問題へのアプローチの基本、アプローチ法を学修する。</p> <p>(7 檜木野裕美・7 吉田智美／1回) 看護倫理の検討</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 基礎技術 I	<p>看護を実践するための基礎的な看護技術のうち、日常生活を整える基本援助技術を学ぶ。科学的根拠に基づき、安全と安楽に留意しながら、対象者の生活を整える援助を実践するための基礎的な能力を培う。具体的には、看護技術の基本的な考え方、感染予防、療養環境の調整、体位の整えと移動の援助、活動と休息の援助、衣生活の援助、食事の援助、排泄の援助、身体の清潔の援助について根拠を踏まえた技術の理論と技法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全30回)</p> <p>(11 竹中泉／2回) 基礎看護技術論、衣生活の援助技術、についての基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>(15 竹見八代子／7回) 環境調整の技術、休息を促す技術、活動・運動に関する援助技術、清潔の援助技術として入浴できない対象者の清潔援助(全身清拭、陰部洗浄、頭皮の清潔援助)、排泄の援助技術、バイタルサインの援助技術についての基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>(12 秋山正子／2回) 感染予防の基本技術、清潔の援助技術として入浴できない対象者の清潔援助(足浴、電法、マッサージ)についての基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>(22 有田弥棋子／2回) 食事・口腔ケアに関する援助技術として食事介助・口腔の清潔について学ぶ。</p> <p>(11 竹中泉・15 竹見八代子・12 秋山正子・22 有田弥棋子・27 南裕美／17回) 感染予防に関する援助技術演習、環境調整に関する援助技術演習、休息を促す援助技術、活動・運動に関する援助技術演習・技術確認、衣生活の援助技術演習、清潔の援助技術演習、食事・口腔ケアに関する援助技術、排泄の援助技術演習、バイタルサインの測定技術演習・確認</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 基礎技術Ⅱ	<p>看護を実践するための基本的な看護技術のうち、医療的介入への支援技術を学ぶ。具体的には、創傷管理、与薬、救命救急、排泄障害の処置、安楽の維持(リラクゼーション)、安全の保持について根拠を踏まえた技術を修得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全30回)</p> <p>(11 竹中泉／3回) 医療的介入への支援とは何か、関係法規と合わせて学ぶ。</p> <p>(15 竹見八代子／3回) 与薬(薬物療法)の技術としては、薬物療法、注射時の看護の原則を学び、安全な援助が実施できるよう関係法規をふまえて理解し学修する。与薬の技術としては、皮下注射・静脈内注射・輸血時の看護に必要な基礎知識を学ぶ。</p> <p>(12 秋山正子／1回) 感染性廃棄物の取り扱いとして、非感染性廃棄物と感染性廃棄物の区別を理解し、廃棄物の適切な取り扱いと医療事故について学ぶ。創傷管理として、創傷の治癒過程と創傷管理、滅菌物の取り扱い方法の原則について学修する。</p> <p>(17 徳珍温子／2回) 排尿障害の処置としての導尿・浣腸の原理原則を学ぶ。</p> <p>(22 有田弥棋子／1回) 救命救急処置の基本について学修する。</p> <p>(11 竹中泉・15 竹見八代子・17 徳珍温子・12 秋山正子・22 有田弥棋子・27 南裕美／20回) 感染予防：無菌操作の技術演習・技術確認、創傷管理の技術演習、与薬の技術演習・技術確認、与薬(薬物療法を受ける患者)の援助方法のグループ討議・発表、排泄障害の処置演習、基本技術総合トレーニング</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 フィジカルアセスメントⅠ	<p>健康レベルを成長発達に応じてアセスメントする能力を培う。対象者の心身の状態を、問診、視診、触診、打診、聴診といった手法を用いてアセスメントするための基礎的技法を科学的根拠とともに理解し、修得する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全30回)</p> <p>(13 西田頼子／5回) 看護過程におけるフィジカルアセスメントの重要性。正確に情報を得るための基本について学ぶ。フィジカルアセスメントに必要な基本技術として、視診、聴診、打診、触診および問診について学修する。腹部・消化器系のフィジカルアセスメントとして、解剖と主な疾患とフィジカルアセスメントの方法、正常と異常、得られた情報の意味の基本知識について理解する。</p> <p>(8 阪上由美／1回) 呼吸・循環器系のフィジカルアセスメントとして、解剖と主な疾患とフィジカルアセスメントの方法、正常と異常、得られた情報の意味の基本知識を学修する。</p> <p>(13 西田頼子・8 阪上由美・27 南裕美／24回) 腹部・消化器系のフィジカルアセスメント、呼吸・循環器系、頭頸部・神経系のフィジカルアセスメント、骨・筋肉系のフィジカルアセスメント技術を学修する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の基盤	<p>ライフサイクルを基盤に身体的な健康状態、精神的な健康状態、対象の置かれた環境(人的・物的)をアセスメントするための知識・技術・態度を系統的に学び、人体の構造と機能や疾病論と関連させて理解し、実践する力を修得する。フィジカルアセスメントⅠやこれまでの講義で修得した知識・技術を用いて、情報収集する内容を考える。</p> <p>(オムニバス方式・共同/全30回)</p> <p>(8) 阪上由美・27 南裕美/8回 事例を用いたフィジカルアセスメントⅠ：心筋梗塞患者の事例、事例を用いたフィジカルアセスメントⅡ：脳梗塞患者の事例、必要なフィジカルアセスメントの内容、方法の検討を行い、グループで学修内容をプレゼンテーションし、相互学修を行う。</p> <p>(13 西田頼子・27 南裕美/4回) 事例を用いたフィジカルアセスメントⅢ：糖尿病患者の事例に必要なフィジカルアセスメントの内容、方法の検討を行い、グループで学修内容をプレゼンテーションし、相互学修を行う。</p> <p>(20 中野幸子・10 郷司律子・24 岡崎裕子/6回) ライフサイクルとフィジカルアセスメントⅠ：小児(新生児を含む)のフィジカルアセスメントの特徴、注意点を学ぶ。事例を用いたフィジカルアセスメントⅣ：小児(新生児を含む)患者の事例に必要なフィジカルアセスメントの内容、方法の検討を行い、グループで学修内容をプレゼンテーションし、相互学修を行う。</p> <p>(12 長尾匡子・22 有田弥棋子/2回) ライフサイクルとフィジカルアセスメントⅡ：高齢者のフィジカルアセスメントの特徴、注意点を学ぶ。</p> <p>(5 松井幸子・22 有田弥棋子/4回) 事例を用いたフィジカルアセスメントⅤ：認知症患者の事例に必要なフィジカルアセスメントの内容、方法の検討を行い、グループで学修内容をプレゼンテーションし、相互学修を行う。</p> <p>(1) 西垣里志・25 高橋篤信/6回 精神的な健康状態とフィジカルアセスメント：精神的な健康状態と身体状況の関連、フィジカルアセスメントの特徴、注意点について学ぶ。うつ病患者の事例に必要なフィジカルアセスメントの内容、方法の検討を行い、グループで学修内容をプレゼンテーションし、相互学修を行う。</p>	オムニバス方式・共同
専門教育科目	専門科目	看護の基盤	<p>人々のニーズに応じた個性のある看護、根拠に基づいた看護を提供するために理論を紐解き、看護に関する理論の必要性が理解でき、看護実践に活用できる基本的な理論を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(2) 遠藤俊子/4回 看護理論とは、歴史的概観として、学問としての看護と歴史的発展や代表的な理論家の概観を学ぶ。看護理論の実践・研究への活用として、理論を活用した実践開発例―愛着理論について学修する。看護理論のまとめとして、理論を活用した研究への枠組みを通した学びを整理する。</p> <p>(16) 津田右子/2回 看護理論を読み解き、ナイチンゲール・ヘンダーソンの理論について学修する。</p> <p>(13 西田頼子/1回) 看護理論を読み解き、オレムの理論について学修する。</p> <p>(7) 吉田智美/1回 看護理論を読み解き、死のアウエアネス理論について学修する。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	看護の基盤	<p>患者のケアに有用な情報を総合的に収集し、それを科学的根拠に基づいて分析し、看護問題を抽出し、その問題を解決するための看護実践計画を立案する一連のプロセスを系統的に学ぶ。また、臨床判断モデルをもとに「気づき」「解釈」「反応」「省察」について学習する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回)</p> <p>(13 西田頼子/6回) 看護過程とは何か、看護過程の展開の基盤となる考え方、問題解決過程、クリティカルシンキング、臨床判断モデルについて学ぶ。情報の収集と分析として、系統的な情報収集と情報の分析、解釈について学修する。関連図、全体像をまとめる意味と方法及び看護問題の明確化・看護計画の立案、実施および評価、看護記録、評価の意義と計画の修正、看護記録の意味についてグループワークを組み込みながら学修する。</p> <p>(13 西田頼子・12 長尾匡子・22 有田弥棋子・27 南裕美/9回) 情報収集と分析(グループワーク)、関連図・全体像(グループワーク)、看護計画の立案(グループワーク)、グループワークの発表(グループワーク)、まとめ</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 キャリアデザイン I	看護専門職者として、国際化、情報の高度化、人口の高齢化等によってもたらされる社会の変革や多様性に対応できる柔軟性と創造性をもって、学びの意味を見出すとともに、自発的、積極的に学修する態度を養う。	
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 家族看護論	家族を看護の対象としてとらえ、家族が健康問題を解決し、さらに健康な生活ができるように看護について考究するために、家族の意味、家族を理解するポイント、家族看護を支える理論、支援の基礎について学修する。	
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 看護教育学 I	看護教育制度の歴史の変遷について学び、看護学を学ぶとはどういうことかを再認識する機会とする。基本的な学習理論と学習方法および評価方法を理解し、看護の人材育成における教育的かかわりへの活用について考える。 (オムニバス方式／全15回) (11 竹中泉／12回) 看護教育の定義について理解し、看護教育学を学修する意義を明確にするためグループで討議を行う。看護教育の歴史の変遷として、日本の看護教育の始まりと発展について調べ、理解を深め、戦後の看護職と看護教育の変遷について調べ、現在の国家資格受験に必要な学習内容について理解する。カリキュラム編成の基本的な考え方について学び、看護教育における教授学修過程として、授業形態や教育方法、及び教育評価について学修する。 (① 岩澤和子／3回) 看護教育制度として、看護基礎教育・看護継続教育・看護教育の高等教育化の必要性について学修する。	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 ヒューンケア実習 I	保健医療福祉の現場で看護の対象者とコミュニケーションをとる体験をする。対象との間で生じた現象について、学生自身が感じ・考えたことを認識し、コミュニケーション場面を振り返ることにより、看護の対象者の理解と自己理解を深める。また、保健医療福祉の現場で専門職として活躍する人々の活動に触れることにより、看護職像及び役割へのイメージを明確にして、今後の学修の目標を見出す。	共同
専門教育科目	専門科目	看護の基盤 ヒューンケア実習 II	「基礎看護技術」「フィジカルアセスメント」「看護理論」「臨床判断論」で学んだ知識や技術をもとに、療養生活を営んでいる対象者への看護を実践的に学ぶ。対象者の発達段階や健康状態から日常生活の課題に気づき、解釈し、解決のための支援を考え実践して省察するまでの一連の過程を体験する。原則として、実習期間中に一人の対象者を受け持ち、専門職である看護師と活動を共にし、実践的に学ぶ。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生涯発達看護論 I (母性)	ウイメンズヘルス、リプロダクティブ・ヘルスおよびヒューマンセクシュアリティの概念の理解と、女性の生涯にわたる健康と発達、マタニティサイクルにおける母子の健康の観点から女性とその家族を支援するための基礎知識について理解を深める。 (オムニバス方式／全15回) (② 遠藤俊子／5回) 女性の生涯発達と健康、母性看護の中心概念とそれを支える理論として、愛着理論、ボンディングと母子相互作用、親役割獲得理論等の導入や、わが国及び諸外国の母子保健の動向について学ぶ。 (6 松尾博哉／2回) 性周期、月経異常、産褥期の解剖と生理及び妊孕性と不妊 (⑩ 郷司律子／8回) 母性看護の中心概念とそれを支える理論として、ヘルスプロモーション、エンパワメント、セルフケア、ウェルネスについて学修する。リプロダクティブ・ヘルスに関する概念と女性の人権について学ぶ。女性のライフサイクル各期における健康課題としては、思春期・成熟期・更年期・老年期における健康課題を学ぶ。グループでの課題学習を通して、プレゼンテーションを行い、相互学修を行い、学修内容を深める。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論Ⅰ-① (母性)	<p>妊娠期から産褥期における妊産婦と母子およびその家族の健康状態をアセスメントするために必要な情報と、分析、看護ケアに結び付けられる学びをする。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(2) 遠藤俊子／5回) マタニティサイクルに在る人々の看護の主要な概念を学ぶ。妊婦の看護について、妊娠初期・中期・後期の生理と妊婦・胎児とその家族のアセスメントについて学修する。</p> <p>(10) 郷司律子／9回) 分娩の経過と看護、帝王切開術の看護、新生児の生理的变化と観察について学ぶ。 産褥の経過と看護、母乳育児について学ぶ。 産褥母子のフィジカルアセスメントと看護計画の立案を行いグループでの演習・体験学習をする。ハイリスク妊婦・ハイリスク新生児のアセスメント、看護計画の立案・評価のあり方について学修する。</p> <p>(2) 遠藤俊子・10) 郷司律子／1回) 事例検討結果の発表を行い、意見交換により相互学修する。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論Ⅰ-② (母性)	<p>実習時受け持った事例を振り返り、心身の変化及びその変化への子どもや家族の反応に応じた看護を理論的科学的に分析する。主体的にグループ学習で実習における経験の振り返りや、講義と実習での学びの統合を図り、母性看護で求められている実践能力修得をめざす。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論実習Ⅰ (母性)	<p>マタニティサイクルにある母と子、およびその家族の特性を理解し、健康状態の維持・増進のために必要な看護の知識、技術とともに倫理的な態度を学修しながら、看護を提供できる基礎的能力を獲得する。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生涯発達看護論Ⅱ(小児)	<p>子どもと家族を取り巻く環境、社会を踏まえ、発達理論を概観し、子どもの成長・発達、制度や子どもの権利に関する小児看護学の基礎を理解する。歴史的に辿ってきた子どもの姿をとらえ、小児期の身体的形態的発育、機能発達を捉えた上で、子どもの発達の様相、また子どもの権利、小児医療制度を理解し、子どもの健やかな育ちとその家族を支援する看護の基本を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(7) 檜木野裕美／12回) 児童観の変遷、子どもの権利、発達理論、子どもの発育、子どもの成長発達、健康問題、思春期の子どもの発達、現代社会の育児問題について学ぶ。</p> <p>(20) 中野幸子／1回) 子どものヘルスプロモーションについて学ぶ。</p> <p>(1) 岩澤和子／2回) 母子保健の状況、母子保健施策について学修する。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	ライフサイケルと看護 生活機能支援論Ⅱ-① (小児)	生涯発達看護論Ⅱ(小児)を基盤として、疾患や入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、健康障害のある子どもと家族に対する、包括的なアセスメントのあり方、子どもの特性に応じた看護技術、看護実践方法について学修する。また多機関・多職種との協働や連携、社会資源に対する理解を深める。事例を通して看護展開の一連のプロセスを学修する。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (7 檜木野裕美／1回) 心理社会的問題をもつ子どもと家族への看護について学ぶ。 (24 岡崎裕子／7回) 健康障害・入院が子どもや家族に及ぼす影響と看護、検査・処置を受ける子どもと家族への看護、急性期にある子どもと家族への看護、慢性期にある子どもと家族への看護、手術を受ける子どもと家族への看護、ハイリスク新生児と家族への看護、心身障害をもつ子どもと家族への看護について学ぶ。 (8 阪上由美／2回) 在宅療養をしている子どもと家族への看護、終末期にある子どもと家族への看護について学ぶ。 (7 檜木野裕美・20 中野幸子・24 岡崎裕子／5回) 外来における子どもと家族への看護、小児における特殊看護技術について学ぶ。事例による看護の検討、アセスメント、看護計画の立案を行いグループで発表し、意見交換により学びを深める。	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	ライフサイケルと看護 生活機能支援論Ⅱ-② (小児)	実習で経験した子どものケアを振り返り、子どもの発達や疾病による心身の変化及びその変化への子どもや家族の反応に応じた看護を理論的科学的に分析する。主体的にグループ学修での実習における経験の振り返りや、講義と実習での学びの統合を図り、小児看護で求められている実践能力修得に努める。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイケルと看護 生活機能支援論実習Ⅱ (小児)	子どもを発達主体としてとらえ、子どもと家族の健康生活を踏まえ、健康状態が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、必要な看護を実践できる基礎的能力を修得できる。子どもと家族を包括的に理解し、個別性のある看護を安全に展開できる。また子どもと家族の健康を支えるための保健・医療・教育・福祉などの機能とこれらの協働・連携を理解し、チームの中での小児看護の役割が考えられる。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイケルと看護 生涯発達看護論Ⅲ(成人)	成人期における健康増進、疾病予防に向けた取り組みを保健医療福祉政策や役割と共に学び、人口動態、疾病構造、受領状況等の健康指標を基に理解することや、成人期における多様な健康課題に対する看護(慢性疾患・難病・障害・がん)、セルフケア能力、家族ケア能力の支援と開発支援について学ぶ。 また近年の課題である、就労と療養支援(難病・がんを含む)について、生活を支援するという視点を養う。	
専門教育科目	専門科目	ライフサイケルと看護 生活機能支援論Ⅲ-① (急性)	急性期看護に必要な実践的な援助技術の修得と、周手術期患者の回復援助に必要な看護アセスメント、看護診断の抽出、具体的な援助の立案、退院指導立案までを演習する。手術を受けた患者2事例を基に、看護問題を導き適切な看護を展開する能力を身につける。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (5 松井幸子／7回) ガイダンス及び事例提示を行う。手術前期の看護、手術期の看護、手術後期の看護及びクリティカルケア(救急看護の特徴・看護師の役割)について学ぶ。事例展開のまとめ及び健康教育・退院指導のパンフレット作成指導について学修する。 (5 松井幸子・30 桑原唯／8回) 麻酔の知識と手術侵襲メカニズム、救急看護技術演習、技術演習「術後の全身観察」シミュレーション学修などグループワークにより体験学修を行う。	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要					
(看護学部看護学科)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門 教育科目	専門 科目	ライフ サイク ルと 看護	生活機能支援論Ⅲ-② (慢性)	成人期における慢性的疾患の病態の特徴と心理・社会生活に及ぼす影響を理解する。慢性疾患を持つ患者を全人的に理解し、抱える問題を分析し、解決するための看護の基本的知識を学ぶ。合併症の予防と早期発見、急性増悪や増悪進行の予防、治療法(薬物療法、放射線療法など)の種類と効果、治療・療養に関するセルフマネジメントとその支援、社会資源や他職種との連携について理解する。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (13 西田頼子／7回) 呼吸・循環器系の障害、消化器系の障害、代謝・内分泌系の障害、腎・泌尿器系の障害、免疫系の障害、脳・神経系の障害、感覚器系の障害を有する人とその家族への援助を学ぶ。 (7 吉田智美／3回) 血液系の障害を有する人とその家族への援助、化学療法・放射線療法を受ける人とその家族への援助、緩和ケアを必要とする人とその家族への援助について学ぶ。 (7 吉田智美・13 西田頼子・30 桑原唯／5回) 事例による看護の展開Ⅰ-1・2、事例による看護の展開Ⅱ-1・2、まとめ	オムニバス方式・ 共同(一部)
専門 教育科目	専門 科目	ライフ サイク ルと 看護	生活機能支援論Ⅲ-③ (リハビリテーション)	生涯発達(人の誕生前から成長、発達、加齢、老化、死)を理解した上で、成人期における発達課題や成人期の特徴に応じた看護援助法についての概要が分かる。青年期・成人期における健康増進、疾病予防に向けた取り組みを、保健医療福祉政策や行政などの役割と共に理解しセルフケア能力、家族ケア能力の支援と開発支援について知る。 また近年の課題である、就労と療養支援(難病・がんを含む)について、生活を支援するという視点を養う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (17 徳珍温子／9回) リハビリテーションの定義と理念・リハビリテーションの対象を理解し、リハビリテーションと制度について学ぶ。運動器系・中枢神経系の障害による日常生活の困難を理解し、回復期・地域連携リハビリテーション看護について学ぶ。職業リハビリテーションについて学修する。 (5 松井幸子／1回) 急性期リハビリテーションの目的・意義を学び、早期リハビリテーションの基準について学修する。 (5 松井幸子・30 桑原唯／2回) 「早期回復を促す集中治療室リハビリテーション」についてグループワークを通して学び、プレゼンテーション・意見交換で相互に学修を深める。 (17 徳珍温子・74 石川大輔／3回) リハビリテーションにおける多職種連携について学ぶ。	オムニバス方式・ 共同(一部)
専門 教育科目	専門 科目	ライフ サイク ルと 看護	生活機能支援論Ⅲ-④ (急性)	実習で経験した周手術期の治療経過に伴う看護ケアを振り返り、生命の危機的状態にある患者や家族の反応に応じた看護を理論的科学的に分析する。主体的に小集団学習を通して実習における経験を振り返り、講義・演習の学びと統合し、急性期看護に求められる実践能力の修得に努める。 (オムニバス方式・共同(一部)／全15回) (5 松井幸子／5回) 手術室看護の学びの共有、IC(インフォームド・コンセント)、意思決定支援、代弁者としての役割、代理意思決定について実習での経験の学び直しを行い、学生間で学びを共有する。見学実習・受け持ち患者と共に入室した集中治療室の環境・患者の特徴・看護の役割について振り返り、脳血管疾患・循環器疾患患者の看護の実際、特殊治療(PCL, IABP, PCPS)等々について振り返り、各グループでまとめ・発表する。 (5 松井幸子・30 桑原唯／10回) 実習経験を振り返り、未修得で学習不十分な課題を自ら見出し目的達成に取り組む。課題のある患者の理解(回復遅延やがん患者の苦痛(スピリチュアル・ペイン)、健康教育・退院指導、多職種連携入院前～退院支援における周術期のチームアプローチに関する実習での学びを整理し、発表することにより学びの共有を行う。	オムニバス方式・ 共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論Ⅲ-⑤ (慢性)	実習で経験した慢性期の治療経過に伴う看護ケアを振り返り、セルフ・マネジメント能力を引き出すための患者や家族の反応に応じた看護を理論的科学的に分析する。主体的に小集団学修を通して実習における経験を振り返り、講義・演習の学びと統合し、慢性期看護に求められる実践能力の修得に努める。実習での体験・学びを活かしながらグループディスカッションでより良い支援方法を検討しながら臨床看護技術演習を行い、実践力を養う。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論実習Ⅲ-① (急性)	健康状態の急激な変化が患者・家族に及ぼす影響を理解する。そして患者の生命を守るとともに安楽を提供し、治療効果を最大に引き出す看護実践力を養い、患者が新たな健康管理能力を身に付けるための援助を学ぶ。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論実習Ⅲ-② (慢性)	慢性期にある患者と家族の特徴を理解し、患者自ら疾患や障がいの悪化予防と健康の維持・増進、QOLの向上に向けて、セルフマネジメント能力を身につけるための援助の在り方を学ぶ。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生涯発達看護論Ⅳ(老年)	加齢に伴う身体的、心理的、社会的変化が健康におよぼす影響や高齢者の発達課題、多様な能力(強み)を理解する。また健康課題をもつ高齢者とその家族を支える保健・医療・福祉制度を概観し、健康の維持、QOLの向上に必要な看護の役割とその基礎的知識を修得する。	
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論Ⅳ-① (老年)	加齢や疾患による諸機能低下が日常生活におよぼす影響とその援助技術と適用方法について学ぶ。健康課題をもつ高齢者とその家族、多様な看護活動の場を認識し、看護の専門性を考察する。 (オムニバス方式・共同(一部)／全30回) (12 長尾匡子／10回) 高齢者の心肺機能の低下と看護、高齢者の排尿障害と看護、高齢者の感覚器の障害と看護、高齢者の皮膚疾患とその治療と看護、高齢者の褥瘡と看護、高齢者の転倒、骨折と看護について学ぶ。 (12 長尾匡子・22 有田弥棋子／14回) 高齢者疑似体験演習、高齢者の排泄援助演習、高齢者の移動援助演習、ライフヒストリーを活用した高齢者とのコミュニケーション演習を行い、必要な看護について学修する。 (71 山本美輪／2回) 認知症の人とその家族への看護について学ぶ。 (71 山本美輪・12 長尾匡子・22 有田弥棋子／4回) 認知症高齢者の事例演習:認知症高齢者の事例を用い、科学的根拠にもとづくアセスメント、看護課題の抽出、看護実践計画の立案を行い、発表する。	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論Ⅳ-② (老年)	グループワークを通して実習で体験した事例(事柄)を看護理論および倫理面から考察し、求められる看護と今後の看護の可能性について追及する。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論実習Ⅳ-① (老年)	生活者として的高齢者を知り、多様な能力に気づき、幅広い年齢層の健康ニーズについて理解する。生活者としての高齢者が理解できる。高齢者との関係性を築くため、相手を尊重したコミュニケーションをとる。高齢者が受けているケアの目的は何か理解する。高齢者および家族の生活を支える地域サービスの役割について理解する。地域サービス機関における看護職や関係職種との役割について理解する。	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 生活機能支援論実習Ⅳ-② (老年)	加齢や疾患による諸機能低下が日常生活におよぼす影響とその援助技術と適応方法の実際を体験し必要な看護を実践できる基礎的能力を修得する。高齢者施設入所者への看護の専門性と多職種連携の理解、高齢者の自立支援における看護の役割が理解できる。加齢や疾患による機能低下や障害により発生する問題をアセスメントする。残存機能の維持向上と自立支援に必要な制度の活用の実践について説明する。高齢者の尊厳を保ち安全で安心な生活を送るために必要な看護の実際について説明する。認知症高齢者の全人的な看護の実際を体験し、必要な看護を実践できる基礎的能力を修得する。高齢者のエンド・オブ・ライフについて学んだことを考察する。QOLの視点および個性を尊重した看護を展開する。	共同
専門教育科目	専門科目	ライフサイクルと看護 エンドオブライフケア論	看護の対象となる人が最期までその人らしく生を全うできるよう支援するために、人間の生理的機能が不可逆的な状態に陥る疾病の終末像の理解、人の死と死にゆく人を愛する人の心の理解、エンドオブライフの全人的苦痛を軽減・緩和できるように支援するために必要な看護職としての責任や役割について学修する。自己の死生観を深め、死にゆく人やその人を取り巻く人々と向き合う姿勢を養う。 (オムニバス方式・共同(一部)／8回) (⑦ 吉田智美／5回) エンドオブライフケアにある人の理解と包括的アセスメント、エンドオブライフにある人の症状緩和療法とケア、エンドオブライフにある人と家族の心理的支援技術、エンドオブライフにある人と家族を支えるチーム体制の理解と役割遂行について学ぶ。 (⑫ 秋山正子／2回) 死生観と死の準備教育、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)について学修する。 (⑦ 吉田智美・⑫ 秋山正子／1回) エンドオブライフケアの実践例	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 メンタルヘルス・アセスメント	人々と家族の心の健康・不健康のアセスメント、心の機能と発達、精神保健と人間関係、精神の健康に関する普及啓発、精神状態に影響する社会問題について学ぶ。 (オムニバス方式／8回) (② 美王真紀／5回) 精神の健康の概念、心の機能と発達、精神の健康に関する普及啓発・精神医療の歴史、精神の健康とアセスメントについて学ぶ。 (25 高橋篤信／3回) 精神の健康とマネジメントとして、心身相関と健康、患者と家族の精神の健康、コメディカルスタッフの精神の健康、心理社会的アセスメントを行う上での面接技法について学ぶ。	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 メンタルヘルス・プロモーション	メンタルヘルス・アセスメントの学修に引き続き、メンタルヘルス問題の予防、すなわち精神の健康保持増進と疾病の予防を目指し、地域で日頃行う行動や保健活動について理解する。地域精神保健活動(個人・家族・地域のメンタルヘルス)を精神保健の第一次予防、第二次予防、第三次予防や、精神の健康の啓発活動、職場の管理センターの精神障害の早期発見や社会復帰、就職支援、地域でのピアグループ活動や自助組織、地域連携、地域包括支援など広い視野で理解する能力及び精神障害者は家族や地域社会からの理解が不十分であることが生きにくさにつながると考える能力を育成する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	コミュニケーションと看護 生活機能支援論Ⅴ-① (精神)	精神疾患についての治療法や考え方、それらを踏まえた上での精神科看護について講義を行う。また、アクティブ・ラーニングを通して、相互学修を行うことにより、自身の考え方だけでなく他者の考えを知り、精神障害についての理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (① 西垣里志/8回) 精神看護の対象理解を行うため、援助的関係の形成・プロセスレコード(ペプロウ・オーランド・ウィーテンバック理論)、看護過程 オレム・アンダーウッドのセルフケア理論、精神障害者の捉え方(リカバリ、ストレングス、WRAP、オープンダイアログ)について学ぶ。精神科で用いられる検査・治療を受けている患者の看護として、作業療法、認知行動療法、SST(ソーシャルスキルトレーニング)を学ぶ。主な精神疾患を持つ人の看護について学修する。 (25 高橋篤信/7回) 精神科で用いられる検査・治療を受けている患者の看護として、心理検査、画像検査、薬物療法、精神療法、電気ショック療法について学ぶ。主な精神疾患を持つ人の看護について学び、精神障害者の人権を考え、グループディスカッション・発表を行う。	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	コミュニケーションと看護 生活機能支援論Ⅴ-② (精神)	生活機能支援論実習Ⅴ(精神)終了後に精神障がいをもつ人のセルフケア支援及び援助的人間関係について看護実践能力をアクティブ・ラーニング(AL)を用いた演習を通して深める。実習で経験した精神障がいをもつ人の看護事例を振り返り、課題を見出し看護過程の演習する。看護事例の課題について適切なアセスメントを行い看護場面のロールプレイを実施して看護実践能力を高める。実習のコミュニケーション困難場面を振り返り、再度、プロセスレコードを通して援助的人間関係の学び直しができる。精神看護の看護観をまとめる。	共同
専門教育科目	専門科目	コミュニケーションと看護 生活機能支援論実習Ⅴ (精神)	精神に障害を持つ対象とのかかわりを通して、生命の尊厳、人間としての基本的な権利を尊重する基本的姿勢を涵養できる。また、精神に障害を持つために、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に生かし、人格を有する全人的存在として、個性を尊重したケアを実践できる基礎的能力を育む。	共同
専門教育科目	専門科目	コミュニケーションと看護 地域包括ケア論Ⅰ(在宅)	病気や障害をもちながら地域で療養する人とその家族のQOLの維持・向上に向けた看護を実践するために必要な基礎的知識を理解する。在宅看護が必要とされる社会的、政治的背景を踏まえ、在宅看護の理念と機能、療養者と家族の特性とニーズ、在宅看護に関連する制度やケアネットワーク、ケアマネジメントの機能、地域包括ケアシステムの構築、その中での保健・医療・福祉の連携・協働の必要性について理解する。また、医療機関と地域をつなぐ退院支援の考え方と実際を学び、対象者の生活を中心に考える継続看護の重要性について理解を深める。在宅で療養する人と家族の権利擁護、在宅看護における安全の確保、訪問看護ステーションの運営等を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (① 岩澤和子/5回) 在宅看護の歴史の変遷を学ぶ。在宅療養を支える社会資源として、医療保険制度、在宅医療の現状、介護保険制度、障害者(児)、難病、高齢者等の具体的な内容を学ぶ。 (⑧ 阪上由美/10回) 在宅看護の目的と特徴を学び、在宅看護の対象者の特徴と在宅看護実践と理論について学修する。地域包括ケアとケアマネジメント、退院支援と継続看護、在宅における安全危機管理、在宅看護における権利保障について学修する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学部看護学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目 コミュニケーションと看護	<p>在宅看護が展開される場の特性を理解し、在宅療養者と家族のQOLの維持・向上にむけた看護を実践するために必要な基本的技術(日常生活援助技術・医療ケア等)について学ぶ。</p> <p>在宅療養者のライフステージと健康レベルに応じた基本的な看護の視点について理解し、地域で生活する在宅療養者と家族が生活する場における環境調整と看護展開、在宅で療養する人と家族のセルフケア能力の維持・向上のための看護を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(8 阪上由美／3回)</p> <p>在宅療養者の対象に応じた看護として、難病療養者・重症心身障害児と家族への看護、認知症・精神障害者と家族への看護について学ぶ。在宅看護過程の特徴と構成要素について学修する。</p> <p>(12 秋山正子／2回)</p> <p>要介護高齢者・フレイルな高齢者と家族への看護、がん療養者・家族へのエンドオブライフケアと看護について学ぶ。</p> <p>(12 秋山正子・29 中村千賀／4回)</p> <p>生活を支える生活支援技術と医療ケアとして、食事・栄養の援助、排泄の援助、清潔の援助、移動・移乗の援助について実践的学修をする。</p> <p>(8 阪上由美・29 中村千賀／2回)</p> <p>生活を支える生活支援技術と医療ケアとして、呼吸の援助、褥瘡管理・服薬管理について実践的学修をする。</p> <p>(8 阪上由美・12 秋山正子・29 中村千賀／4回)</p> <p>在宅看護過程の情報収集の方法と特徴・アセスメント・目標設定と計画立案についてグループワークを行い、学びを深める。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目 コミュニケーションと看護	<p>看護専門職として、地域で生活する人々の健康とQOL向上を支える視点を踏まえた地域看護および地域包括ケアの基本的な考え方を理解する。地域看護の概念および全体像、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションおよび地域包括ケアシステムの知識、対象者の健康レベルや発達段階に応じた支援等について、地域のヘルスニーズに対応した地域看護活動の展開と実践方法を学ぶ。また、健康で安全な地域社会の構築を目指した看護職の役割・機能について理解を深める。</p> <p>心身の健康支援について、教育相談やカウンセリングの基礎となる考え方を学び、人間関係の理論等を理解する。特に、児童生徒等の心身の健康支援における健康相談活動の基本的基礎理論と技法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(14 西村美八／7回)</p> <p>地域看護学の理念と機能、地域看護・公衆衛生の意義と理論、社会環境の変化と健康への影響、地域看護活動の展開の具体的な方法、発達段階に応じた活動、健康課題・障害に応じた活動について理解し、地域看護と地域包括ケアシステムにおける看護職の機能と役割について学ぶ。</p> <p>(1 岩澤和子／7回)</p> <p>健康相談・健康相談活動の基本的理解、児童生徒等の心身の健康問題の理解、児童生徒等の心身の健康問題の理解、健康相談活動の基本的な流れとプロセス健康相談活動の実際、特別支援教育と健康相談活動について学ぶ。</p> <p>(1 岩澤和子・14 西村美八／1回)</p> <p>地域看護活動の場による特性</p>	オムニバス方式・共同(一部)

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 地域包括ケア論Ⅳ(在宅)	<p>地域包括ケア論実習Ⅱ、地域包括ケア論実習Ⅲでの学びを主体的に振り返り、地域包括ケアシステムの現状を考察し、看護職として求められる専門職としての能力について科学的、論理的に探究する。学生間の相互学修をとおして、地域包括ケアにおける看護の役割への理解を深め、自己の課題や看護観を明確にする。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(⑧ 阪上由美／1回) オランダの地域包括ケアシステム(BuurtZorg:ビュートゾルフ)の実践例の紹介を行い、看護職を中心とした地域包括ケアシステムのあり方を学ぶ。</p> <p>(⑧ 阪上由美・⑫ 秋山正子・29 中村千賀／7回) 地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割について実習を通して学んだことを含め考察し、理解を深める。</p> <p>(① 岩澤和子・14 西村美八／4回) 地域包括ケアシステムにおける地域住民と生活・健康を支える看護職の役割と課題について実習を通して学んだことを含め考察し、理解を深める。</p> <p>(14 西村美八・① 岩澤和子・⑧ 阪上由美・⑫ 秋山正子・29 中村千賀／3回) 地域包括ケアシステムの概要と今後の課題、在宅・地域から考える地域包括ケアシステム</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 地域包括ケア論実習Ⅰ(老年)	<p>高齢者の特徴を理解するとともに、地域や施設で生活する高齢者を総合的にとらえ、高齢者の健康に関する顕在的・潜在的能力が発揮できるように看護活動を実践できる基礎的能力を養う。また、高齢者の生活を支える保健・医療・福祉職等、多職種連携・協働における看護師の役割について学ぶ。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 地域包括ケア論実習Ⅱ(在宅)	<p>在宅療養者とその家族の理解を深め、保健・医療・福祉サービス機関と連携・協働しながら在宅療養者の生活を支援する看護活動を展開できる能力を養う。在宅療養者とその家族のQOL向上を目指した看護活動の一連の展開方法を理解する。また、在宅ケアシステムにおける在宅ケアサービス機関の連携・多職種との協働の実際および社会資源の活用、訪問看護やケアマネジメントの機能を理解する。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 地域包括ケア論実習Ⅲ-①(統合:管理)	<p>看護師や看護管理者の看護実践や看護マネジメントを観察し、看護に対する考えを知ることにより、チームの一員としての看護に対する自己の考えを明らかにし、自己の看護観や倫理観の構築を目指す。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護 地域包括ケア論実習Ⅲ-②(統合:地域)	<p>これまでに修得した知識・技術を統合し、看護の対象となる人々が適切な健康状態を維持することができるよう看護ケアを提供するための科学的根拠に基づいた判断力、臨床実践能力を高める。特に、人々が生活する地域全体において、様々な発達段階、健康レベル、生活の場にある人々が、住み慣れた地域で生活を継続することが出来るようにするための地域包括ケアにおける保健医療福祉サービスの提供機関とその仕組みを理解する。また、多様な専門職および地域の人々と連携・協働し、看護職の役割を学ぶ。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護	<p>チーム医療論</p> <p>地域包括ケア時代において、看護師としての役割認識や役割遂行における協働・連携についての理解、チームの一員としての自覚とリーダーシップを発揮することの重要性の理解と実践力、サービスを保証する方法の理解や、他職種の専門性や役割を理解することで、チーム医療のありかたを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (7) 吉田智美／3回 チーム医療の歴史、チーム医療とは何か、チーム医療の実際と必要なスキルについて学ぶ。</p> <p>(1) 岩澤和子／1回 チーム医療を支える制度やチーム医療に関連した診療報酬について学ぶ。</p> <p>(21) 西山史江／3回 各専門職の役割、チーム医療の実際と課題、チーム医療における看護師の役割について学ぶ。</p> <p>(7) 吉田智美・21 西山史江／1回 今後のチーム医療を発展させるために担う看護師の役割について、グループワークとプレゼンテーションによって共有し、学びを深める。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護	<p>学校保健</p> <p>学校保健の役割のひとつは、幼児・児童・生徒・学生に安全な学習環境を提供し、健全な心身の成長発達を促すことにある。それぞれの発達過程に応じた健康ニーズを充足するための方法を知り、学校集団における幼児・児童・生徒・学生の健康問題を通して、学校保健の仕組みや健康管理について理解する。</p>	
専門教育科目	専門科目	コミュニティと看護	<p>養護学概説</p> <p>学校教育および学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭に必要な知識や基本的技術を学ぶ。養護教諭が行なう保健室実践、保健管理、保健教育、相談、援助実践、保健組織活動などの実際について事例や演習を通して理解する。また、専門職としての意識を高めるための基盤とする。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／15回) (17) 徳珍温子／12回 学校教育および学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭に必要な知識や基本的技術を学ぶ。また、専門職としての意識を高めるための基盤とする。</p> <p>(17) 徳珍温子・21 森田美紀／3回 養護教諭制度と職務内容、養護教諭の専門性について実践者の活動状況から学ぶ。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の発展	<p>看護マネジメント論 I</p> <p>良質で安全な医療を提供するために、組織管理、安全管理、質の管理、人的資源管理といった看護マネジメントの基礎的な知識を修得し、その課題について検討する。</p> <p>(オムニバス方式／全30回) (6) 松浦正子／20回 看護の制度と看護管理の歴史、情報管理・看護情報の活用、組織論看護サービス管理、看護における質保証、リーダーシップの基礎知識、人的資源管理、看護マネジメントに必要な知識と技術、看護サービスの質管理について学び、質の高い看護を提供するための看護マネジメントについて考える。</p> <p>(1) 岩澤和子／2回 保健医療福祉行政について、保健医療の動向と看護師の役割、医療保険と介護保険制度について学ぶ。</p> <p>(21) 西山史江／8回)専門職の責務と倫理、チーム医療・多職種連携、安全管理、感染管理について学ぶ。</p>	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護マネジメント論Ⅱ	<p>実習で経験した様々な事例を通して看護マネジメントに関する基礎知識と諸理論を学び、活用する力をつける。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全8回)</p> <p>(6) 松浦正子／5回 看護マネジメントという概念について学び、リーダーシップとは何か、リーダーシップを発揮するために必要なことについて実習経験を振り返り、リーダーシップ理論について学ぶ。社会や患者が看護に望むサービスについて学ぶ。</p> <p>(21) 西山史江／1回 多職種で構成するチーム間の連携について学ぶ。</p> <p>(6) 松浦正子・21 西山史江／2回 チームの中で看護師が発揮するマネジメント</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の発展 国際看護Ⅰ	<p>グローバル社会への理解を深め、異文化を背景にもつ世界の人々の健康課題を学ぶ。国際保健・看護の基礎を理解し、異文化看護への関心を高め、国際看護活動への興味をもてるよう学修する。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)／全15回)</p> <p>(11) 藤井知美／13回 国際看護の概念、開発協力の変遷と関連する理論/理念、国際看護に関連する組織と役割、世界の健康課題、文化をこえた理解、国際看護活動の実際、プライマリ・ヘルスケア(PHC: Primary Health Care)、「子どもが死んでしまう世界」を考える、世界的に拡大する感染症、グローバルヘルスとジェンダー、日本における国際看護の現状、看護職の国際移動、国際看護活動に必要な能力について学ぶ。</p> <p>(6) 松尾博哉・11 藤井知美／1回 グローバルヘルスと看護の実際</p> <p>(11) 竹中泉／1回 世界の看護の動向の具体例として、ウズベキスタン共和国看護教育改善プロジェクトへの派遣活動の実際を知る。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の発展 国際看護Ⅱ	<p>海外の医療福祉介護、看護現場を見学し、日本との違いを体験的に学び考察する。国際社会における看護活動および看護の果たす役割について考えを深め、キャリアの選択肢として国際的な看護活動の場を知る。</p>	
専門教育科目	専門科目	看護の発展 災害看護Ⅰ	<p>国内外の災害の実態を通して、災害看護の変遷を知り、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を概観する。常に看護職者として災害を意識しておく必要性を認識し、看護活動や支援体制の基盤となる知識を学修する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11) 藤井知美／14回 国内外における災害発生の実態、災害の定義、災害看護の定義、災害時の看護活動、災害時の看護職の活動の場、災害時要援護者に対する看護の特徴、災害ストレスと心身への影響、災害直後の被災者ケア、災害復興期の被災者ケア、災害対応に関連する組織、職種との連携、災害救援活動への参加、災害時における倫理、災害への備え</p> <p>(6) 松尾博哉／1回 災害時要援護者に対する看護の特徴とケア(妊産褥婦、災害下の妊産婦の救護)</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	看護の発展 災害看護Ⅱ	<p>災害支援の現場あるいはバーチャルあるいは模擬現場に参加し、災害看護活動の実際を体験して、災害救援に必要な看護者としての役割を理解する。災害各期における被災者支援のありかた、看護職として必要な技術や心のケアについて関心を深め、災害看護の課題と看護活動の可能性について考える。</p>	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の発展 キャリアデザインⅡ	<p>自己の看護職としてのキャリアデザインを描くに当たって、基本となる自己イメージの重要性とその理解につながるキャリア理論や概念を学修する。又、看護職のキャリアモデルによる授業を通して自身のキャリアデザイン形成につなげ、主体的にキャリアを積み重ねることができる基礎的な能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(6) 松浦正子/10回) キャリア論を理解し、キャリア理論を基に、自己のキャリアデザイン形成に当たって必要な要素を考えることができる。 看護職のキャリアパス・キャリアモデルからの学び①看護管理者への道</p> <p>(7) 吉田智美/1回) キャリアモデルからの学び②専門看護師への道</p> <p>(1) 岩澤和子/1回) キャリアモデルからの学び③看護行政官・保健師への道</p> <p>(2) 遠藤俊子/1回) キャリアモデルからの学び④助産師への道</p> <p>(8) 阪上由美/1回) キャリアモデルからの学び⑤訪問看護師への道</p> <p>(21) 森田美紀/1回) キャリアモデルからの学び⑥看護教諭への道</p>	オムニバス方式
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護研究Ⅰ	<p>看護における研究の定義や意義および多様な研究方法を学び、科学的に探究する能力を養うとともに、自己の看護研究のテーマに結び付ける。</p> <p>(オムニバス方式・共同(一部)/全15回)</p> <p>(2) 遠藤俊子/8回) 看護における研究の意義と役割として、研究とは何か、看護における研究の特徴、看護研究における倫理的配慮について学ぶ。研究過程の概要では、研究テーマの設定、文献検索、概念枠組みの明確化、方法の選定、研究計画書の作成、データ収集・分析、考察、結果の公表(論文作成)について学修する。概念枠組みと仮説の設定について学ぶ。研究デザインとしての事例研究について学修する。研究計画書の意義と書式では、研究計画書のフレーム、研究倫理委員会の役割を理解する。データの収集と分析、研究結果の公表(論文の作成)や活用について学修する。</p> <p>(21) 西山史江/1回) 研究デザイン:質的研究について学ぶ。</p> <p>(14) 西村美八/1回) 研究デザイン:量的研究について学ぶ。</p> <p>(2) 遠藤俊子・21 西山史江/5回) 文献検索、文献検討、文献ノートの作成、研究計画書の作成の実際を行い、学びを深める。</p>	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護研究Ⅱ	<p>研究テーマを明確にするために文献検索・検討を行い、文献ノートを作成し研究テーマを絞り込む。次いで、研究計画書を作成する。授業の2回目以降は、学生を5~6人のグループに編成をして、1グループ1教員が継続的に研究への理解を深めるための指導を行う。</p> <p>・看護研究Ⅱの進め方として、自己の関心あるテーマの暫定的記述と文献 文献検討の意義と方法について理解する。</p> <p>・文献の検索概要、検索の実際、クリティカルリーディング、文献一覧の作成、研究デザインの決定と研究方法、研究倫理、研究計画書の作成をする。</p>	共同
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護研究Ⅲ	<p>看護研究Ⅱで作成した研究計画書に基づいて、自己の研究テーマに取り組む。看護研究Ⅱで作成した研究計画書に基づいて、看護研究Ⅱで担当した教員の指導の下で研究倫理審査を受け、研究依頼を行い、研究データの収集、分析までをグループで取り組む。</p> <p>・看護研究Ⅲの進め方、研究実施過程のリフレクションについて</p> <p>・研究倫理審査の受審手続き、研究依頼手続き等、論文の作成について</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護研究Ⅳ	看護研究Ⅲに引き続き、同じ教員による指導の下で、同じ学生グループで研究論文を作成し、研究内容を公表する。 ・看護研究Ⅳガイダンス、抄録集の作成、発表会について、発表会を終えてリフレクション ・研究論文作成、抄録作成、発表準備、発表会	共同
専門教育科目	専門科目	看護の発展 専門職論	専門職の特質や基準を理解し、日本における看護の専門職としての現状を知る。これからの看護専門職としての役割を見据えた国内外の教育制度、専門職としての発達について学び、自己の看護観を深め、専門職としての自律性について考える。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (〔6〕 松浦正子／5回) 専門職の特質や基準を理解し、日本における看護の専門職としての現状を知る。これからの看護専門職としての役割を見据えた国内外の教育制度、専門職としての発達について学び、自己の看護観を深め、専門職としての自律性について考える。 (〔7〕 吉田智美／2回) より専門性の高い看護職の養成・認定制度、専門職間の連携・協働について学ぶ。 (〔6〕 松浦正子・〔7〕 吉田智美／1回) 看護を取り巻く社会の状況を考察し、自己のキャリア形成への展望について考える。	オムニバス方式・共同(一部)
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護政策論	政策や政策過程、看護政策やその影響について理解し、看護者が働く保健医療福祉の現場における実情や変革に及ぼす看護政策の影響について考えることができる能力を育成する。また、看護政策や政策過程に関心を示し、将来に看護政策への参画の意義やその方法を理解できる能力を育成する。	
専門教育科目	専門科目	看護の発展 看護教育学Ⅱ	教授学修評価過程における学修者と学修者・教員との相互作用や看護教育評価の意義、学修者主体の教育方法について理解を深める。看護教育の現状における課題を理解し、継続教育の必要性、及び自己のキャリア開発を探究する姿勢を身につける意味を考える。	

授 業 科 目 の 概 要

(看護学部看護学科)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職科目 教育の基礎的理解に関する科目	教育原理	教育の意義や目的について理解し、現代の学校教育の問題を認識し、望ましい教育の在り方が考察できる。教育に対する正しい見識を持つとともに、将来の教育者、保育者としての自覚と責任意識を身に付ける。教育思想史からみる教育の意義と目的、人間の発達と教育、現代の家庭教育や学校教育の諸課題、学校・教育諸制度を中心に講義する。学生には、自分の育ち、受けてきた教育を振り返り、今日的な教育諸問題に関心と意識化を図り、講義の深まりをねらう。	
専門教育科目	教職科目 教育の基礎的理解に関する科目	教職論	教職の意義と教員の役割、教員の職務内容(研修、服務、身分保障等を含む)、職場の人間関係、保護者や地域社会との関係など、子どもをめぐる環境の変化と教師のしごとの変化に関する諸問題の検討を通じ、現代日本の教師の在り方を考える。	
専門教育科目	教職科目 教育の基礎的理解に関する科目	教育制度論	日本および諸外国の教育制度について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき設計され、その背景にある思想が制度を歴史的・社会的に成立させてきた。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、諸外国との比較を交えて、それらを構成する制度のしくみの展開や課題を検討する。さらに学校での教育活動を支える教育行政の組織やその働き、学校経営のしくみについて理解を深めていく。	
専門教育科目	教職科目 教育の基礎的理解に関する科目	教育心理学	幼児・児童及び生徒に関する心身発達と学習過程について、基礎的な知識を獲得し、実場面の教育指導に関する基礎的な考え方を習得すること。さらに、当該教育領域に新しい知見が現れてもすぐに対応出来る人材育成をする。特に、考える習慣を身につけることを念頭に、パワーポイント教材を活用しながら、実際場面における課題を視覚的かつ模擬的に提示し、これらの課題解決への取り組みをレポート応答させる形式を随所に織り込む。加えて、クイズ形式の小問題も適宜出題する。確たるエビデンスに基づいた教育展開へ期待し、簡単な心理学実験演習課題も織り込んだ授業展開を行う。	
専門教育科目	教職科目 教育の基礎的理解に関する科目	特別支援教育	障害の思想と理念、特別支援教育の理念を基礎基本に据え、障害のある幼児児童生徒に対する教育・指導・支援の在り方を修得し、演習を通して適切かつ有効な実践的支援力を養う。	
専門教育科目	教職科目 教育の基礎的理解に関する科目	教育課程論	学校教育における教育課程の意義とその役割を理解し、教育課程編成の重要性について学び、教育実践に必要な基礎的な知識を学ぶ。 また、教育課程の編成を行う方法等に関する事項について学習指導要領から基礎的・理論的な理解を図り、世界的な教育改革の動向を踏まえ、教育課程の内容や方向性の認識を高める。また、教育課程の点検や評価についての理解を深め、教育現場での実践力を向上するために、講義を中心として基本的な理解を図り、発問および討議を織り交ぜて考察を深めていく。	
専門教育科目	教職科目 指導法、総合的な学習の時間等の指導、教育的指導、教育相談等に関する科目	道徳教育の理論と方法	道徳教育を実施する教育者として、道徳教育の歴史的変遷や、道徳科として教科化した背景を学び、道徳教育の意義について認識を深める。その上で、道徳教育を実践するために、子ども一人ひとりの実態を把握し、他教科と関連させながら発展していくことができる、年間指導計画や学習指導計画作成の意義を理解し、実際に作成し、模擬授業と振り返りを行う。将来の教育者として、道徳的価値に対する偏った意見にならないよう、他者との話し合いを通して多面的・多角的な捉え方をしたり、積極的に他者の長所を見つけ、認めたりすることを意識していく。	
専門教育科目	教職科目 指導法、総合的な学習の時間等の指導、教育的指導、教育相談等に関する科目	特別活動及び総合的な学習の指導法	特別活動について目標、内容及び指導方法を把握し、その意義および活用方法について理解する。集団活動の種々の面でのその活動方法を学ぶとともに、児童間のコミュニケーション能力を高める方法を知るために、学生自身がアクティブ・ラーニングを体験することによって、「特別活動」をより効果的に運営できるようになる。 総合的な学習の時間の目標、内容及び指導方法を把握し、その意義および活用方法について理解する。児童・生徒が身に付けるべき思考力・判断力・表現力等および学びに向かう力、人間性等のあり方について考察し、そのために必要な探究課題の設定方法を軸に総合的な学習の時間のあり方について理解する。	

授 業 科 目 の 概 要				
(看護学部看護学科)				
科目区分	授業科目の名称		講義等の内容	備考
専門教育科目	教職科目	教育の方法と技術	<p>「児童・生徒が如何にして学びに向かうか」の場を創り出す授業の創造について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回)</p> <p>(3) 深川八郎／8回 日本の学校教育における授業の歩み、問題解決学修の授業構想、総合的学習について学ぶ。</p> <p>(28 井内伸栄／7回) 授業におけるICT活用と効果、授業に情報活用する能力について学ぶ。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	教職科目	生徒指導	<p>生徒指導は、全ての児童生徒を対象に、教育目標である人格形成に向けて学校生活全体を通じ日常的に行われるものであることを理解し、生徒指導の意義を考える。また、問題行動、いじめや不登校など事例検討を通して実践的な指導力を養い、児童生徒の自尊感情や自己有用感が育まれるような場や機会の設定の在り方について例示する力を身につける。さらに、進路指導を包括するキャリア教育の意義や原理を理解し、教育活動全体を通じた指導の在り方を検討する。</p>	
専門教育科目	教職科目	教育相談	<p>幼稚園および小学校・中学校・高等学校における教育相談の意義と理論を理解し、カウンセリング・マインドの必要性と基礎的な姿勢・技法を理解することを目標とする。また、子どもおよび保護者に対する教育相談を行う際の計画の作成や進め方を学び、あわせて組織的な取り組みの必要性を理解する。幼稚園や小学校・中学校・高等学校など集団における適応能力の発達、個々の心理的特質や教育的課題等、事例を用いて授業を展開する。また、パーソナリティの発達や自我の防衛機制についても解説し、児童期における心身の発達のバランスについても理解を深める授業内容とする。</p>	
専門教育科目	教職科目	事前及び事後指導(養護)	<p>事前指導においては、養護実習の目的を理解し、既修学修の内容を踏まえて養護実習の意義と目的、目標を明確化し、児童生徒・保健室運営・保健指導・保健教育・学校・教育への理解を深める。 事後指導では、養護実習で体験した養護・教育・目指す養護教師像を振り返り、考察する。</p>	
専門教育科目	教職科目	養護実習	<p>児童・生徒および養護教諭を中心とした教職員との交流を通して、学校における保健教育、保健管理、安全教育、学校保健や学校安全の組織管理について理解する。学校保健や学校安全がどのような理念および体制で管理運営されているのかを、保健室の活動に参加し、理解を深める。</p>	
専門教育科目	教職科目	教職インターンシップ	<p>幼稚園、小学校・中学校・高等学校教育における授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を半期に渡って観察、体験し、学校における教育活動についての、具体的理解を深める。学校教育の様々な場面を観察し、教員の業務について知り、学校における教育活動における具体的理解を深める。また、学校における、教員と幼児・児童との関係について具体的理解を深める。</p>	
専門教育科目	教職科目	教職実践演習(養護教諭)	<p>児童・生徒および教職員との交流を通して、学校で展開されている教育活動、教職員及び児童・生徒の学校での生活を体験的に理解する。公教育機関である学校が、どのような理念や体制で運営されているのかを、教師としての立場から理解する。学校の運営計画や教育課程、校務分掌、服務規程など学校を支える制度について理解する。</p>	

学校法人 大阪信愛女学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				大阪信愛学院大学 大学新設				
				教育学部				
				教育学科	80	-	320	
				看護学部				
				看護学科	80	-	320	
				計	160	-	640	
大阪信愛学院短期大学				大阪信愛学院短期大学				
				子ども教育学科				
				子ども教育学科	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
				看護学科				
				看護学科	0	-	0	令和4年4月学生募集停止
				計	0	-	0	